

資料編

■ 邑南町地域保健福祉計画策定委員会委員名簿

	役職	氏名	所属	
1		岸本 泰子	島根県	県央保健所長
2		日高 亘	邑南町議会	総務教育常任委員長
3		山本 忠徳	邑南町	邑南町助役
4		三上 巖信 ・大隅 泰 兼任	医療機関の代表	邑智郡医師会
5		服部 巖	各種団体の代表	社会福祉協議会会長
6		三上 巖信		徳祐会理事長
7		日高 勝明		おおなん福祉会理事長
8		洲濱 哲夫		瑞穂福祉会理事長
9		大隅 泰		石見さくら会理事長
10		日高 昭登		邑智福祉振興会理事長
11		嘉戸 哲治	学校代表	阿須那小学校校長
12		能美 恭志	PTA代表	邑南町連合PTA会長
13		柘植 三義	住民組織の代表	邑南町老人クラブ連合会会長
14	副会長	吉貝 光雄		邑南町民生児童委員会会長
15		平野 寿昭		邑南町身体障害者福祉協会会長
16		小泉 義則		邑南町手をつなぐ親の会会長
17		益田 勲		邑南町精神障害者家族会会長
18		天川 藤信	住民代表	公 募
19		鍵本 和雄	住民代表	
20		三上 照江	住民代表	
21	会 長	服部 一伸	学識経験者	

■ 邑南町地域保健福祉計画作業部会委員名簿

地域福祉作業部会			所 属
1	委員	上田 実	社会福祉協議会
2		森脇 伶	民生児童委員
3		天津 多満江	住民
4	(部長)	森脇 幹夫	住民
5		前田 幸子	住民
6		中村 昌史	住民
7		和田 恵子	福祉課職員
8	庶務リーダー	日高 久志	福祉課職員
9	庶務	竹野 勝治	福祉課職員
高齢者作業部会			所 属
1	委員	三上 保	社会福祉協議会
2		長谷川美智子	介護サービス提供者
3	(部長)	曾根田 勇	あさざり
4		三上 佐代子	徳祐会
5		川中 幸子	桃源の家
6		植田 利江	香梅苑
7		井上 晃紀	民生児童委員
8		土崎 しのぶ	保健課職員
9		青木 美鳥	福祉課職員
10	庶務リーダー	高橋 美貴子	福祉課職員
11	庶務	片桐 政彦	福祉課職員
障害者福祉作業部会			所 属
1	委員	井川 隆英	社会福祉協議会
2		坂口 秀司	瑞穂福祉会
3	(部長)	川中 静親	緑風園
4		山本 明子	はあもにいはうす
5		服部 卓夫	愛香園
6		三宅 幸徳	くるみ学園
7		森本 幸子	県央保健所健康増進G課長
8		岸本 茂子	民生児童委員
9		安田 裕子	保健課職員
10		新田 英隆	福祉課職員
11	庶務リーダー	佐々木 孝義	福祉課職員
12	庶務	賀美 敦	福祉課職員

児童部会			所 属
1	委員	古川 浩子	羽須美地域保育所代表
2		酒井 眞知子	瑞穂地域保育所代表
3	(部長)	白川 富美子	石見地域保育所代表
4		森脇 真由美	子育て支援センター
5		宮本 規子	子育て支援センター
6		森田 順子	教育委員会学校教育課
7		服部 幸朗	教育委員会生涯学習課
8		坂本 晶子	保健課職員
9	庶務リーダー	升田 進	福祉課職員
10	庶務	田村 哲	福祉課職員
健康21作業部会			所 属
1	委員	沖原 典子	県央保健所健康増進G
2		木原 典子	矢上小学校養護教諭
3		的場 秀夫	石見町商工会指導員
4	(部長)	大矢 寿々美	食の推進員副会長
5		伊藤 岩夫	運動サポーターリーダー
6		片岡 幸子	健康づくり自主グループ
7		洲濱 信夫	生涯学習課
8		上田 秀敏	町民課国保係
9		井上 涼子	保健課・保健師
10		上田 郁子	保健課・保健師
11		上田 千香子	保健課・保健師
12		沖野 幾子	保健課・栄養士
13		藤住 由紀子	保健課・歯科衛生士
14	庶務リーダー	大矢 輝美	保健課職員
15	庶務	甲山 尚江	保健課職員

■ 邑南町地域保健福祉計画策定委員会設置要綱

(設 置)

第1条 邑南町地域保健福祉計画の策定にあたり、町民や関係者の意見を反映させるため邑南町地域保健福祉計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 邑南町全体の保健、福祉の実態を把握し、総合的なサービスの評価と課題

(2) 邑南町全体の保健福祉のサービスの方向性

ア 母子保健施策に関すること。

イ 地域福祉施策に関すること。

ウ 高齢者施策に関すること。

エ 子育て支援に関すること。

オ 障害者施策に関すること。

(策定委員の組織)

第3条 策定委員会委員は、21名とする。

2 委員は、町長が委嘱する。

3 委員の任期は、平成18年度末までとする。ただし、補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 策定委員会に会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、策定委員会を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 策定委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、議長となる。

2 会長が必要と認めるときは、策定委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

(部 会)

第6条 策定委員会に作業部会を置く。

2 部会員は、町長が委嘱する。

3 各部会に部長をおき、互選により選任する。

4 部会は、第2条の具体的な検討を行う。

(庶 務)

第7条 策定委員会の庶務は、邑南町役場福祉課において処理する。

(委 任)

第8条 この告示に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成18年8月9日から施行する。

(失効)

2 この告示は、平成19年3月31日限り、その効力を失う。

■ 邑南町地域保健福祉計画策定経過

年月	策定委員会	地域福祉作業部会	高齢者作業部会	障害者福祉作業部会	児童部会	健康 21 作業部会	事務局会議
平成 18年 8月							11日 第1回庶務担 当者会議
9月				4—25日 アンケート調査 票配布・回収			8日 第2回庶務担 当者会議 15日 第3回庶務担 当者会議 28日 第4回庶務担 当者会議
10月	12日 第1回策定委員 会	5日 第1回作業部会	5日 第1回作業部会	4日 第1回作業部会		3日 第1回作業部会 27日 第2回作業部会	12日 第5回庶務担 当者会議
11月		6日 第2回作業部会 21日 第3回作業部会	7日 第2回作業部会 20日 第3回作業部会	17日 第2回作業部会 30日 第3回作業部会	9日 第1回作業部会		17日 第6回庶務担 当者会議
12月		13日 第4回作業部会	21日 第4回作業部会	7日 第4回作業部会 20日 第5回作業部会		13日 第3回作業部会	22日 第7回庶務担 当者会議
平成 19年 1月		19日 第5回作業部会		19日 第6回作業部会	17日 第2回作業部会	16日 第4回作業部会	24日 第8回庶務担 当者会議
2月	1日 第2回策定委員 会						1日 第9回庶務担 当者会議
3月							

■ 邑南町地域保健福祉計画庶務担当者会議経過

年月	策定委員会	地域福祉作業部会	高齢者作業部会	障害者福祉作業部会	児童部会	健康21作業部会	事務局会議
平成18年8月				11日 第1回			11日 第1回庶務担当者会議
9月			29日 第1回	15日 第2回 28日 第3回	13日 第1回	13日 第1回 21日 第2回 26日 第3回	8日 第2回庶務担当者会議 15日 第3回庶務担当者会議 28日 第4回庶務担当者会議
10月	12日 第1回策定委員会	26日 第1回 31日 第2回	19日 第2回 23日 第3回 26日 第4回	2日 第4回 4日 第5回 12日 第6回	2日 第2回 26日 第3回	17日 第4回 26日 第5回	10日 第6回庶務担当者会議 12日 第7回庶務担当者会議
11月			8日 第5回 13日 第6回	8日 第7回 15日 第8回		22日 第6回 27日 第7回	17日 第6回庶務担当者会議
12月		7日 第3回 12日 第4回	1日 第7回 13日 第8回 15日 第9回	7日 第9回 13日 第10回		5日 第8回 7日 第9回 27日 第10回	22日 第7回庶務担当者会議
平成19年1月			17日 第10回	10日 第11回 22日 第12回	10日 第4回	9日 第11回 16日 第12回	24日 第8回庶務担当者会議
2月	1日 第2回策定委員会						1日 第9回庶務担当者会議
3月							

■ 邑南町障害者計画・障害福祉計画策定に係る調査結果考察

(本資料は、邑南町障害者計画・障害福祉計画策定に係る調査の中から概要をまとめ、考察を加えたものです。)

◇調査の概要

【調査方法】

調査の種類	① 身体障害者・知的障害者調査			
	② 精神障害者調査			
調査対象者	平成 18 年 9 月 1 日現在で町内に在住する 70 歳までの障害者手帳所持者			
	① 身体障害者手帳及び療育手帳所持者	調査数	501 名 (身体 409 名 知的 92 名)	
	② 精神障害者保健福祉手帳所持者		261 名	
	合 計		762 名	
抽出方法	悉皆(ただし、精神障害者保健福祉手帳を含む複数の手帳を所持する場合は、精神障害者調査の対象とし、身体障害者・知的障害者調査の対象からは除いている)			
調査方法	郵送による配布回収			
調査期間	平成 18 年 9 月 4 日から 9 月 25 日			
調査票回収数	①	250 名	回収率	49.9%
	②	127 名		48.7%
	合 計	377 名		49.5%
※白紙票は回収数に含めず				

【対象者の属性】

<年齢>

単位:%	18歳未満	18~39歳	40~64歳	65歳以上	無回答
身体・知的障害者調査(N=250)	1.6	6.8	36.0	50.0	5.6
身体障害者手帳所持者(N=210)	1.4	3.8	34.8	57.6	2.4
療育手帳所持者(N=47)	4.3	25.5	53.2	8.5	8.5
精神障害者調査(N=127)	7.1	37.0	42.5	1.6	11.8

<居住地区>

単位:%	口羽	阿須那	市木	田所	出羽	高原	布施・八色石	井原	中野	矢上	日和	日貫	無回答
身体・知的障害者調査(N=250)	6.4	10.0	6.0	10.0	6.4	5.2	0.8	4.8	22.4	16.8	4.4	5.2	1.6
在宅	5.2	9.6	6.0	8.4	6.0	5.2	0.4	4.8	12.4	15.6	4.0	4.4	0.4
施設	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	9.2	0.4	0.4	0.8	1.2
病院	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0
その他・不明	0.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害者調査(N=127)	1.6	5.5	0.8	7.9	7.9	4.7	1.6	3.9	48.8	8.7	3.9	1.6	3.1
在宅	1.6	4.7	0.8	4.7	0.8	3.9	1.6	3.1	8.7	7.1	3.9	0.8	1.6
施設	0.0	0.8	0.0	1.6	7.1	0.8	0.0	0.0	39.4	0.0	0.0	0.8	1.6
病院	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他・不明	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0

<生活の場>

身体・知的障害者調査				
区分	在宅	施設	病院	その他・不明
全地区(N=250)	82.4	12.8	2.8	2.0
口羽地区(N=16)	81.3	0.0	12.5	6.3
阿須那地区(N=25)	96.0	4.0	0.0	0.0
市木地区(N=15)	100.0	0.0	0.0	0.0
田所地区(N=25)	84.0	4.0	0.0	12.0
出羽地区(N=16)	93.9	0.0	6.3	0.0
高原地区(N=13)	100.0	0.0	0.0	0.0
布施・八色石地区(N=2)	50.0	0.0	50.0	0.0
井原地区(N=12)	100.0	0.0	0.0	0.0
中野地区(N=56)	55.4	41.1	1.8	1.8
矢上地区(N=42)	92.9	2.4	4.8	0.0
日和地区(N=11)	90.9	9.1	0.0	0.0
日貫地区(N=13)	84.6	15.4	0.0	0.0
無回答(N=4)	25.0	75.0	0.0	0.0

精神障害者調査				
区分	在宅	施設	入院	その他・不明
全地区(N=127)	43.3	52.0	0.0	4.7
口羽地区(N=2)	100.0	0.0	0.0	0.0
阿須那地区(N=7)	85.7	14.3	0.0	0.0
市木地区(N=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
田所地区(N=10)	60.0	20.0	0.0	20.0
出羽地区(N=10)	10.0	90.0	0.0	0.0
高原地区(N=6)	83.3	16.7	0.0	0.0
布施・八色石地区(N=2)	100.0	0.0	0.0	0.0
井原地区(N=5)	80.0	0.0	0.0	20.0
中野地区(N=62)	17.7	80.6	0.0	1.6
矢上地区(N=11)	81.8	0.0	0.0	18.2
日和地区(N=5)	100.0	0.0	0.0	0.0
日貫地区(N=2)	50.0	50.0	0.0	0.0
無回答(N=4)	50.0	50.0	0.0	0.0

1. 生活の場について

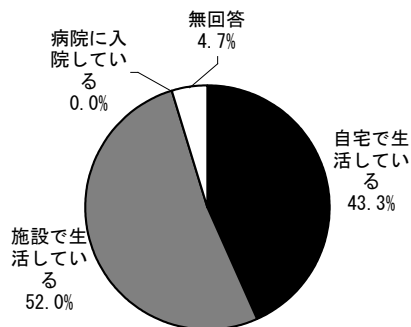
現在の生活の場については、身体では、自宅が大半を占めており【身・知：問7】、今後希望する生活の場では「今のままでよい」「家族と一緒に暮らしたい」が大半を占めていることから【身・知：問9】、在宅志向が強いことがうかがえる。知的では、障害者施設に住む人が約半数となっている。精神でも、施設で暮らす人が約半数となっているが、そのうち2割は「家族と一緒に暮らしたい」としている【精：問5、問8生活の場別クロス】

現在自宅に住んでいる人については、自宅生活を続けていくことへの支援が重要であるとともに、現在自宅以外で生活しており、かつ、自宅復帰を望んでいる人に対する受け皿と生活支援体制確保が望まれる。

【身・知：問7 所持手帳別クロス】(上位5項目) 現在のお住まい、あるいは生活の場はどこですか。

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者手帳 (N=210)	自分の家 86.7	障害者施設に入所 5.2	病院に入院 3.3	借家・アパート 1.0(同率4位)	公営住宅(県営・町営) 1.0(同率4位)
療育手帳 (N=47)	障害者施設に入所 48.9	自分の家 38.3	知的障害者グループホーム 6.4	借家・アパート 2.1(同率4位)	その他 2.1(同率4位)

【精】 問5 (SA) N=127 生活する場所はどこですか。



【身・知：問9 所持手帳別クロス】(上位5項目) 今後、暮らしたいと思うのはどれですか。

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者手帳 (N=210)	今のままでよい 71.4	家族と一緒に自宅で暮らしたい 32.9	生活の練習をするための施設やサービスを利用したい 6.2	専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい 5.2	無回答 1.9
療育手帳 (N=47)	今のままでよい 46.8	家族と一緒に自宅で暮らしたい 34.0	生活の練習をするための施設やサービスを利用したい 17.0	専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい 12.8	一人暮らしや結婚のために家を借りたい 8.5

【精：問8 生活の場所別クロス】(上位5項目) 今後、暮らしたいと思うのはどれですか。

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
自宅で生活している (N=49)	今のままでよい 77.6	家族と一緒に自宅で暮らしたい 34.7	一人暮らしや結婚のために家を借りたい 12.2	専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい 4.1(同率4位)	その他 4.1(同率4位)
施設で生活している (N=64)	今のままでよい 53.1	家族と一緒に自宅で暮らしたい 23.4	専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい 20.3	一人暮らしや結婚のために家を借りたい 10.9(同率4位)	生活の練習をするための施設やサービスを利用したい 10.9(同率4位)

2. 障がい者の抱える不安と相談相手について

現在の生活で困っていること・不安に思っていることについて、障害別で特徴を見ると、身体と精神では、「自分の健康や体力に自信がない」が、知的については「一人での外出が不安」が、それぞれ最も多くの回答として挙がっている【身・知：問 10、精：問 16】。身体では「交通機関の利用が不便」、知的では「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」、精神では「働くところがない」がそれぞれ5位以内に入っている。

困ったときの相談先は、3障害とも「家族」が最も多い【身・知：問 11、精：問 15】。知的では「サービスを受けているところの職員」が2位となっており、サービス提供者が相談先としても重要な役割を果たしていることがうかがえる。精神では「病院の医師」が2位となっており、医療とのつながりが深い実情がうかがえる。

これらのことから、障がい者の不安解決にあたっては、個々人の状況に応じて、相談先として選択されている医療機関やサービス提供事業者等との連携と情報共有も重要と言える。

【身・知 問 10 所持手帳別クロス集計(上位5項目)】困っていること・不安に思っていること

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者手帳 (N=210)	自分の健康や体力に自信がない	特に困っていることはない	生活に十分な収入が得られない	家族など介護者の健康状態が不安	交通機関の利用が不便
	36.7	33.8	20.0	19.0	18.6
療育手帳 (N=47)	一人での外出が不安	特に困っていることはない	家族など介護者の健康状態が不安	将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安	親友・友人がいない
	29.8	27.7	21.3	17.0	14.9

【精 問 16(上位5項目)】困っていること・不安に思っていること

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
精神障害者保健福祉手帳 (N=127)	自分の健康や体力に自信がない	特に困っていることはない	生活に十分な収入が得られない	一人での外出が不安	働くところがない
	29.1	25.2	22.8	18.9	18.1

【身・知 問 11(上位5項目)】相談相手

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者手帳 (N=210)	家族	友人・知人	病院	町役場福祉担当課	隣近所の人
	79.0	24.8	22.9	15.2	11.4
療育手帳 (N=47)	家族	サービスを受けているところの職員	友人・知人	病院	町役場福祉担当課
	53.2	46.8	14.9	8.5	8.5

【精 問 15(上位5項目)】相談相手

単位:%	1位	2位	3位	4位	5位
精神障害者保健福祉手帳 (N=127)	家族	病院の医師	友人・知人	病院	地域生活支援センター/相談する人はいない
	52.0	32.3	24.4	22.8	11.0

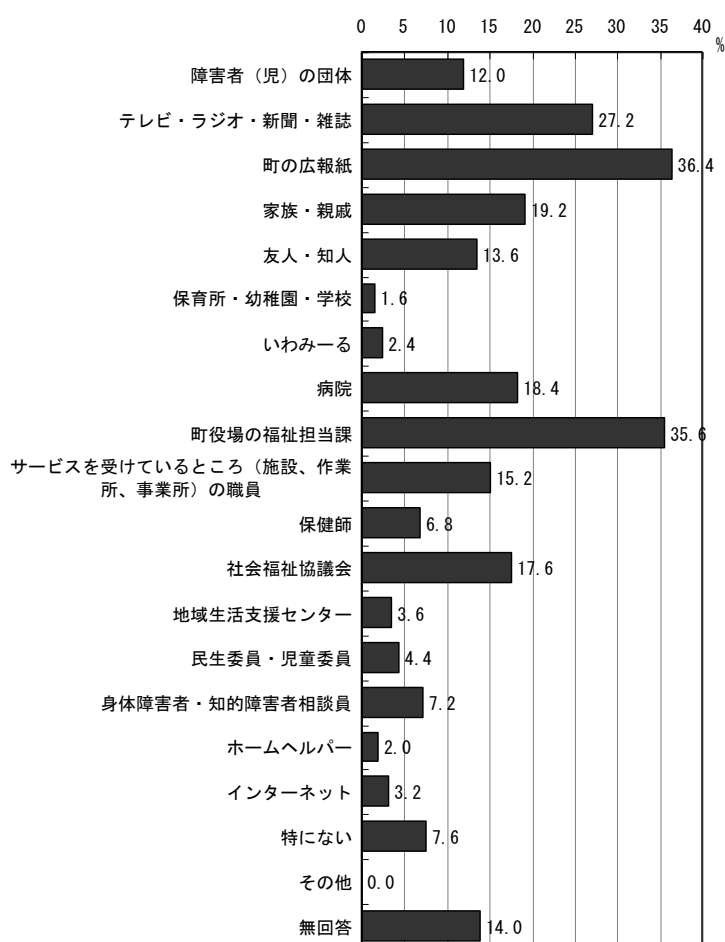
3. 情報提供について

情報の入手先については、「町の広報誌」「町役場の福祉担当課」に続き、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「家族・親戚」「病院」「社会福祉協議会」となっており【身・知：問 14】、町の果たす役割が大きいことがうかがえる。

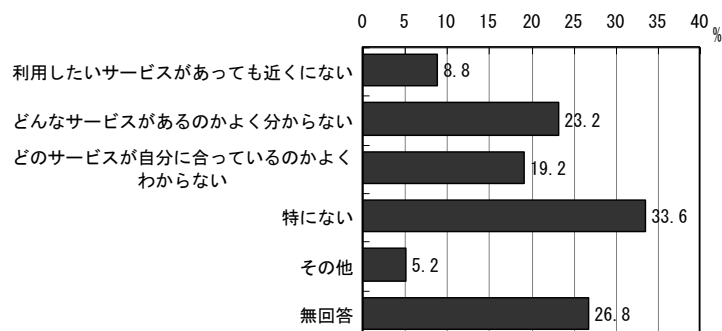
また、これまでサービス利用について不満や困ったことがあるかたずねた設問では、「どんなサービスがあるのかよくわからない」「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」がそれぞれ2割程度となっており【身・知：問 15】、今後とも確実な情報提供が望まれるとともに、ケアマネジメントの必要性がうかがえる結果となっている。

【身・知】

問14 (MA) N=250 サービスに関する情報の入手先



問15 (MA) N=250 サービス利用についての不満・困ったこと



4. 就労について

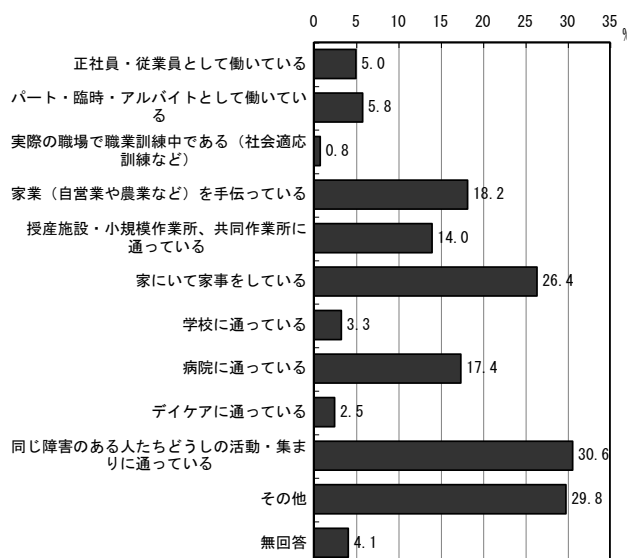
現在の就労状況は、身体・知的では18歳から64歳までの年齢区分でも、「常勤で仕事をしている」「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」の双方を合わせて5割以下にとどまっている【身・知：問27-(1)年齢別クロス】。精神では就労している人は1割程度に限られており【精：問9】、就労していない理由としては、「病気の症状が辛いから」「体力がついていかない」などが多く挙がっていて【精：問11】、障害とうまくつきあいながら就労する困難さがうかがえる。その状況の中でも、今後の過ごし方として「正社員・従業員として働きたい」「パート・臨時・アルバイトとして働きたい」や「職業に就くための力や技術を身につけたい」は現状の倍以上となっており、就労支援の充実が求められる。身体・知的でも、「現在は仕事をしていないが探している」が一定数挙がっており、希望する仕事に就くうえで解決を求める課題としては、「事業主の理解」や「専門的な支援員の配置」「他の従業員や顧客などの理解」等が比較的多く挙がっている【身・知：問30】。

【身・知：問27-(1) 年齢別クロス】(上位5項目) 就労の状況や形態

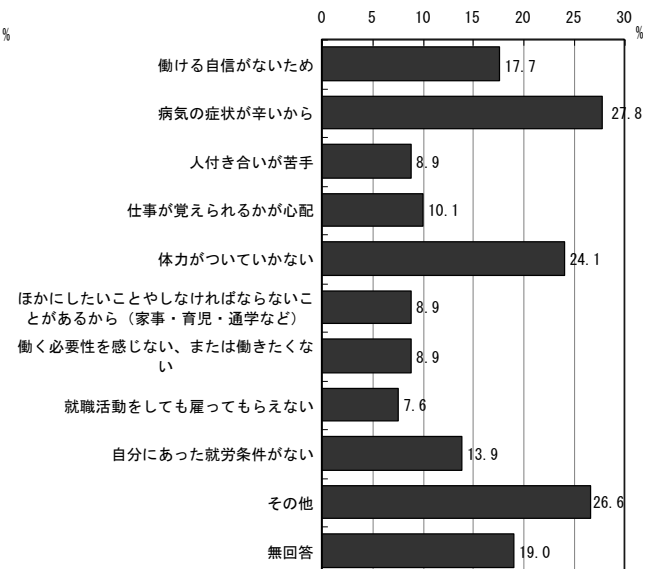
単位：%	1位	2位	3位	4位	5位
18歳未満 (N=4)	常勤で仕事をしている(福祉的就労を含む) 50.0	学校へ通っている 25.0(同率2位)	無回答 25.0(同率2位)	パートタイムやアルバイト(内職)の仕事をしている 0.0	現在は仕事をしていないが探している 0.0
18~39歳 (N=17)	常勤で仕事をしている(福祉的就労を含む) 47.1	無回答 23.5	その他 17.6	現在は仕事をしていないが探している 11.8	パートタイムやアルバイト(内職)の仕事をしている 0.0
40~64歳 (N=90)	常勤で仕事をしている(福祉的就労を含む) 28.9	仕事をしていない(就労を希望していない) 23.3	無回答 20.0	パートタイムやアルバイト(内職)の仕事をしている 11.1	その他 8.9
65歳以上 (N=125)	無回答 50.4	仕事をしていない(就労を希望していない) 27.2	その他 13.6	現在は仕事をしていないが探している 4.0	常勤で仕事をしている(福祉的就労を含む) 2.4

【精】

問9 (MA) N=121 日中の過ごし方

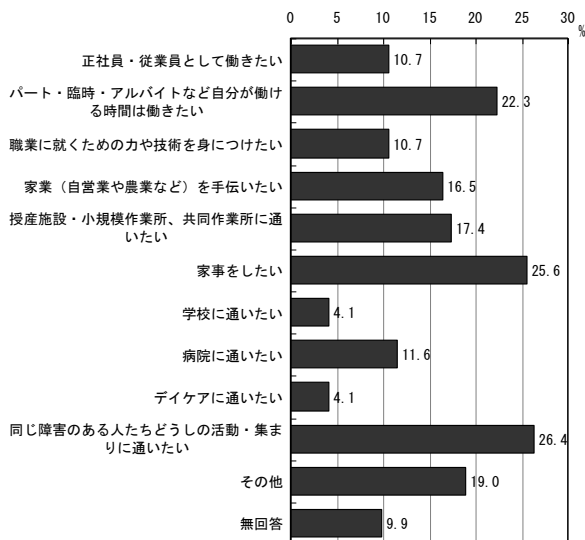


問11 (MA) N=79 働いていない理由



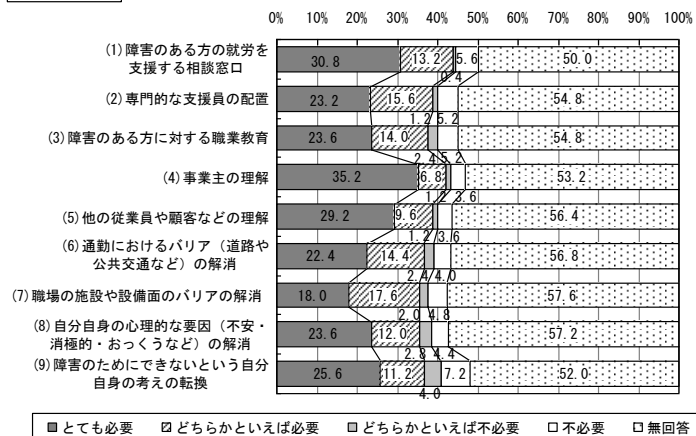
【精】

問10 (MA) N=121 今後の日中の過ごし方



【身・知】

問30 (SA) N=250 仕事に就くために解決が必要な課題

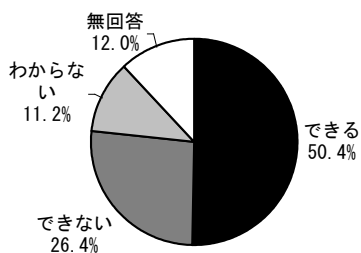


5. 災害対策について

災害が発生した場合、一人で避難することが「できる」とする割合は、身体・知的では約半数【身・知：問 35-(2)】、精神では約4割【精：問 18】となっている。逆に、半数以上の方は非難に不安を持っている状態といえ、地域防災の取組などを通じ、日ごろから災害時の不安を軽減しておくことが期待される。

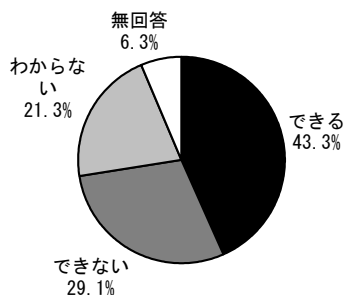
【身・知】

問35-(2) (SA) N=250 災害時に一人で非難できますか。



【精】

問18 (SA) N=127 災害時に一人で非難できますか。



6. 障害の地域理解について

日常生活において、差別や偏見、疎外感を感じることもあるかたずねた設問では、身体と比較して、知的の方がやや強く感じている傾向にある【身・知：問31】。差別・偏見を感じる場面としては、「人間関係」「地区の行事・集まり」「街角での人の視線」の割合が高く【身・知：問32】、身近な場面での関わりについて、地域住民が意識を高められる取組が期待される。

精神でも、障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことが「ある」人が4分の1を超えている。

【身・知 問31 所持手帳別クロス集計】日常生活において差別や偏見、疎外感を感じる時がありますか。

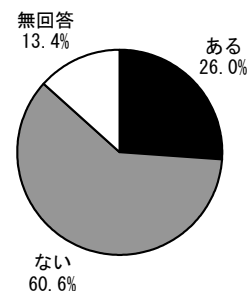
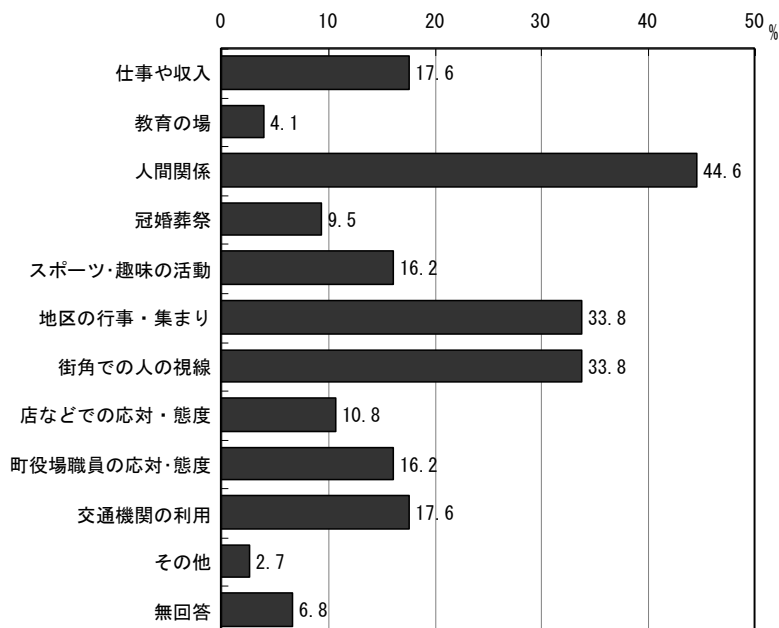
単位：%	よく感じる	ときどき感じる	ほとんど感じたことはない	まったく感じたことはない	無回答
身体障害者手帳(N=210)	9.0	27.5	33.5	29.9	9.0
療育手帳(N=47)	14.3	25.7	34.3	25.7	14.3

【身・知】

【精】

問32 (MA) N=74 差別や偏見、疎外感を感じたとき

問19 (SA) N=127 障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。

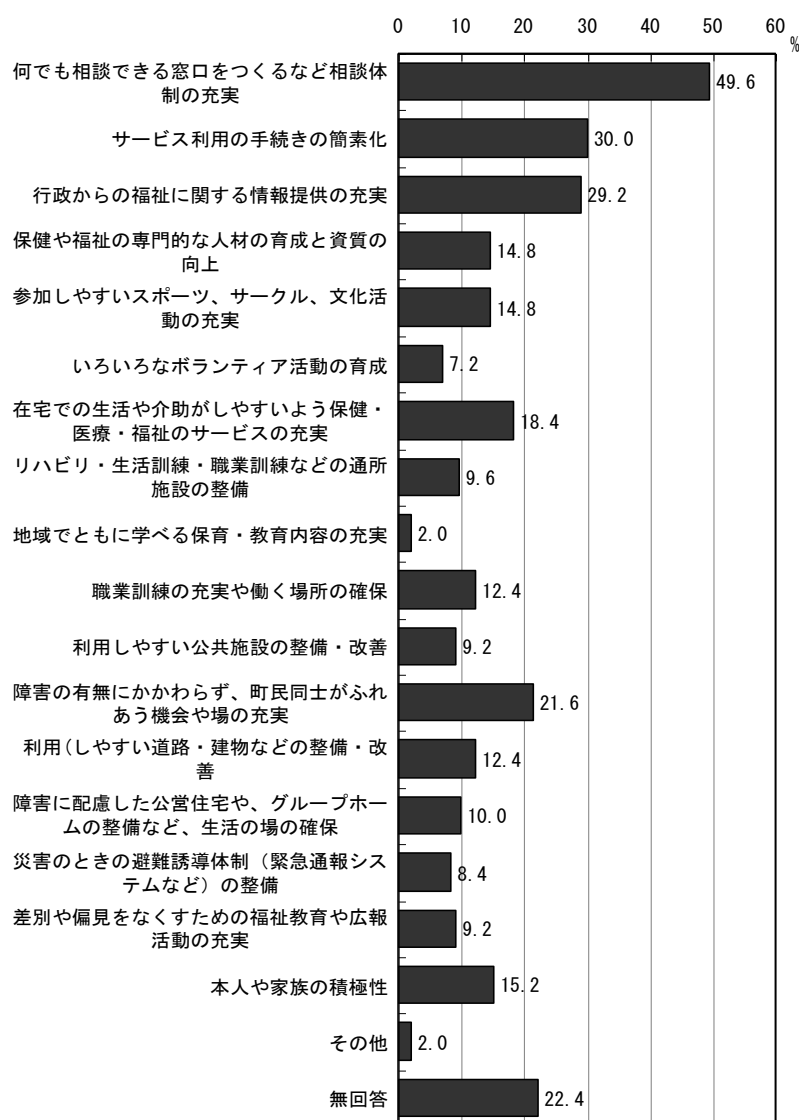


7. 住みよいまちづくりについて

障がい者にとって住みよいまちをつくるために必要なことを聞いた設問では、特に「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」がほぼ半数の人に求められており【身・知：問38】、このことによって様々な不安の解消につなげていくことが期待される。また、「サービス利用の手続きの簡素化」や「行政からの福祉に関する情報提供の充実」を求める人も多く、当事者および介護者の高齢化にも配慮しながら、適切な対応をしていくことが期待される。

【身・知】

問38 (MA) N=250 住みよいまちづくりに必要なこと



■ 邑南町健康増進計画各目標値のデータ根拠

1. 健康目標達成状況

- 平均寿命は、男性は延伸し、女性は短くなっています。
- 平均自立期間が男女ともさらに延伸しています。
- 全がん、脳卒中、虚血性心疾患の年齢調整死亡率は、男性はいずれも減少しています。女性は脳血管疾患は減少していますが、それ以外は増加傾向です。
- がんの年齢調整死亡率を壮年期で部位別にみると、男性はいずれも減少傾向です。女性は乳がん、大腸がんは減少していますが、胃がん、肺がん、子宮がんは増加しています。
- 高血圧は高い有病率です。糖尿病患者数も減少していません。
- 自殺の死亡率は、全年齢男性は減少、女性は増加しています。
- 残存歯は増加しています。

(1) 健康目標の状況

第1次健康増進計画は次の項目で設定しています。

【基本目標】

- ・平均寿命
- ・65歳における平均自立期間

【健康目標】

- ・脳血管疾患年齢調整死亡率（全年齢 壮年期）
- ・虚血性心疾患年齢調整死亡率（全年齢 壮年期）
- ・胃がん年齢調整死亡率（全年齢 壮年期）
- ・肺がん年齢調整死亡率（全年齢 壮年期）
- ・子宮がん年齢調整死亡率（全年齢 壮年期）
- ・大腸がん年齢調整死亡率（壮年期）
- ・乳がん年齢調整死亡率（壮年期）
- ・自殺死亡率（全年齢 壮年期 高齢期）
- ・糖尿病有病者数（40～74歳）
- ・高血圧者の割合（40～74歳）
- ・肥満者（BMI25以上）の割合（40～74歳）
- ・一人平均残存歯数（80歳代）

(2) 平均寿命

男性

	平成14年	平成17年	平成20年
邑南町		78.89 (5位/県)	80.37 (3位/県)
	平成10年	平成15年	平成20年
島根県	77.30	78.30	79.05
	平成12年	平成17年	平成22年
全 国	77.71	78.79	79.64

全国：簡易生命表（単年） 島根県：健康指標マクロ（注）

女性

	平成14年	平成17年	平成20年
邑南町		86.84 (6位/県)	85.19 (20位/県)
	平成10年	平成15年	平成20年
島根県	84.64	86.00	86.68
	平成12年	平成17年	平成22年
全 国	84.62	85.75	86.39

平成10年：H8-H12の5年平均
平成15年：H13-H17の5年平均
平成17年：H15-H19の5年平均
平成20年：H18-H22の5年平均

(3) 65歳平均余命・平均自立期間

男性

	平均寿命	平均余命	平均自立期間
邑南町	80.37	19.52	17.58
大田圏域	78.67	18.78	17.05
県	79.05	18.83	17.08

女性

	平均寿命	平均余命	平均自立期間
邑南町	85.19	24.55	20.84
大田圏域	86.21	23.99	20.73
県	86.68	24.10	20.73

健康指標マクロ：平成20年：H18-H22の5年平均

【平均寿命・平均自立期間】

・平成20年の平均寿命は男性80.37歳、女性85.19歳です。平成17年では男性78.89歳、女性86.84歳ですので男性は1.98年延びていますが、女性は1.65歳短くなっています。

・65歳における平均自立期間は男性17.58年、女性20.84年です。平成14年では男性16.77年、女性20.64年で、男性0.81年、女性0.2年と伸びています。

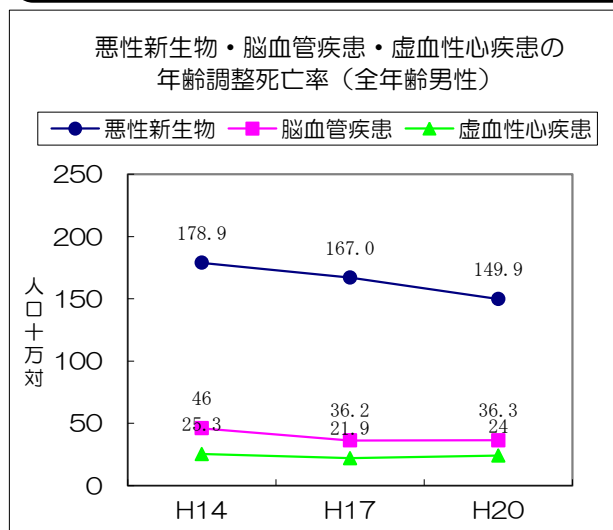
（資料：島根県事項胴体統計、健康指標マクロによる）

(4) 健康目標（年齢調整死亡率：島根県人口動態統計（健康指標マクロにより算出）

脳血管疾患、虚血性心疾患、がんの年齢調整死亡率

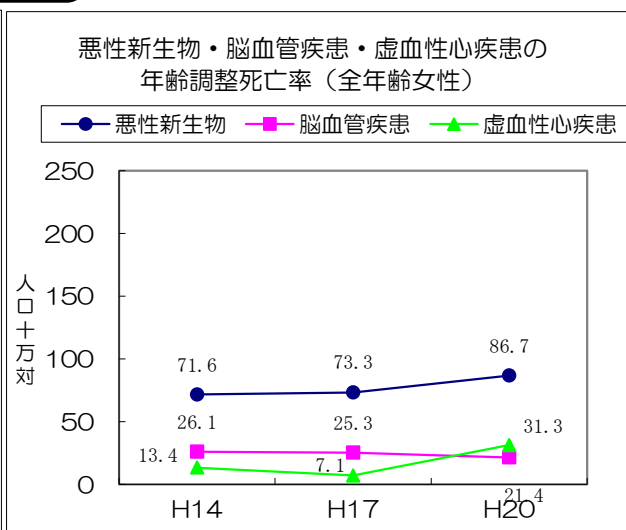
- 脳血管疾患—男性、女性とも減少している。
- 虚血性心疾患—男性減少、女性は増加傾向。
- がん—男性は減少し目標達成、女性は増加傾向にある。

（注） H14:H12-H16年の5年平均
H17:H15-19年の5年平均
H20:H18-22年の5年平均



男性

	H14	H17	H20	目標値
悪性新生物	178.9	167.0	149.9	156
脳血管疾患	46	36.2	36.3	36.2
虚血性心疾患	25.3	21.9	24	21.9

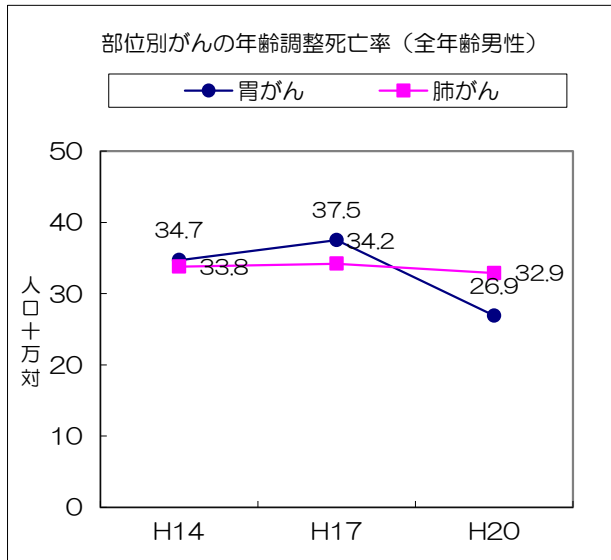


女性

	H14	H17	H20	目標値
悪性新生物	71.6	73.3	86.7	53.8
脳血管疾患	26.1	25.3	21.4	16.4
虚血性心疾患	13.4	7.1	31.3	7.1

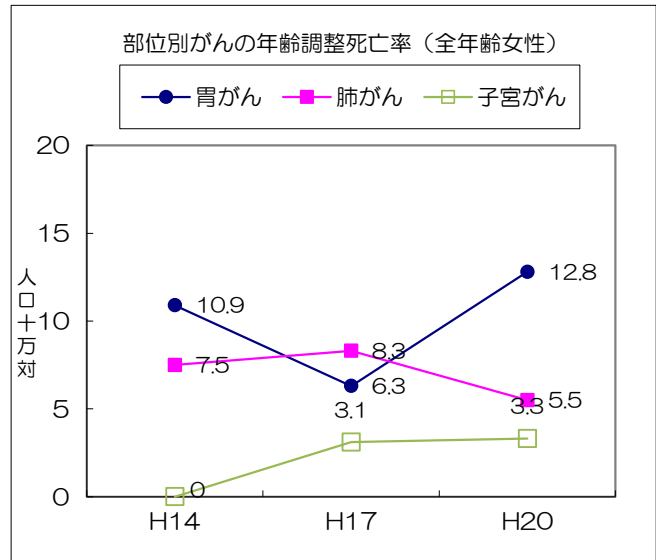
部位別がんの死亡率

- 胃がん — 胃がんによる死亡は、男性は減少している。女性は増加傾向である。
- 肺がん — 壮年期の男性は減少している。全年齢では、横ばい傾向である。
女性には近年増加傾向である。
- 大腸がん — 壮年期の男性、女性いずれも減少している。
- 子宮がん — 壮年期での死亡が増加している。
- 乳がん — 壮年期での死亡が減少している。



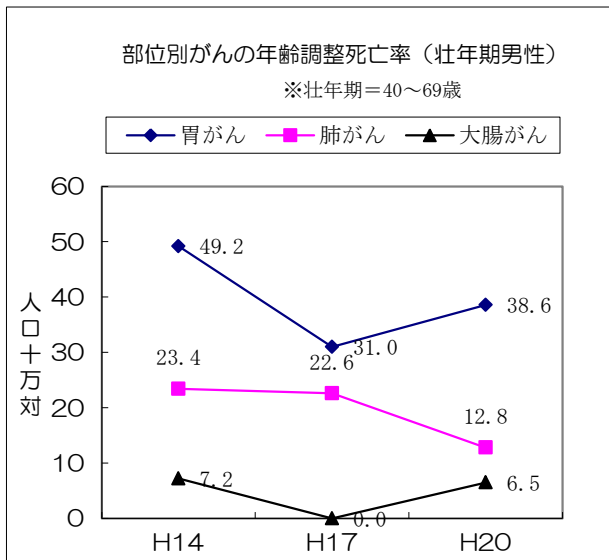
男性

	H14	H17	H20	目標値
胃がん	34.7	37.5	26.9	23.0
肺がん	33.8	34.2	32.9	26



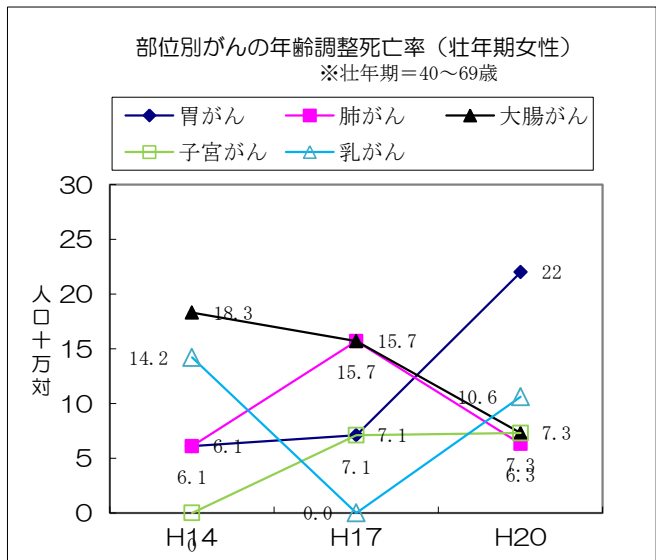
女性

	H14	H17	H20	目標値
胃がん	10.9	6.3	12.8	6.2
肺がん	7.5	8.3	5.5	4.0
子宮がん	0	3.1	3.3	0



男性

	H14	H17	H20	目標値
胃がん	49.2	31.0	38.6	31.0
肺がん	23.4	22.6	12.8	15
大腸がん	7.2	0.0	6.5	0

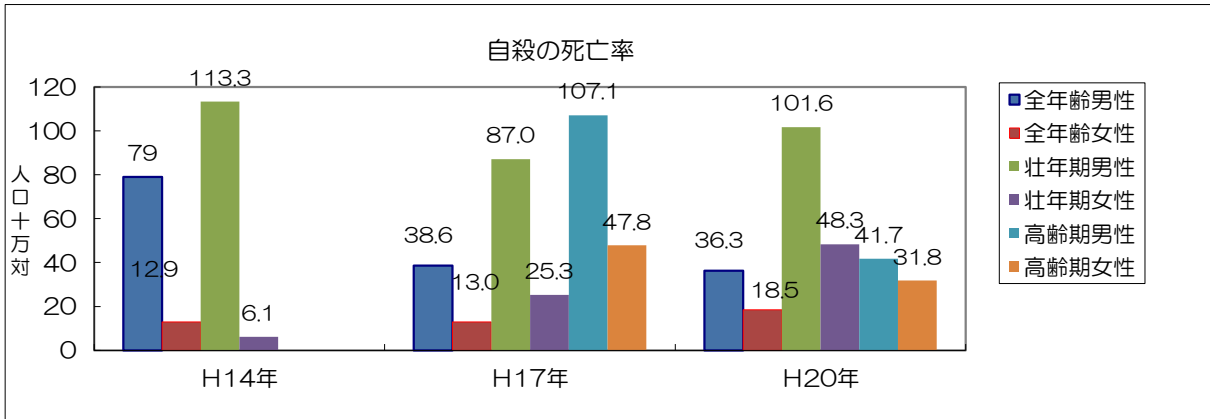


女性

	H14	H17	H20	目標値
胃がん	6.1	7.1	22	0
肺がん	6.1	15.7	6.3	0
大腸がん	18.3	15.7	7.3	15
子宮がん	0	7.1	7.3	0
乳がん	14.2	0.0	10.6	0

自殺の死亡率

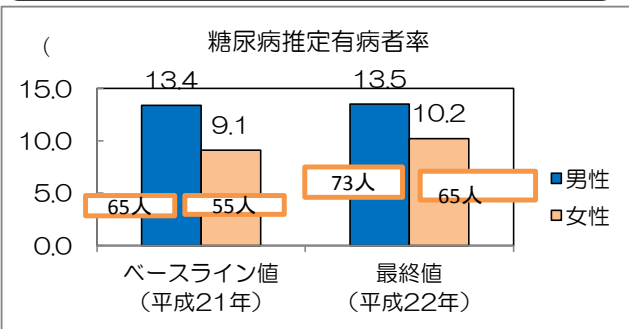
平成20年全年齢の男36.3、女18.5(人口10万対)と減少しているが、目標達成には至っていない。
平成20年壮年期の男101.6、女性48.3(人口10万対)と増加傾向であり、目標達成していない。



	H14年	H17年	H20年	目標 (平成24年)
全年齢男性	79	38.6	36.3	38.6
全年齢女性	12.9	13.0	18.5	7.7
壮年期男性	113.3	87.0	101.6	73.8
壮年期女性	6.1	25.3	48.3	6.1
高齢期男性	-	107.1	41.7	減らす
高齢期女性	-	47.8	31.8	減らす

糖尿病推定有病者数

男性、女性ともあまり減少していない。

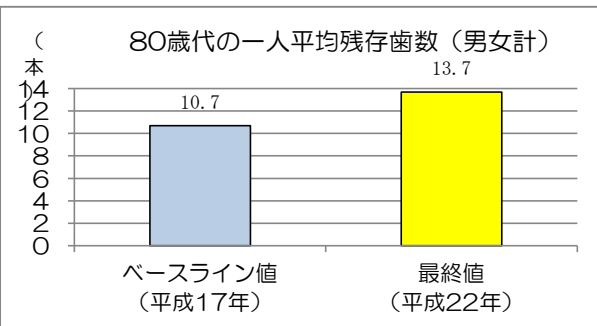


	ベースライン値 (平成21年)	最終値 (平成22年)	目標 (平成24年)
男性	13.4	13.5	当初より7%減
女性	9.1	10.2	当初より7.3%減

推計値：各年代の検診受診者数の糖尿病有病率から推計

歯科疾患

80歳代の一人平均残存歯は増えており、目標は達成している。



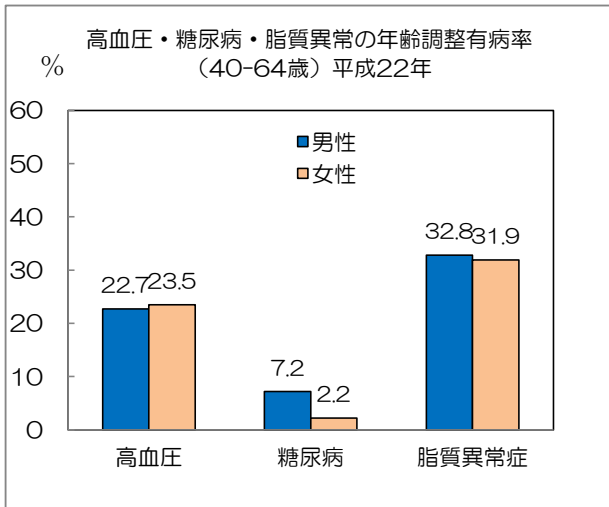
	ベースライン値 (平成17年)	最終値 (平成22年)	目標 (平成24年)
男女計 (本)	10.7	13.7	12

(注) H16年・H22年：市町村歯科健診結果

メタボリックシンドローム

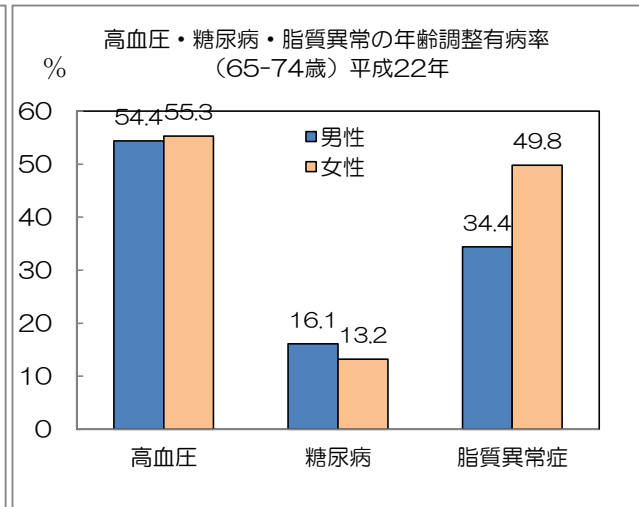
○高血圧年齢調整有病率—男性は40～64歳で22.7%、65～74歳で54.4%、女性は40～64歳で23.5%、65～74歳で55.3%。

○糖尿病年齢調整有病率—男性は40～64歳で7.2%、65～74歳で16.1%、女性は40～64歳で2.2%、65～74歳で13.2%。



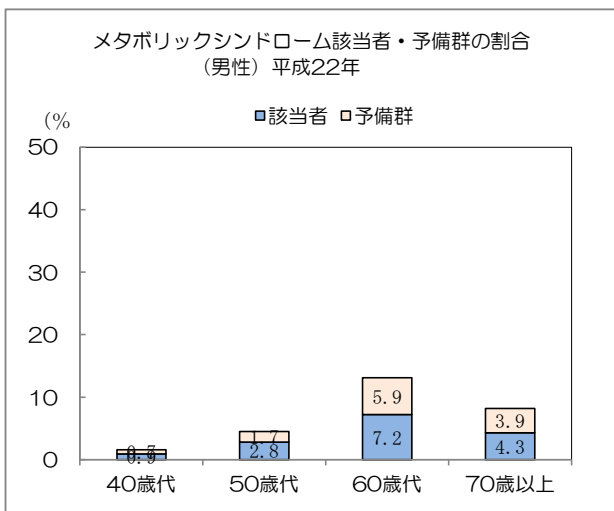
40～64歳 (%)

	高血圧	糖尿病	脂質異常症
男性	22.7	7.2	32.8
女性	23.5	2.2	31.9



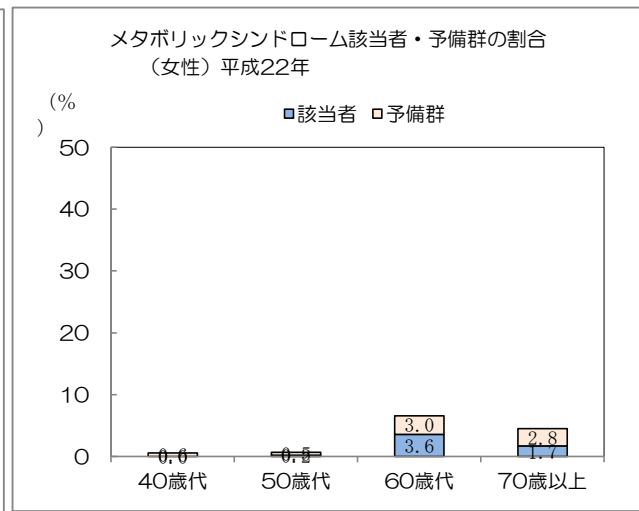
65～74歳 (%)

	高血圧	糖尿病	脂質異常症
男性	54.4	16.1	34.4
女性	55.3	13.2	49.8



男性 (%)

	該当者	予備群
40歳代	0.9	0.7
50歳代	2.8	1.7
60歳代	7.2	5.9
70歳以上	4.3	3.9



女性 (%)

	該当者	予備群
40歳代	0.0	0.6
50歳代	0.2	0.5
60歳代	3.6	3.0
70歳以上	1.7	2.8

(5)健康目標達成状況一覧

指 標	(人口10万対)	ベースライン値 平成14年 (12～16年)	中間値 平成17年 (15～19年)	現状値 平成20年 (18～22年)	目標値 (平成24年)	
脳血管疾患 年齢調整死亡率(全年 齢)	男	46	36.2	36.3	36.2	
	女	26.1	25.3	21.4	16.4	
脳血管疾患 年齢調整死亡率(壮年 齢)	男	16.2	16	20.5	4.9	
	女	22.6	13	6.3	9.4	
虚血性心疾患による 年齢調整死亡率(全年 齢)	男	25.3	21.9	24	21.9	
	女	13.4	7.1	31.3	7.1	
虚血性心疾患による 年齢調整死亡率(壮年 期)	男	21.5	22.4	33.3	19.1	
	女	14.7	0	0	0	
胃がん(全年齢)による 年齢調整死亡率	男	178.9	167.0	149.9	156.1	
	女	71.6	73.3	86.7	53.8	
肺がん(全年齢)による 年齢調整死亡率	男	33.8	34.2	32.9	25.8	
	女	7.5	8.3	5.5	4.0	
子宮がん(全年齢)による	女	0	3.1	3.3	0	
胃がん(壮年期)による 年齢調整死亡率	男	49.2	31.0	38.6	31.0	
	女	6.1	7.1	22	0	
肺がん(壮年期)による 年齢調整死亡率	男	23.4	22.6	12.8	14.8	
	女	6.1	15.7	6.3	0	
大腸がん(壮年期)による 年齢調整死亡率	男	7.2	0.0	6.5	0	
	女	18.3	15.7	7.3	15.1	
子宮がん(壮年期)による	女	0	7.1	7.3	0	
乳がん(壮年期)による 年齢調整死亡率	女	14.2	0.0	10.6	0	
指 標	(人口10万対)		ベースライン (14～18年)	現状値 平成20年 (18～22年)	目標値(平成24年)	
自殺による死亡率 (全年齢)	男	79	38.6	36.3	38.6	
	女	12.9	13.0	18.5	7.7	
自殺による死亡率 (壮年期)	男	113.3	87.0	101.6	73.8	
	女	6.1	25.3	48.3	6.1	
自殺による死亡率 (老年期)	男		107.1	41.7	減らす	
	女	-	47.8	31.8	減らす	
指 標	(人)		ベースライン (平成21年)	現状値 平成22年	目標値 (平成24年)	
糖尿病有病者の推定数	男	40～ 74		有病率13.4%(65人)	有病率13.5%(73人)	(当初より7%減)
	女			有病率9.1%(55人)	有病率10.2%(65人)	(当初より7.3%減)
最大血圧の平均	男	40～ 74		128.2	129	128.2
	女			126.7	129.5	126.7
肥満	男	40～ 74		21.6%	21.1%	15%以下
	女			16.6%	17.1%	16.6%
指 標	(本)	ベースライン値 (平成17年)	中間値	最終値 (平成22年)	目標値 (平成24年)	
	総数	80歳代	10.7本	—	13.7本	12本

目標達成
改善

2. 邑南町の健康状況

1) 死亡原因別死亡状況

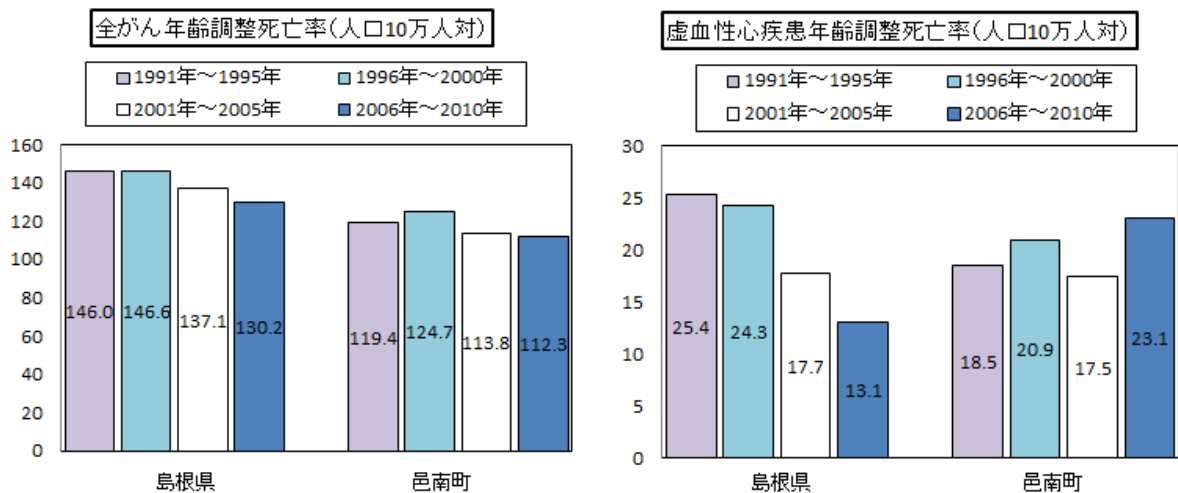
本町における主要死因は1位が悪性新生物で21.3%、2位が心疾患で18.3%、3位が脳血管疾患で13.5%、この3つが全体の53.1%を占めています。悪性新生物の部位別の年齢調整死亡率では男性は肺、胃、大腸がん、女性は肝、胃、乳がんが多い状況です。

邑南町の主要死因（単位：人、%）

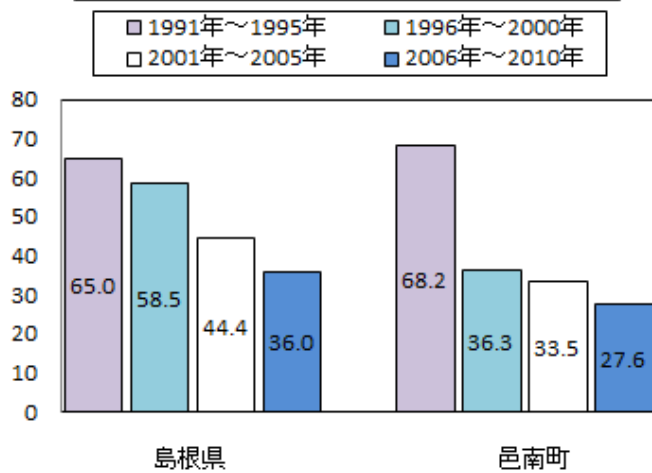
	平成20年		平成21年	
	死亡数	死亡割合	死亡数	死亡割合
総数	248		230	
結核	-	-	1	0.4
悪性新生物	61	24.6	49	21.3
糖尿病	2	0.8	4	1.7
高血圧疾患	1	0.4	1	0.4
心疾患	35	14.1	42	18.3
脳血管疾患	27	10.9	31	13.5
大動脈瘤及び解離	2	0.8	2	0.9
肺炎	34	13.7	13	5.7
慢性閉塞性肺疾患	3	1.2	1	0.4
喘息	1	0.4	1	0.4
肝疾患	2	0.8	-	-
腎不全	3	1.2	-	-
老衰	13	5.2	20	8.7
不慮の事故	6	2.4	8	3.5
自殺	1	0.4	8	3.5
その他	57	23.0	49	21.3

資料：島根県人口動態統計

3大死因年齢調整死亡率の動向（全年齢5年間の平均）



脳血管疾患年齢調整死亡率(人口10万人対)



資料：県央保健所

2) 健康診査の結果（平成 23 年度）

a. 特定健康診査

特定健康診査の状況をみると男女とも「要医療」の割合が高く、特に60歳以上からその割合が多くなっています。逆に40～50歳は男女とも要指導の割合が多くなっています。

男性

区分	受診者数（年度中）			指導区分別実人員			
	特定健康診査		異常認めず	要指導（1）	要医療（2）※	計（1）+（2）	
	集団検診	医療機関					
40歳～49歳	30	16	14	3	15	12	27
50歳～59歳	67	33	34	13	27	27	54
60歳～64歳	147	67	80	12	63	72	135
65歳～69歳	152	69	83	12	58	82	140
70歳～74歳	157	136	21	10	59	88	147
75歳以上	20	19	1	0	6	14	20
計	573	340	233	50	228	295	523

女性

区分	受診者数（年度中）			指導区分別実人員			
	特定健康診査		異常認めず	要指導（1）	要医療（2）※	計（1）+（2）	
	集団検診	医療機関					
40歳～49歳	37	23	14	13	15	9	24
50歳～59歳	68	43	25	9	28	31	59
60歳～64歳	145	72	73	16	53	76	129
65歳～69歳	181	101	80	17	67	97	164
70歳～74歳	250	215	35	8	97	145	242
75歳以上	27	24	3	1	14	12	26
計	708	478	230	64	274	370	644

※：すでに医療機関で治療している人も含む

資料：保健課

b. 内臓脂肪症候群の状況 (平成 23 年度)

メタボリックシンドロームの割合は男性が女性の 2.6 倍多く、特に壮年期の男性はその割合が高くなっています。

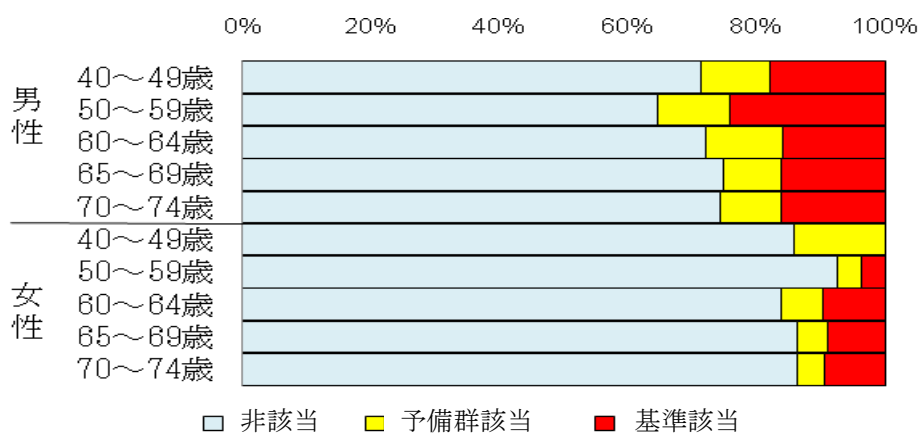
男女別メタボリックシンドローム判定 (人数)

男性

区分	受診者数	メタボリックシンドローム (内臓脂肪) 判定			
		非該当	予備群 該当	基準 該当	判定 不能
40 歳～49 歳	30	18	6	6	0
50 歳～59 歳	67	43	11	13	0
60 歳～64 歳	147	98	20	28	1
65 歳～69 歳	152	114	9	29	0
70 歳～74 歳	157	122	11	24	0
75 歳以上	20	14	4	2	0
計	573	409	61	102	1

女性

区分	受診者数	メタボリックシンドローム (内臓脂肪) 判定			
		非該当	予備群 該当	基準 該当	判定 不能
40 歳～49 歳	37	33	2	2	0
50 歳～59 歳	68	57	5	6	0
60 歳～64 歳	145	125	7	12	1
65 歳～69 歳	181	152	15	13	1
70 歳～74 歳	250	208	29	13	0
75 歳以上	27	23	2	2	0
計	708	598	60	48	2



資料：保健課

c. 特定保健指導の状況 (平成 23 年度)

積極的支援は男性に多く、特に壮年期で高くなっています。動機付け支援は男性 9.6%、女性 7.3%で若干男性が多い状況です。

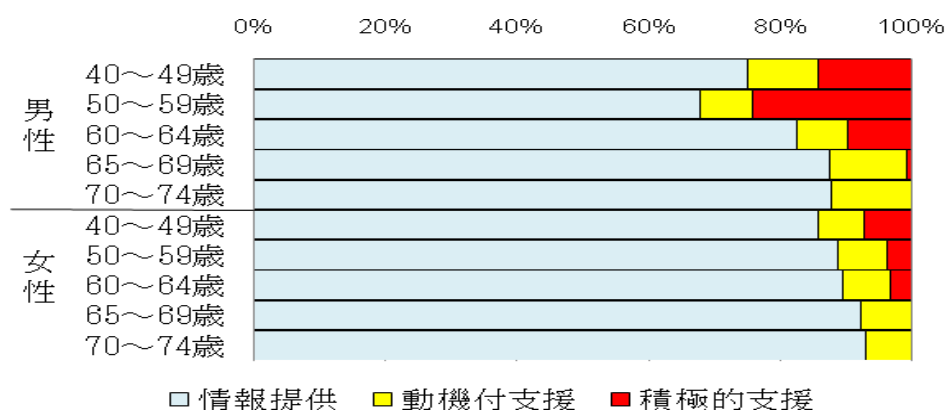
男女別保健指導判定 (人数)

男性

区分	受診者数	保健指導判定			
		情報提供	動機付支援	積極的支援	判定不能
40 歳～49 歳	30	21	3	5	0
50 歳～59 歳	67	49	10	7	0
60 歳～64 歳	147	121	7	19	0
65 歳～69 歳	152	135	15	1	0
70 歳～74 歳	157	138	18	0	0
75 歳以上	20	18	2	0	0
計	573	482	55	32	0

女性

区分	受診者数	保健指導判定			
		情報提供	動機付支援	積極的支援	判定不能
40 歳～49 歳	37	32	1	4	0
50 歳～59 歳	68	58	5	5	0
60 歳～64 歳	145	130	12	3	0
65 歳～69 歳	181	166	15	0	0
70 歳～74 歳	250	232	17	0	1
75 歳以上	27	25	2	0	0
計	708	643	52	12	1



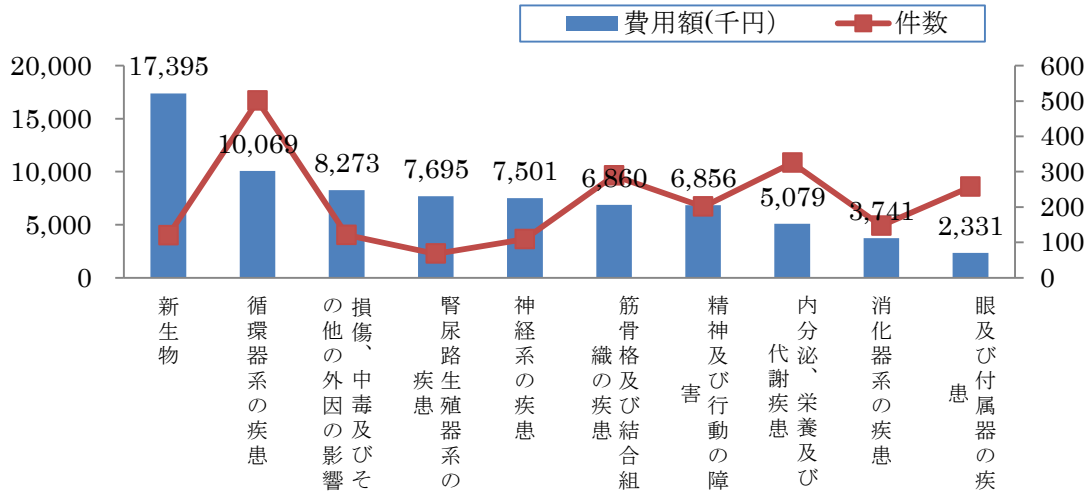
資料：保健課

3) 医療費の状況

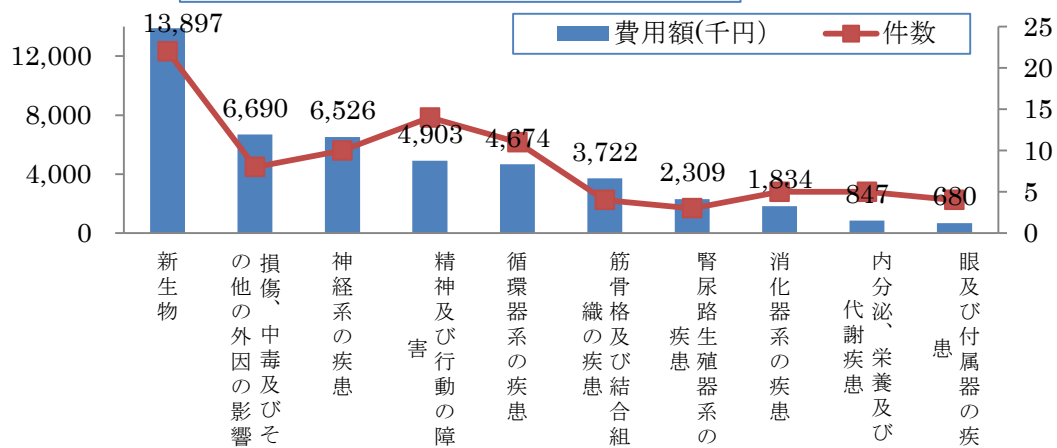
a. 国民健康保険被保険者の医療費

邑南町国民健康保険被保険者の平成 23 年 5 月診療分の費用額を疾病別にみると、新生物の疾患が最も高く全体の 20.4%となっています。

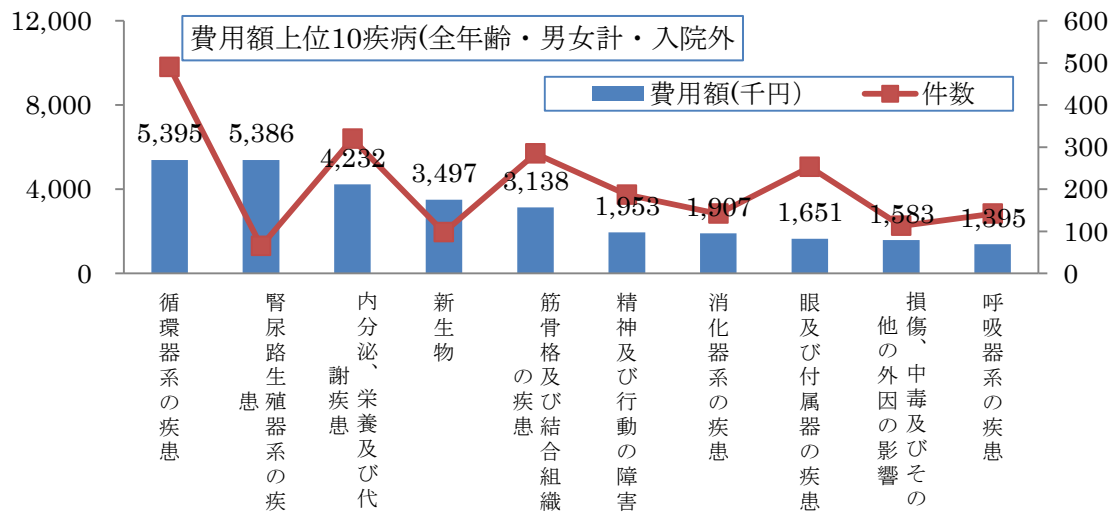
費用額上位10疾病(全年齢・男女計・入院+入院外)



費用額上位10疾病(全年齢・男女計・入院)



費用額上位10疾病(全年齢・男女計・入院外)



資料：町民課

3. 生涯を通じた健康づくりの状況

(1) 将来を担う子どもや若者の健康づくりの状況

【栄養・食生活】

- ① 食育に関心がある人の割合は 14.3%と低い状況です。
- ② 朝 7 時まで起きる幼児の割合は 1.6 歳児 66.7%、3 歳児 58.6%です。夜 9 時まで寝る幼児の割合は少なく、1.6 歳児 24.6%、3 歳児 10.0%です。
- ③ 朝食を欠食する幼児は 1.6 歳児 0%、3 歳児 2.9%です。しかし、朝食に野菜を食べている幼児の割合は低く約 5 割です。
- ④ 間食の時間を決めていた幼児の割合は 1.6 歳児 80.7%、3 歳児 84.3%です。毎日ジュースを飲んでいる幼児は 5 人に 1 人の割合です。

【運動】

- ① 子どもの運動については、学校教育の中でカリキュラム化されており、現時点では保健課からのアプローチはしていません。
- ② 全国体力運動能力調査の結果（体力測定の総合評価結果）
男子はCDランクの割合が全国平均よりも多く、体力的には少し劣っている状況です。女子はABランクの割合が多く、体力運動能力が勝っている状況です。

（運動・スポーツの実施状況）

頻度	男子	女子
ほぼ毎日	57.1	26.9
週 1～2 回	32.1	57.7
月 1～3 回	7.1	11.5

- ③ ゲーム等の普及により、外遊びする子が少なくなっています。
- ④ 若い年代の方は、元気館以外の健康づくり活動への参加が少ない状況です。
- ⑤ 若い方の運動の目的は、健康・体力・身体づくり、気分転換・ストレス解消です。

【喫煙・飲酒】

＜喫煙＞

- ① 未成年者の喫煙経験率（県）は、小 5・6 年 男 2.6%、女 1.2%です。
- ② 未成年者の喫煙防止対策として必要と思われるもの（町）では、家庭での教育 74.7%、学校での禁煙教育 86.3%、公共の場での禁煙・分煙の推進 78.0%です。
- ③ 学校、施設、自治会館の分煙状況は下記の表のとおりです。

ア) 学校、施設

	敷地内禁煙	施設内禁煙
小・中学校	4	7
公民館	0	12

イ) 自治会館の分煙状況（町）

敷地内禁煙	施設内禁煙	喫煙場所指定	喫煙自由
0	22	6	11

＜飲酒＞

- ① 未成年者の飲酒経験率（県）は、小 5・6 年 男 16.5%、女 13.4%です。

【休養・こころの健康】

- ① H23 年度思春期の訪問は実人員 4 人で延べ 8 人、相談は実人員 1 人で延べ 3 人、電話相談は実人員 2 人

で延べ6人です。同じ人からの相談が多くなっています。

【歯と口腔の健康】

- ① H23年度の3歳児虫歯有病者率は、12.9%、3歳児一人平均むし歯数 0.39本、保育所5歳児虫歯罹患率が31.7%となっています。
- ② H22年度12歳児一人平均むし歯数は0.58本、12歳児歯肉炎は38.9%、フッ素塗布実施率84.5%です。
- ③ フッ素洗口実施率は保育所100%、小学校100%、中学校99.2%です。
- ④ 歯科教室の実施（歯科疾患の予防、フッ化物の啓発）は全町の保・小・中と実施できています。
保育所：14回 573名、小学校：43回 559名、中学校：4回 102名、高校：1回 65名

（2）働き盛りの青壮年の健康づくりの状況

【栄養・食生活】

- ① 健診結果をみると、
ア) BMI25.0以上の人の割合が男性17.9%、女性19.7%です。
イ) HbA1c6.1%以上の方が8.8%、要注意者（HbA1c5.2～6.0%）が68.6%です。
ウ) LDL-C140以上の人の割合が26.5%です。
エ) 収縮期血圧140mmHg以上の人の割合が高く29.7%です。
- ② 自分にとって適切な食事内容・量を知っている人の割合は62.6%です。栄養バランスを概ね意識して食事をしている人の割合は約4割である。全体的に男性で意識していない人が多い傾向となっています。
- ③ 1日の食塩摂取量は平均11gです。1日の食塩摂取量10g以下の人の割合は49.8%。男性9g未満の人の割合は34.1%、女性7.5g未満の人の割合は28.3%となっています。（県）塩辛いものを食べないようにしている人の割合は54.9%です。
- ④ 朝食を毎日食べている人の割合は89.7%です。しかし、20～40歳代男性では朝食を毎日食べない人の割合が高く、2割以上となっています。食に関する必要な情報を得られている人の割合は19.0%です。情報を得られていない人の割合は20～30歳代で高く14.3%です。

【運動】

- ① 30～50歳代は定期的に運動をしている人の割合が少ない状況です。（3～4割）その理由としては、時間がないので運動ができないと答える方の割合が高い状況です。
- ② 運動する目的は生活習慣病予防（30～40歳代）という方が多いです。
- ③ 生活習慣病予防のためには、週3回以上の運動が望ましいが月1～5回しか運動していない方が4割です。
- ④ 若い方の運動の場としては、職場やその他の場が多い状況です。
- ⑤ 定年が65歳になった場合、仕事に出ている人が多くなっています。

【休養・こころの健康】

- ① うつ・気分障害の受診割合は1.22%です。（H24年5月分国保レセプト）
- ② 休養がとれている者の割合は約6割です。
- ③ 寝つきが悪いと感じている人は約1割あります。
- ④ ストレスを感じている者の割合は、男性は、30歳代で約8割ですが、その他すべての年代で、約9割となっています。女性は、40歳代が約8割ですが、その他すべての年代で、約9割となっています。ストレスの内容は男性は、1位仕事（約3割）2位収入・家計のこと、3位自分の健康で、女性は1位仕事（約2割）、2位自分の健康、3位職場の人間関係でした。ストレス解消法がない人は5.1%で減少しており、お酒やたばこで解消する人も減少しています。
- ⑤ 相談相手を見ると3割が家族、半数近くが友人をあげています。
- ⑥ 生きがいがあると答えた人は約6割で、幸福感が少ない20歳代、40・50歳代の男性にある人が少ない状況です。20歳代男性、40歳代男性は役割を持っていない人も多い状況です。

- ⑦ 20～40 歳代で地域の行事や集まりに積極的に参加する人が少ない状況です。
- ⑧ こころの病気は誰でもかかりうる病気であること、自殺の原因にうつ病があることを知っている人はそれぞれ約 9 割であり、増加しています。一方うつ状態の人に対する対応の仕方を知っている人は約 4 割と少ない状況です。
- ⑨ 壮年期男性の自殺死亡率が高い状況です。
- ⑩ 小規模事業所（50 人以下）が約 9 割を占めており、産業保健をすすめる人員確保が困難な状況です。
- ⑪ 産業保健センターが開催する研修会や無料相談会、県等が実施する出前講座など有効活用がされていない状況です。

【喫煙・飲酒】

<喫煙>

- ① 喫煙率（町）は、男性の 20・30 歳代は 4 割、40・50 歳代は 5 割で、女性は 20 歳代が 1 割を占めています。
- ② 禁煙したい人の割合（町）は、20・30 歳代は 4 割、40・50 歳代は 5 割です。
- ④ 禁煙のために望む支援（町）は、禁煙外来の紹介 34.4%（郡内の禁煙外来を知っている人の割合は 1 割）、相談窓口の紹介が 25.0%でした。
- ⑤ 禁煙情報を知っている人の割合（町）は、全体が 6 割、30 歳代が 3 割、40 歳代が 5 割でした。
- ⑥ たばこの煙が気になる人の割合（町）は、全体が 8 割、喫煙者が 51.6%、非喫煙者が 85.2%でした。
- ⑦ 分煙事業所数（圏域）は、完全禁煙 26、完全分煙 7、不完全分煙 12、検討中 11 でした。

<飲酒>

- ① 毎日飲酒する人の割合（町）は、男 50 歳代が 6 割、女 40・50 歳代が 2 割でした。

【歯と口腔の健康】

- ① H22 年度残存歯調査をみると、一人平均残存歯数は、20 歳代 29.75 本、30 歳代 28.89 本、40 歳代 28.05 本、50 歳代 25.91 本でした。
- ② 歯周疾患がある者の割合（歯周ポケットが 4mm 以上）は、20 歳代 50%、30 歳代 52.63%、40 歳代 76.92%、50 歳代 74.55%でした。
- ③ 歯周疾患の罹患者が、20 歳代で 50%もおり、40 歳代で 70%に増加しています。
- ④ 町のアンケートでは、定期的に歯科受診する人は 20 歳代 8%、30 歳代 2.6%、40 歳代 8%でした。
- ⑤ この一年間で、歯科に関する情報を聞いたことがない人は 20 歳代 58.8%、30 歳代 48.1%でした。
- ⑥ よく噛むと答えた者は、20 歳代 16%、30 歳代 18.4%、40 歳代 8%、50 歳代 12.6%、60 歳代でした。

（3）高齢者の健康づくり、介護予防・生きがい活動の支援

【栄養・食生活】

- ① 介護予防における基本チェックリスト結果では、低栄養状態のおそれのある前期高齢者は 0%、後期高齢者は 2%と少ない状況です。
- ② 自分にあった食事内容や量を知っている人は 7～8 割です。
- ③ 毎日朝食を食べる人は 60 歳代以上で高く 95%以上となっています。しかし、60～80 歳代でも朝食に野菜を食べる人は 5～7 割と少ない状況です。
- ④ 1 日 2 回以上間食をする人は 60 歳代以上で高く、2 割以上となっています。

【運動】

- ① 高齢者の運動の目的は腰痛・膝痛・肩こり予防が多い状況です。
- ② 高齢者の 4 人に 1 人が介護保険を申請している状況です。

- ③ 基本チェックリストの結果、運動機能が低下して二次予防対象者となった方が前期高齢者 11%、後期高齢者 32% (H23年度) です。

【休養・こころの健康】

- ① うつ・気分障害の受診割合は0.35% (75歳以上) です。(H24年5月分国保レセプト)
- ② 7~9割の高齢者が休養をとっていますが、(60代が7割でやや少ない)、約3割が睡眠のために医療機関を受診し内服をしています。
- ③ ストレスを多いに感じている方は1割以下と比較的少ないですが(60代はやや高い)、ストレスの内容として家族の介護や、自分の健康に対する不安によるストレスが多くなっています。
- ④ 心の病気について、H21年度から保健事業を通じて啓発したことにより理解度は高くなりましたが、その対応について知らない人の割合が高くなっています。
- ⑤ 地域の集まりに積極的でない、気軽に話せる相手がない、家の中で役割をもっていない男性が多い状況です。
- ⑥ 高齢者の自殺による年齢調整死亡率は男女とも減少傾向です。

【喫煙・飲酒】

<喫煙>

- ① 喫煙率(町)は、男性は60歳代が3割でした。
- ② 禁煙したい人の割合(町)は、60歳代で8割、70歳代で6割でした。
- ③ 禁煙情報を知っている人の割合は、60歳代で7割、70歳代で8割、80歳代で7割でした。

【歯と口腔の健康】

- ① 一人平均残存歯数は下表のとおりです。

ア) H22年度県民残存歯調査

	H17年度	H22年度
55~64歳	18.20本	20.39本
65~74歳	15.80本	17.39本
75~84歳	10.74本	13.69本

イ) 20本以上歯がある者の割合

	H17年度	H22年度
55~64歳	50.0%	60.4%
65~74歳	43.3%	50.3%
75~84歳	18.3%	30.5%

- ② 町アンケートでは、1日1回以上丁寧に磨く人は、60歳代 43.6%、70歳代 36.2%、80歳代 35.2%です。
- ③ よく噛むと答えた者は、70歳代で17.2%、80歳代で25.3%でした。

4. 邑南町健康づくり調査結果（H23年度）

1) 調査目的・方法

(1) 調査目的

邑南町民の生活習慣の状況や健康づくりに対する意識を把握し、邑南町健康増進計画（平成18～24年度）の見直しのための資料とする。

(2) 調査方法

a. 期間

平成23年9月21日（水）～10月14日（金）

平成23年10月1日現在の状況について回答

b. 対象

20～80歳代の邑南町民 男女計700人（住民基本台帳より無作為抽出）

20～80歳代の各年代ごとに男女各50人ずつを抽出

c. 手法

配布方法：対象者に調査票を郵送。

回答・回収方法：無記名方式。対象者は回答後、調査票を封筒に入れ郵送にて返信。

(3) 調査項目（別添調査票を参照）

a. 食生活

b. 運動

c. たばこ・アルコール・歯の健康

d. 心の健康

(4) 回収率

調査標本数 700人

回収数 431人（回収率 61.6%）

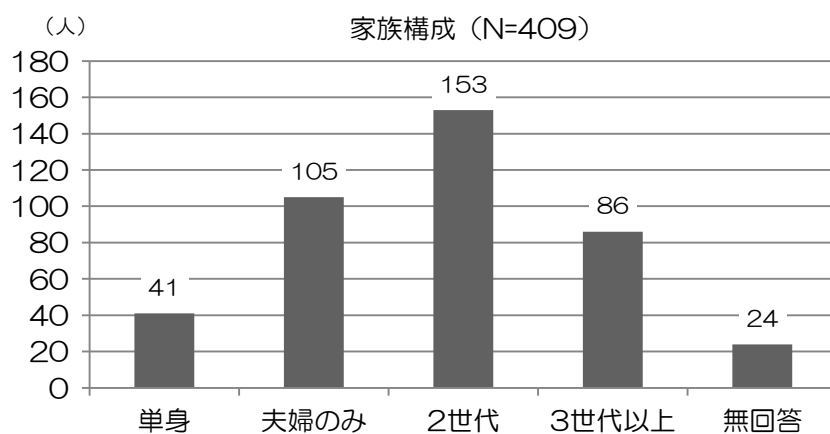
有効回収数 409人（有効回収率 58.4%）（内訳） 男189人 女220人

2) 調査結果

(1) 性別・年齢階級別回答者数

年齢構成	男性	女性	総計 (人)
20 歳代	16	19	35
30 歳代	23	26	49
40 歳代	23	31	54
50 歳代	29	33	62
60 歳代	37	37	74
70 歳代	30	43	73
80 歳代	31	31	62
総計 (人)	189	220	409

(2) 家族構成



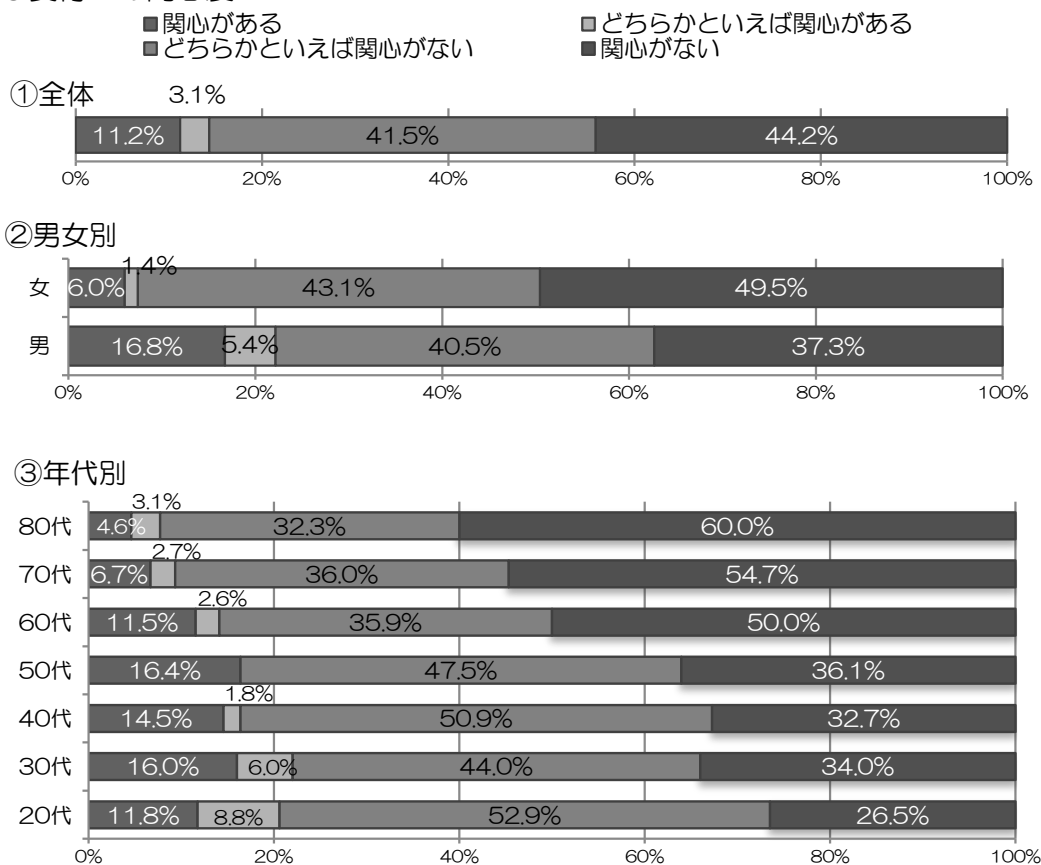
(3) 食生活について

問1 食育に関心がありますか。

【現状】

- 食育に関心がある、どちらかといえば関心があると答えた人が14.3%と少ない。
- 子育て世代の20~40歳代でも低い傾向にある。
- 男性の方が関心がある人の割合が多い。
- 年代が高くなるにつれて関心がない人が多い傾向にある。

●食育への関心度

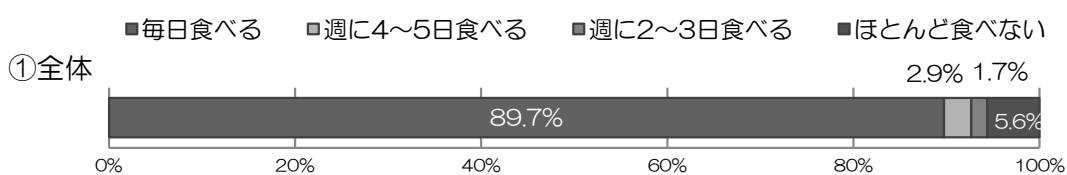


問2 朝食を食べますか。

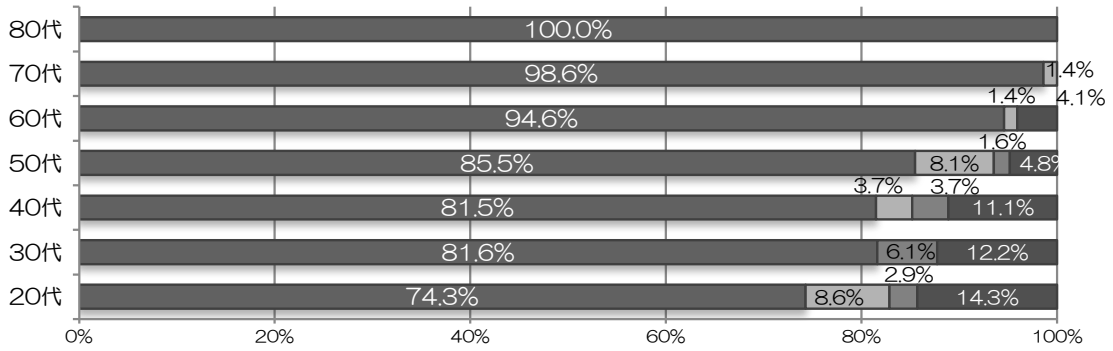
【現状】

- 朝食を毎日食べる人は約9割である。
- 20~40歳代の若い男性でほとんど食べない人が2割を超えている。

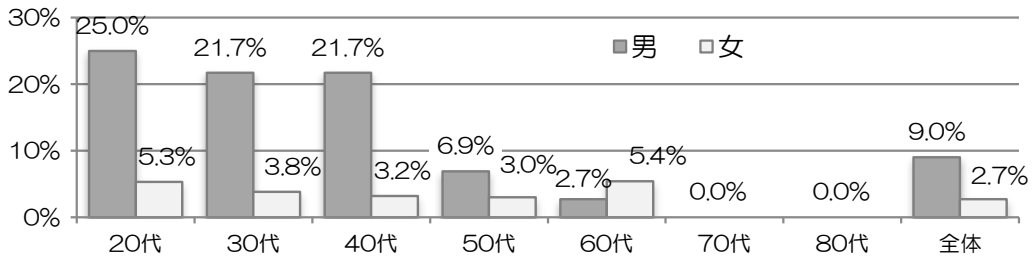
●朝食の摂取状況



②年代別



③朝食をほとんど食べない人の割合 年代・男女別



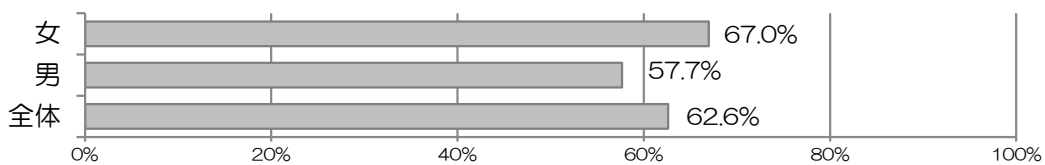
問3 自分にあつた食事内容や量を知っていますか。

【現状】

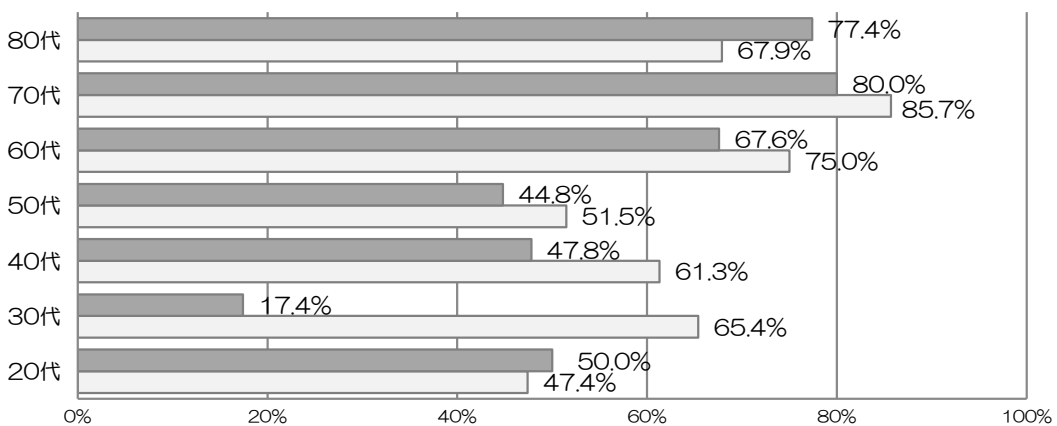
- ・自分にあつた食事内容や量を知っている人が6割以上ある。
- ・若い世代で低い傾向にあり、特に30歳代男性では知っている人が17.4%と低い。

●自分にあつた食事内容や量を知っている人の割合

①全体・男女別



②年代・男女別

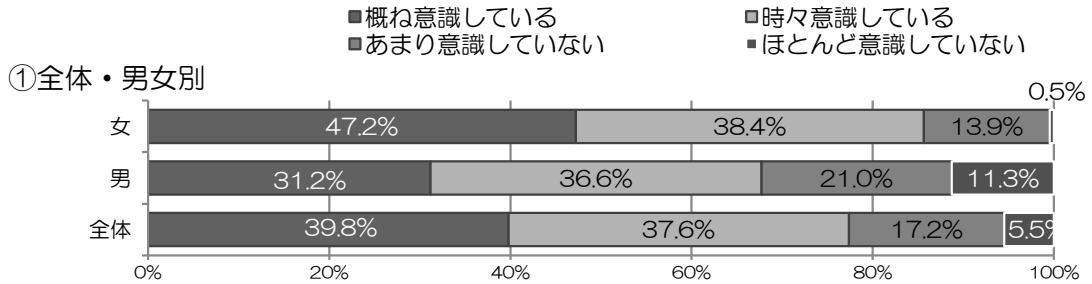


問4 栄養バランスを意識して食事をとっていますか。

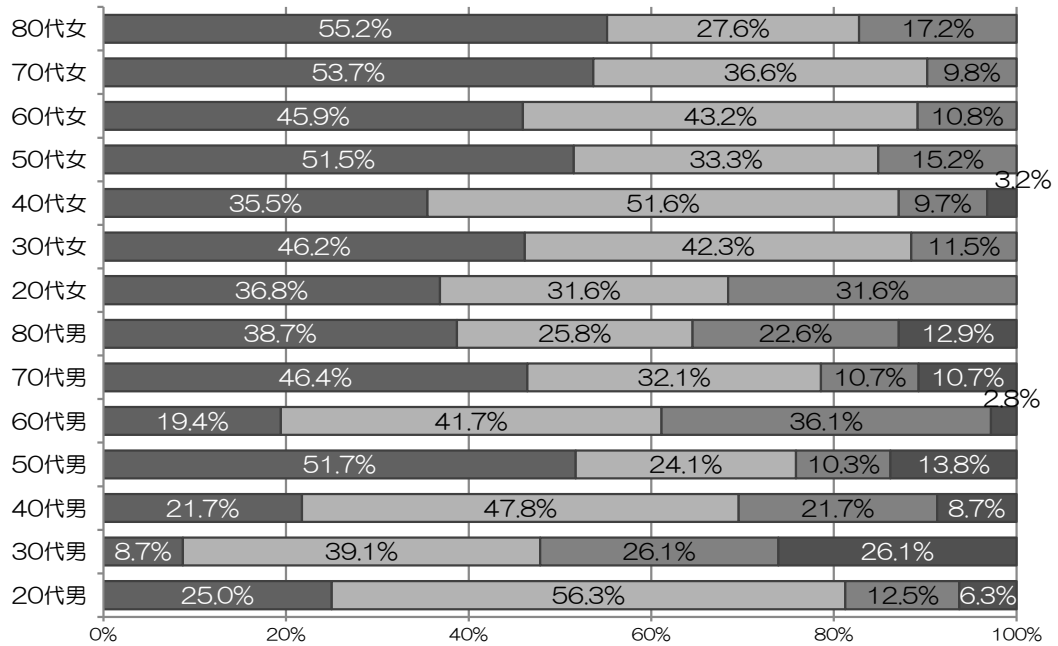
【現状】

- 概ね意識している人が約4割あり、時々意識している人が37.6%である。
- 男性の方が栄養バランスを意識して食事をしている人の割合が低く、特に30歳代男性で意識している人が少ない。

●栄養バランスを意識している人の割合



②年代・男女別



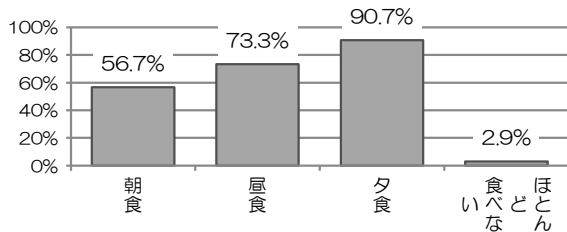
問5 野菜を毎食食べていますか。

【現状】

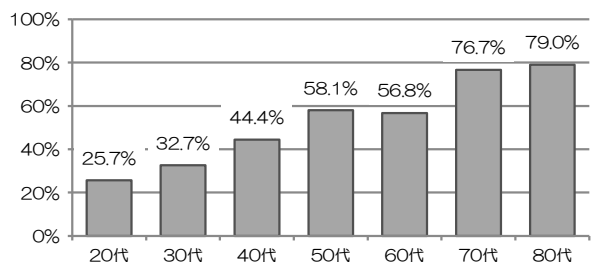
- 朝食で野菜を食べる人が56.7%と少ない。特に20歳代の男性25.0%・女性26.3%、30歳代男性は17.4%と少ない状況である。
- 毎食野菜を食べている人の割合は49.1%で、約半数である。

●野菜の摂取状況

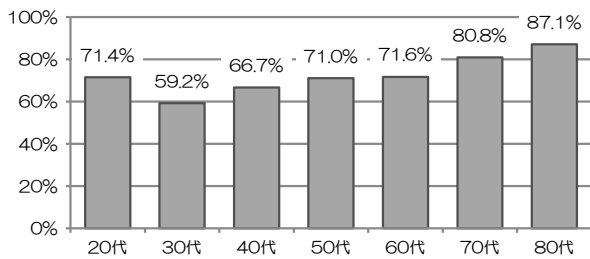
①野菜を食べている人の割合



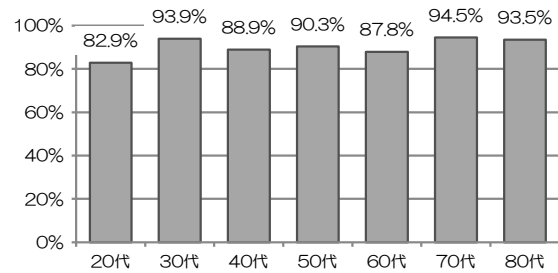
②朝食で野菜を食べている人の割合



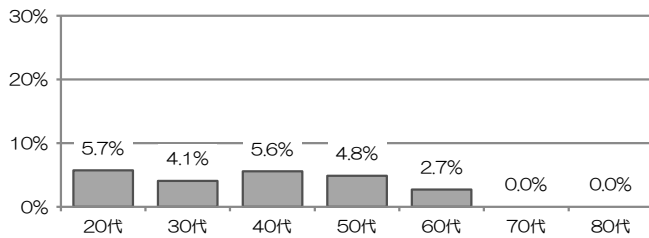
③昼食で野菜を食べている人の割合



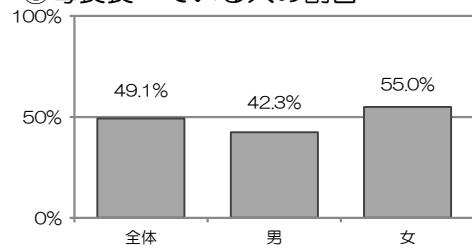
④夕食で野菜を食べている人の割合



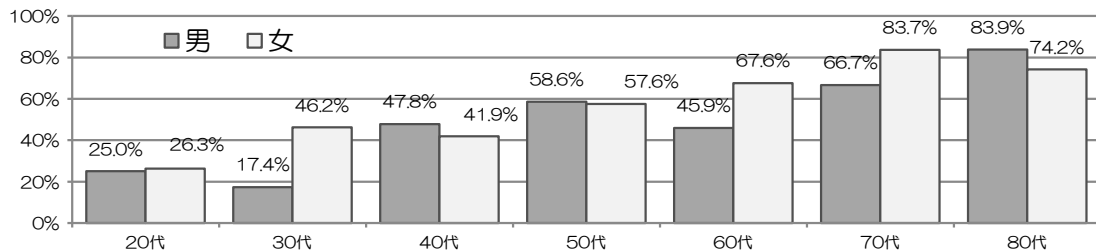
⑤ほとんど食べない人の割合



⑥毎食食べている人の割合



⑦朝食で野菜を食べている人の割合：年代・男女別



問6 間食（夜食を含む）を食べますか。

【現状】

- ・間食を毎日食べる人は36.3%である。男性は26.1%、女性は44.5%であり、女性の方が多。
- ・80歳代で毎日食べる人が多く、5割を超えている。
- ・間食を毎日2回以上食べる人が約2割ある。

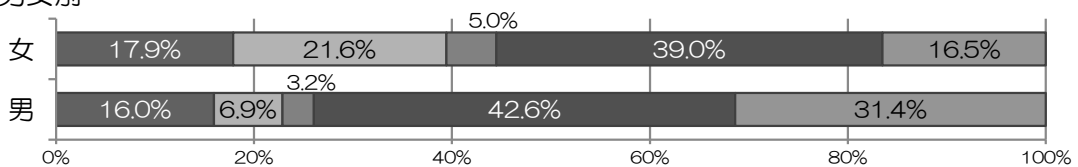
●間食の摂取状況

■毎日1回 □毎日2回 ■毎日3回以上 ■時々 ■食べない

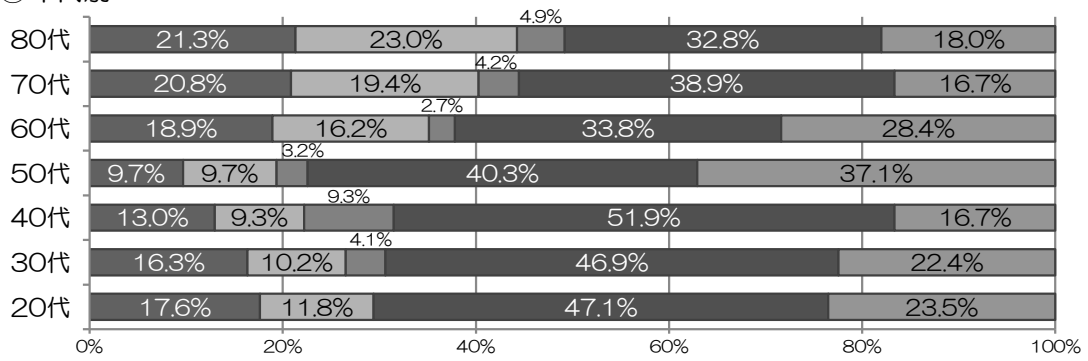
①全体



②男女別



③年代別



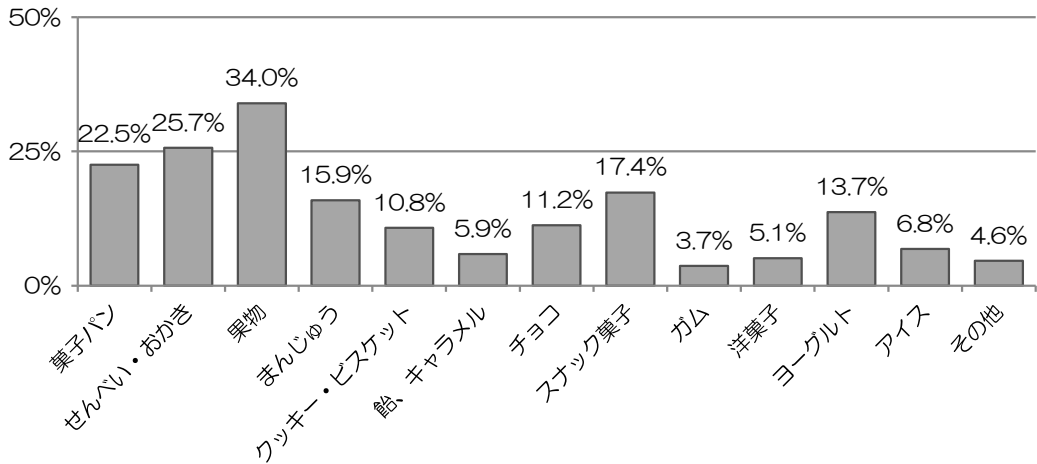
問7 間食（夜食を含む）に食べるものはどんなものですか。
 主なものに2つまで○をしてください。

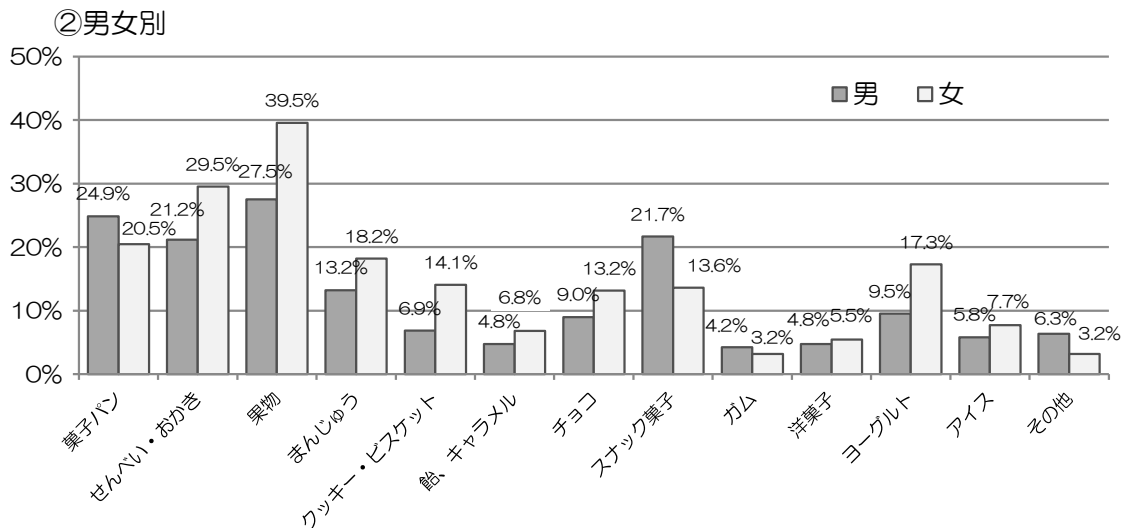
【現状】

- ・間食の種類は、多い順に果物、せんべい・おかき、菓子パン、スナック菓子、まんじゅうであった。
- ・20～40歳代ではスナック菓子、チョコが多い。60～80歳代では果物、菓子パンが多い。

●よく食べられている間食の種類

①全体





問8 嗜好飲料(ジュース、スポーツドリンク、栄養ドリンク、乳酸菌飲料など)を飲みますか。

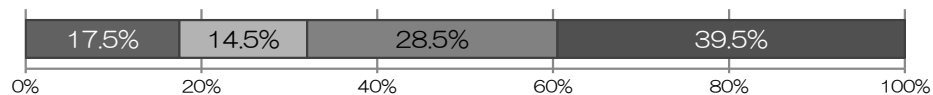
【現状】

- 毎日飲む人は17.5%、週に4~5日飲む人14.5%で、あわせて3割強の人がよく飲んでいる。
- 男性の方が飲んでいる人が多い。
- 20~40歳代、70・80歳代で飲んでいる人の割合が多い。

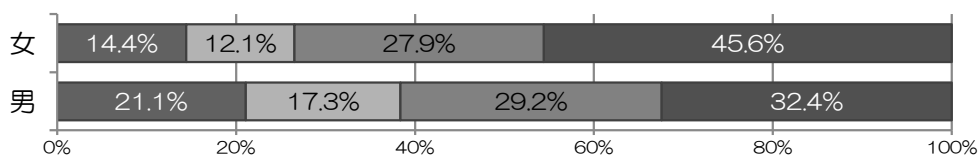
●嗜好飲料を飲む人の割合

■毎日飲む ■週に4~5日飲む ■週に2~3日飲む ■ほとんど飲まない

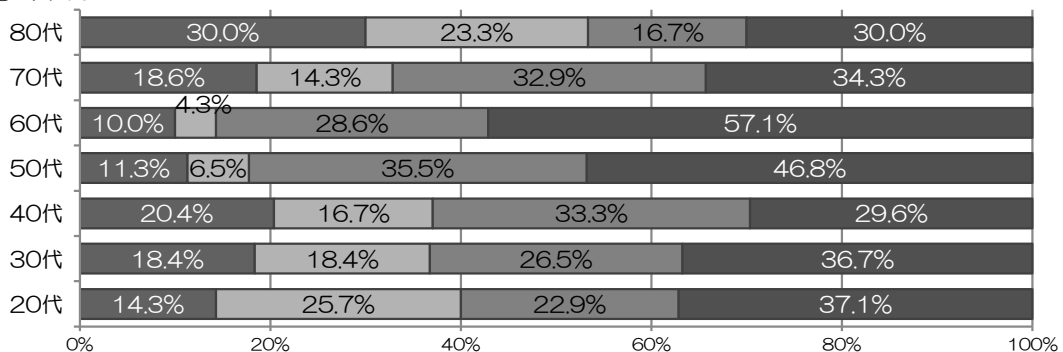
①全体



②男女別



③年代別



問9 加工食品、外食の栄養成分表示を利用していますか。

【現状】

- 栄養成分表示を利用している人は少ない。
- 女性の方が見たことがある人の割合が多い。

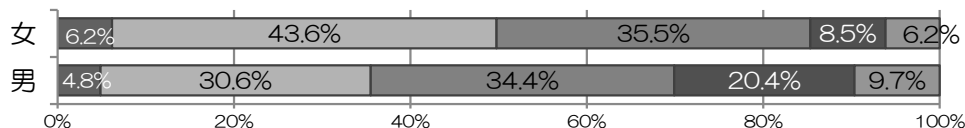
●加工食品、外食の栄養成分表示の利用割合

■常に見て食事の調節をしている □時々見ている ■何度か見た ■見たことない ■知らない

①全体



②男女別



問10 市販の惣菜や弁当を利用していますか

【現状】

- 市販の惣菜や弁当を3割以上の方が利用している。
- 利用頻度は週に2~3日利用している人が多い。

●市販の惣菜や弁当を利用している人の割合

■毎日利用している □週に4~5日利用 ■週に2~3日利用 ■ほとんどない

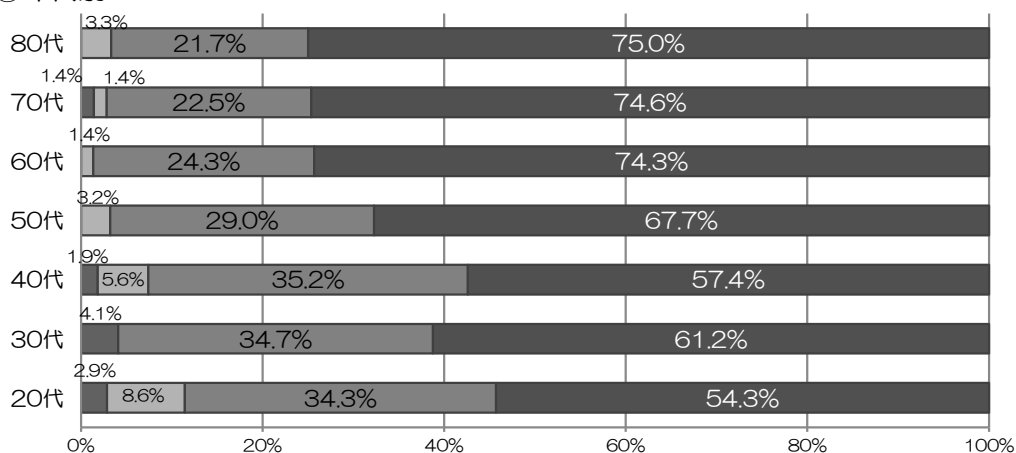
①全体



②男女別



③年代別

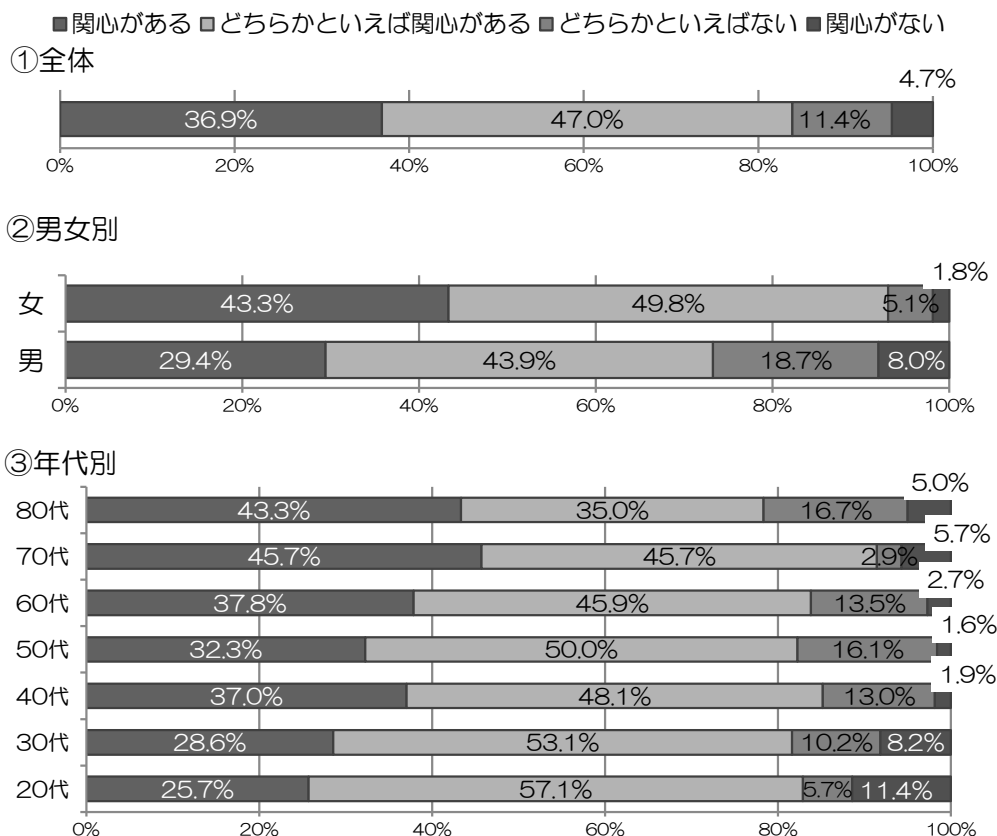


問11 食の栄養面や安全面について関心がありますか。

【現状】

- 食の栄養面や安全面について8割以上の方が関心がある傾向にある。
- 女性の方が関心がある人の割合が多い。

●食の栄養面や安全面に関心がある人の割合

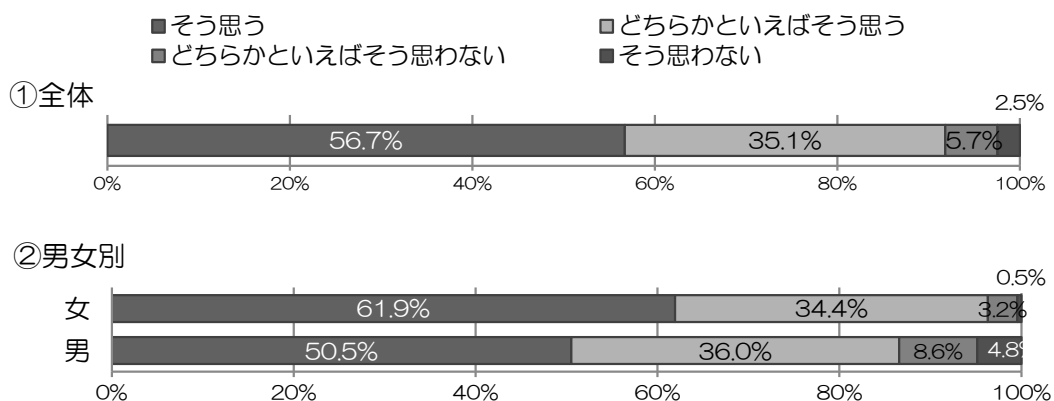


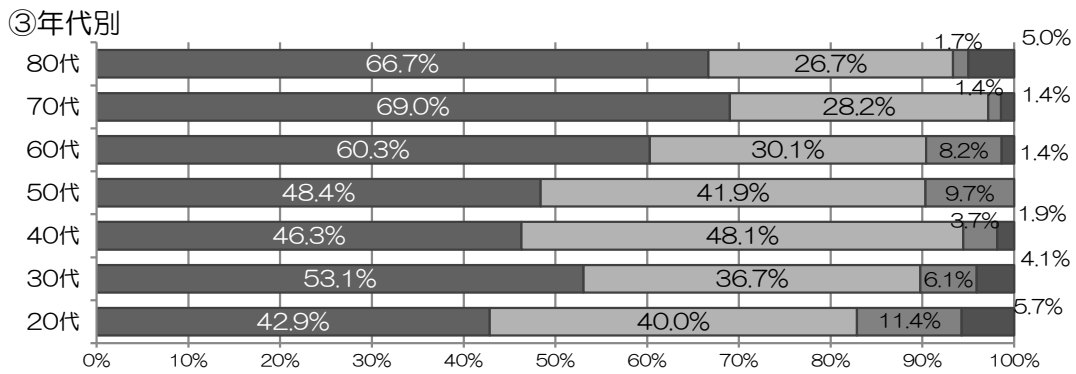
問12 食文化や旬など大事にしたいと思いませんか。

【現状】

- 食文化や旬を大事にしたいと思う人、どちらかといえばそう思う人が9割以上ある。
- 女性の方が大事にしたいと思う人の割合は多く、また年代があがるにつれて多い。

●食文化や旬など大事にしたいと思う人の割合



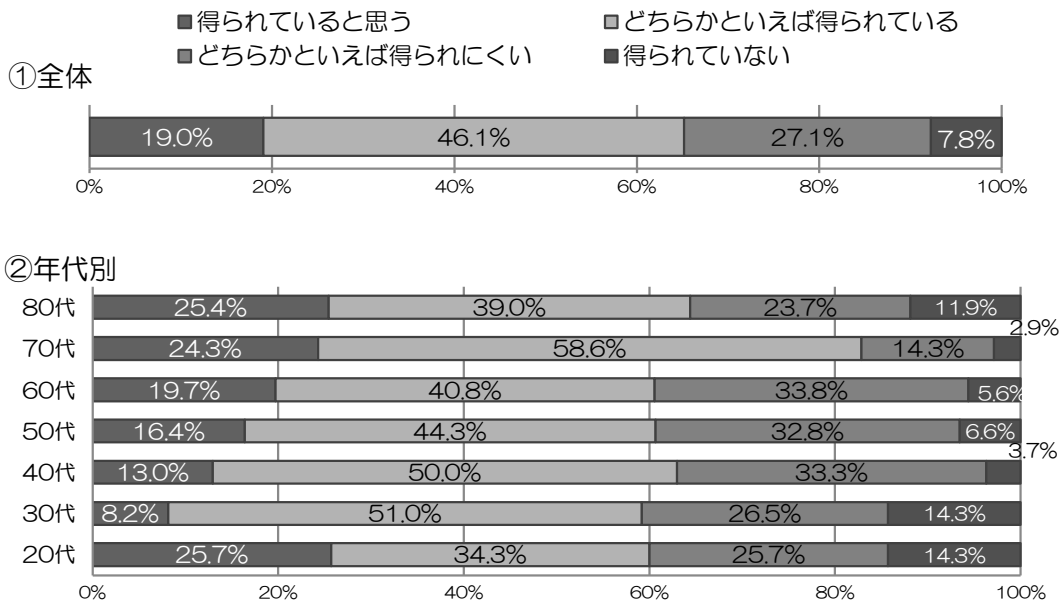


問13 食に関する必要な情報が得られますか。

【現状】

- ・情報が得られにくい、得られていない人が3割以上ある。
- ・20・30歳代の若い世代で情報が得られていないと答えた人が多い。

●食に関する必要な情報が得られている人の割合



(4) 運動について

問1 運動を行うために支援して欲しいことは何ですか。

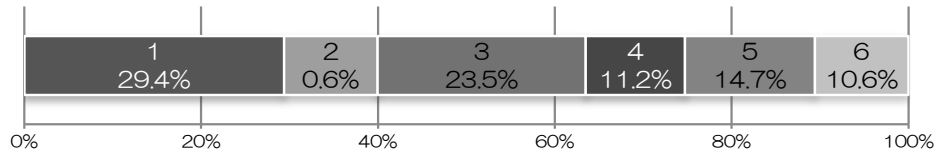
【現状】

- 運動を行うために支援して欲しいことは、「地域での運動の場を増やす」が最も多い。次に「運動に関する情報提供をする」23.5%である。
- その他では、特になし、自分でするなどの意見がある。

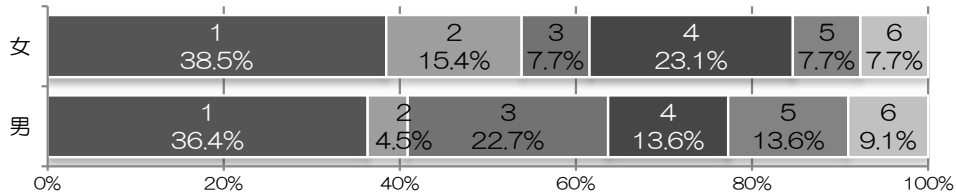
●運動を行うために支援して欲しいこと

- 1.地域での運動の場を増やす
- 2.気軽に相談できる窓口を作る
- 3.運動に関する情報提供をする
- 4.職場での運動時間を設ける
- 5.健康運動指導士による指導
- 6.その他

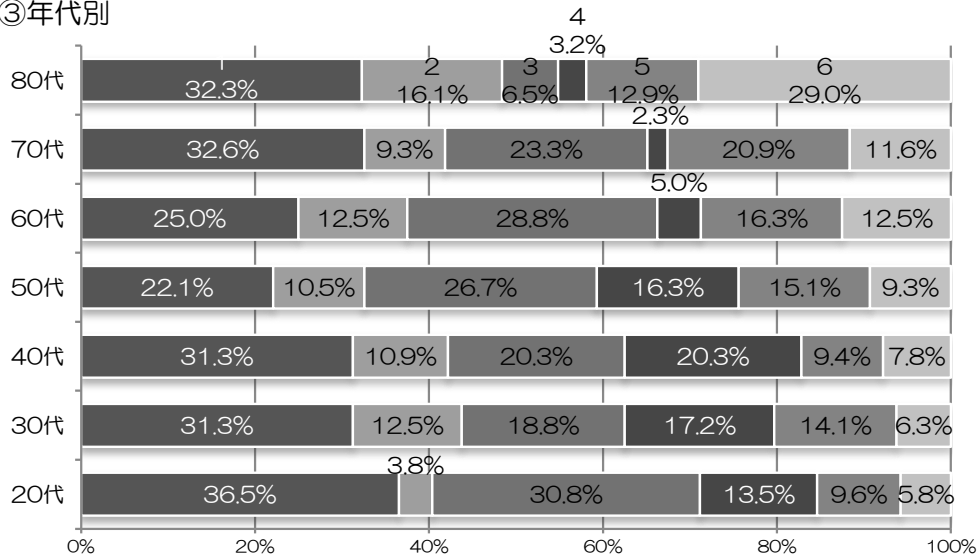
①全体



②男女別



③年代別

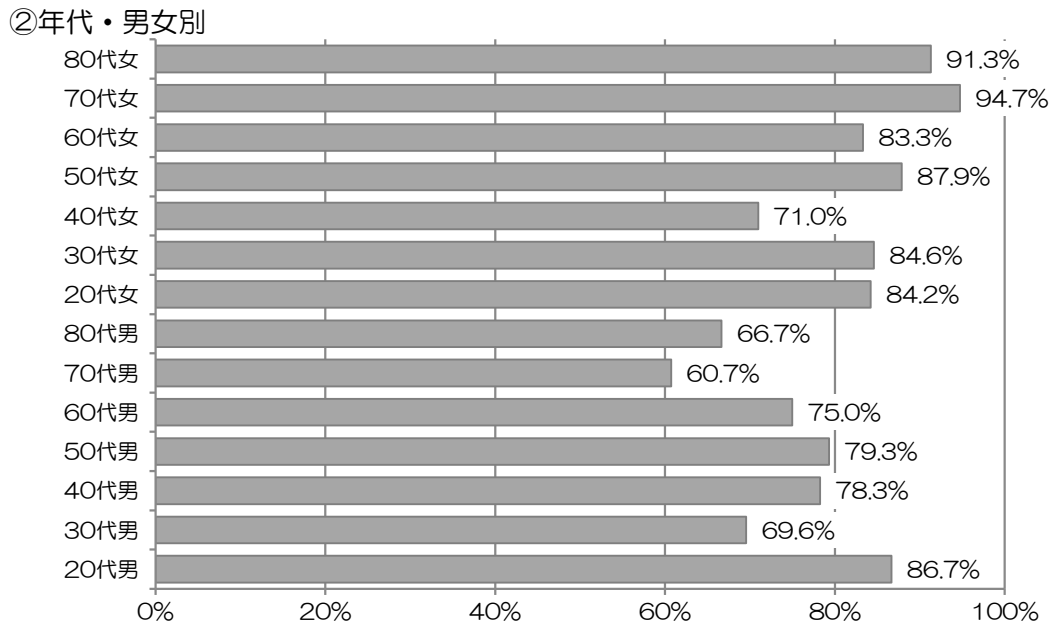
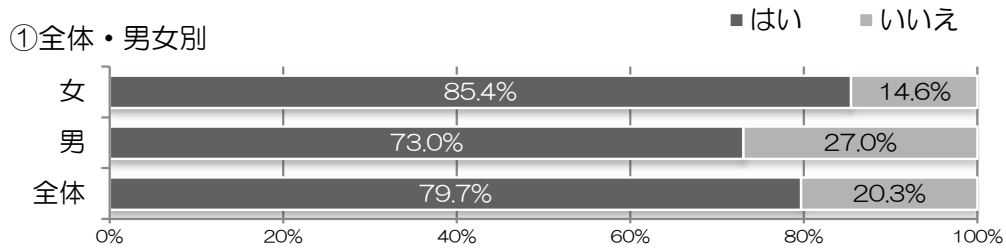


問2 運動に関心がありますか。

【現状】

- 運動に関心がある人は、全体で約8割である。
- 女性の方が関心がある人の割合が多い。
- 関心がある人が少なかったのは、70歳代、80歳代男性である。

●運動に関心がある人の割合

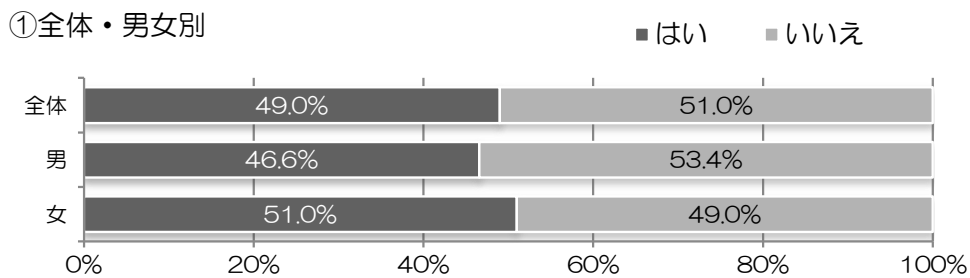


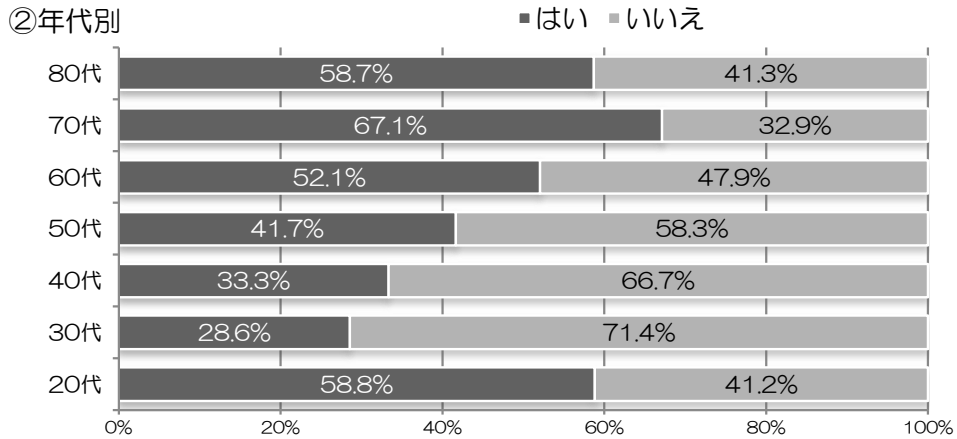
問3 あなたは定期的(週1回程度)に運動をしていますか。

【現状】

- ・定期的に運動している人は全体の約半数である。特に、30～50歳代で定期的に運動している人が少ない。

●定期的(週1回程度)の運動をしている人の割合





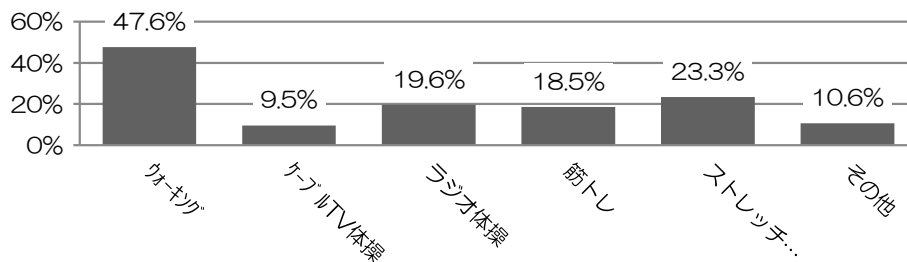
問3-1 (定期的に運動していると答えた方へ)
あなたは各場所でどんな運動をしていますか。(複数回答あり)

【現状】

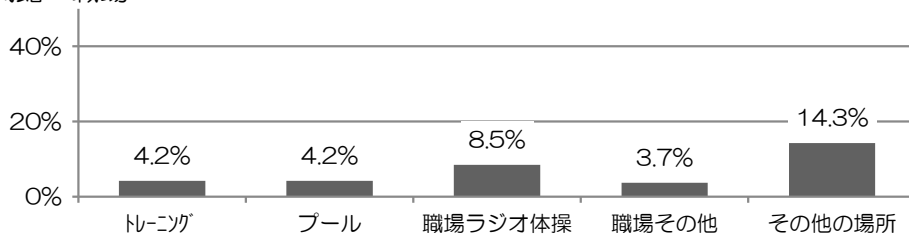
- 運動する場所は家庭が最も多い。若い年代は、職場やその他が多い。
- 運動の種類はウォーキングで約半数と最も多い。次いでストレッチ体操、ラジオ体操、筋トレ、地域運動教室の順である。

●各場所での運動の種類

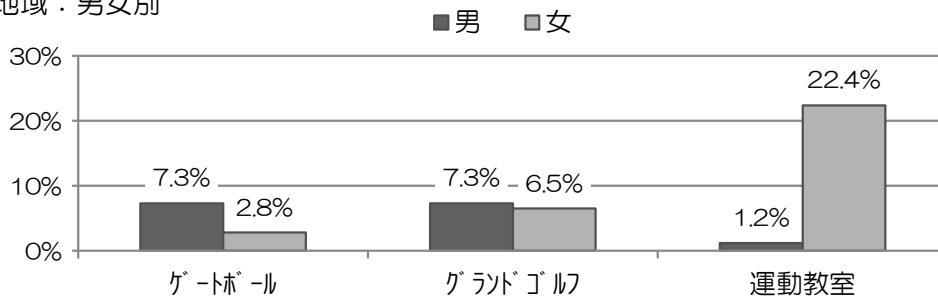
①家庭



②元気館・職場



③地域：男女別

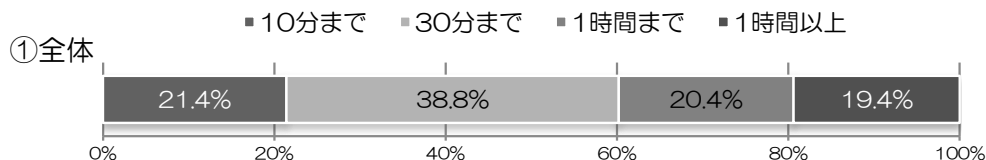


問3-2 どれくらいの頻度で、何分運動をしていますか。

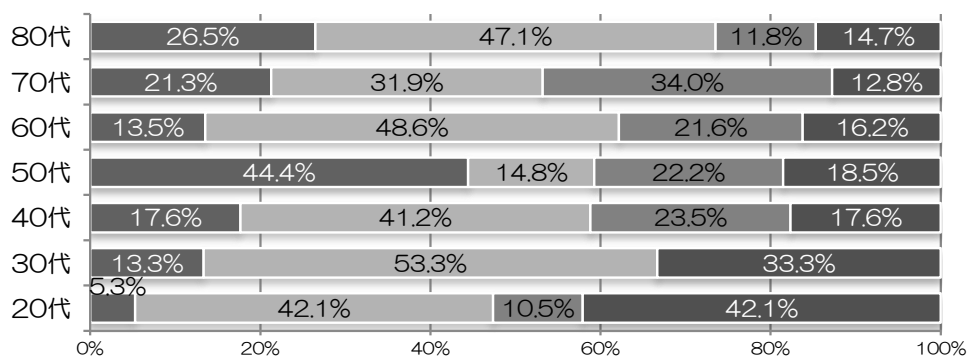
【現状】

- 1日あたりの運動時間は、10～30分までの人が約4割である。
- 50歳代で運動時間10分までの人が多い。20～30歳代は運動時間は長い傾向にある。
- 運動の頻度は月1～5回の人が44.2%と半数近い。
- 運動している人のうち月12回以上（週3回以上）の人は38.6%である。
- 運動している人の月平均回数は12.4回である。

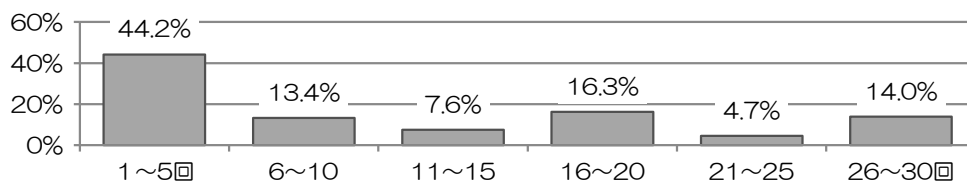
●1日あたりの運動時間



②年代別



●ひと月あたりの運動頻度



問3-3 運動を始めたきっかけは何ですか。（1つ回答）

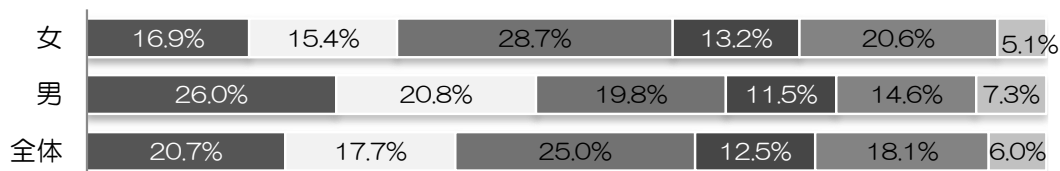
【現状】

- 若い世代では健康・体力・身体づくり、気分転換・ストレス解消の割合が多い。
- 60歳代以上になると腰痛・膝痛・肩こり悪化防止の割合が多くなる。
- 男性で最も多いのは健康・体力・身体づくりであり、女性は腰痛・膝痛・肩こり防止が最も多い。

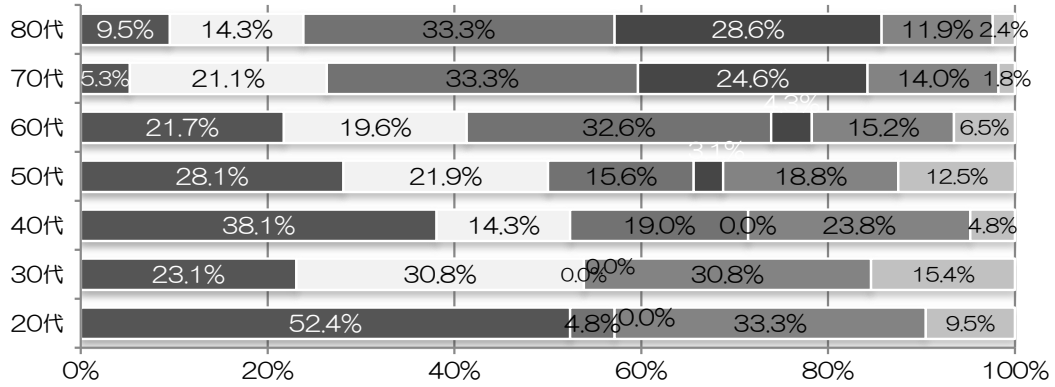
●運動を始めた理由

■ 健康・体力・身体づくり ■ 生活習慣病予防

①全体・男女別



②年代別



問3-4 運動をしていない理由は何ですか。（複数回答あり）

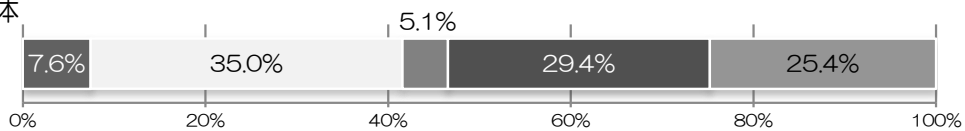
【現状】

- 運動をしていない理由は時間がない が最も多く35.0%である。次に、きっかけがない、何となくできないの順である。
- 30・40歳代で時間がない人の割合が多い。

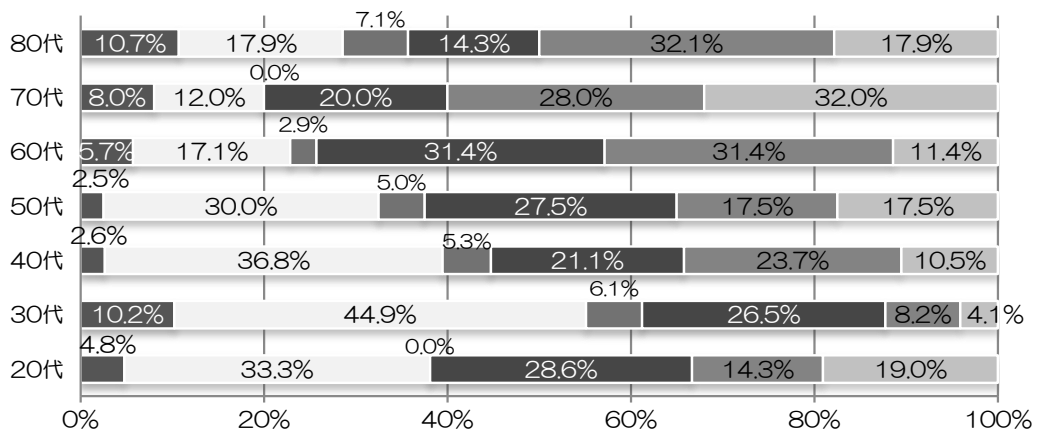
●運動をしていない理由

- 必要性を感じない
- 時間がない
- 運動方法分からない
- きっかけがない
- 何となくできない

①全体



②年代別



(5) たばこ・アルコール・歯の健康について

問1 たばこを吸いますか。

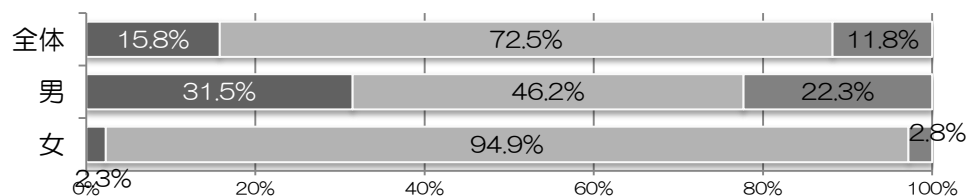
【現状】

- 20～39歳は、県の数値より低く、県の目標を達成している。
- 働き盛り世代（40～50歳代）の男性の喫煙率が半数を超えている。
- 若い女性ほど喫煙率が高い傾向で、20歳代では1割を超えている。

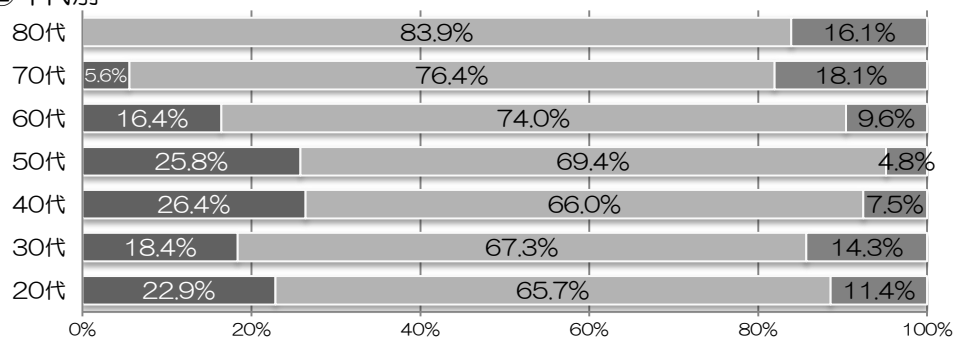
●たばこを吸っている人の割合

■吸う ■吸わない ■やめた

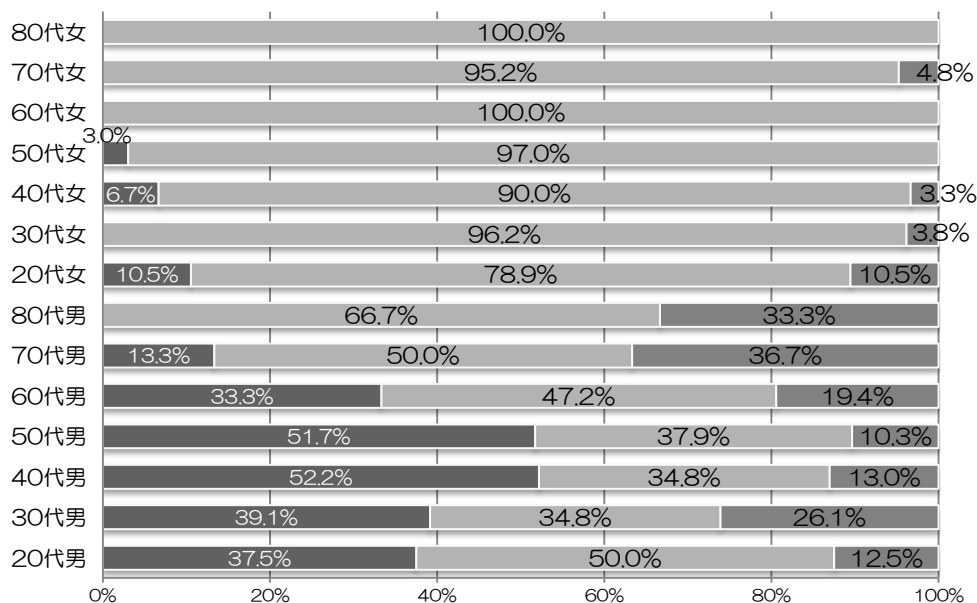
①全体・男女別



②年代別



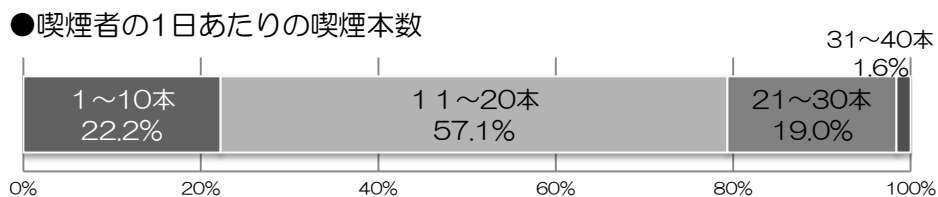
③年代・男女別



問1-1 (たばこを吸うと答えた方へ)
1日何本吸いますか。

【現状】

- 喫煙者の喫煙本数は1日平均18.1本である。



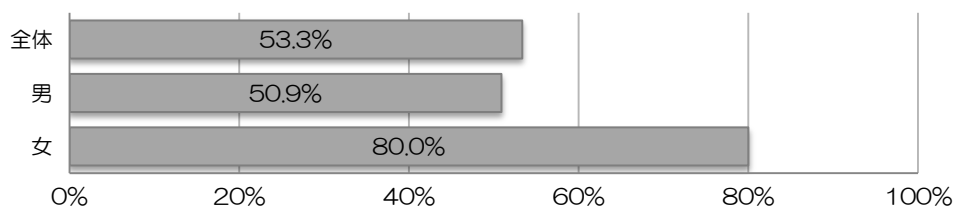
問1-2 (たばこを吸う人と答えた方へ)
あなたはたばこをやめたいと思いますか。

【現状】

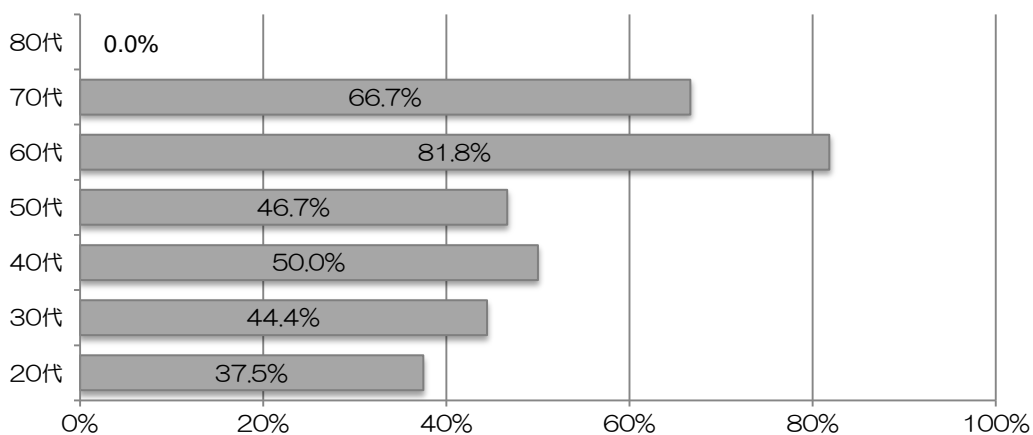
- たばこをやめたい人はH21年度調査より増加している。年代が高くなるほどやめたい人が増加し、特に60歳代以上で多い。
- 女性の8割はやめたいと思っている。

●たばこをやめたいと思っている人の割合

①全体・男女別



②年代別



問1-2 (たばこをやめたいと思うと答えた方へ)
やめるためにはどのような支援をのぞみますか。

【現状】

- たばこをやめるために望む支援として、禁煙外来の情報を知りたい人が一番多く34.4%を占める。これはH21年度調査と同様の結果である。
(参考) H21年度調査結果より～ 1位) 禁煙外来の紹介 2位) 相談窓口の紹介

●たばこをやめるために望む支援

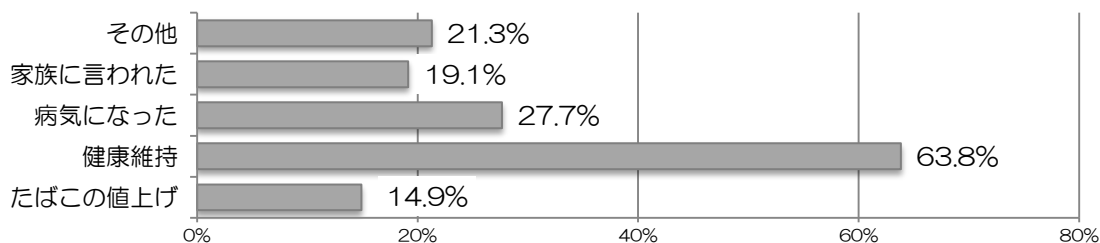


問1-3 (たばこをやめたと答えた方へ)
たばこをやめたきっかけは何ですか。(複数回答あり)

【現状】

- たばこをやめたきっかけは、健康維持のためや病気になったことが全体の9割を超える。

●たばこをやめた理由

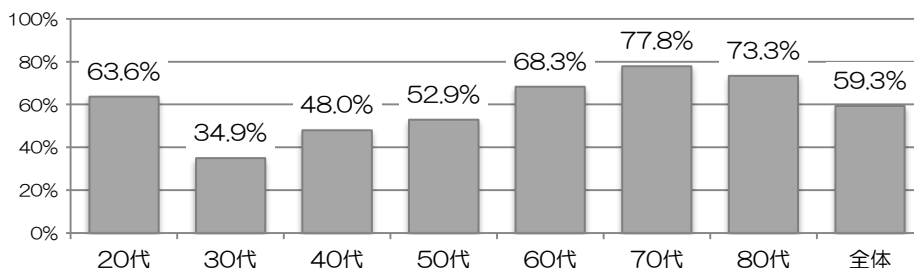


問2 禁煙に関する情報を知っていますか。

【現状】

- 禁煙に関する情報を知っている人は全体で約6割。年代の高い人に多くなっており、やめたい人と同様である。
- 30歳代で最も低く34.9%しか知らない状況である。

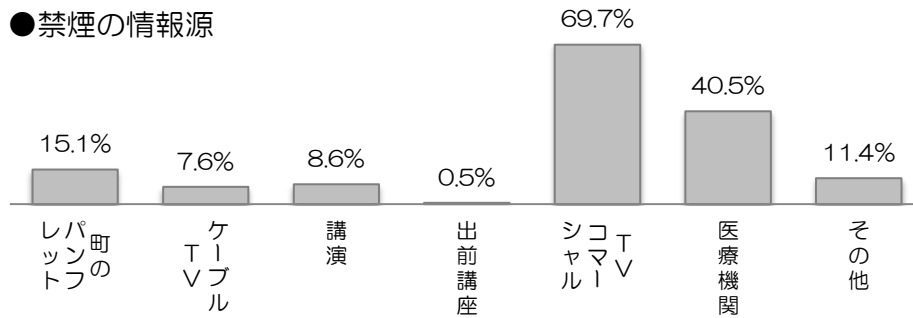
●禁煙に関する情報を知っている人の割合



問2-1 (禁煙の情報を知っていると答えた方へ)
その情報をどうやって知りましたか。(複数回答あり)

【現状】

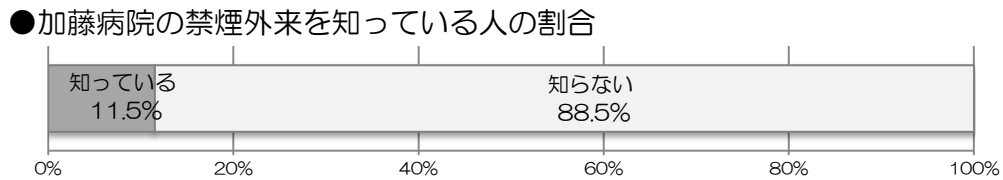
- 禁煙情報はTVコマーシャルから得ている人が約7割である。



問3 あなたは邑智郡内では加藤病院が禁煙外来をしていることをご存じですか。

【現状】

- 加藤病院に禁煙外来があることを知っている人は1割しかいない。



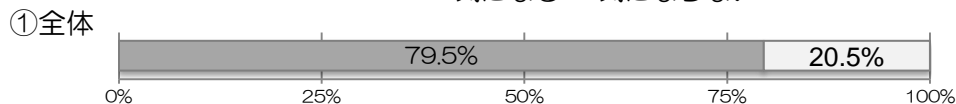
問4 あなたはたばこの煙をどう思いますか。

【現状】

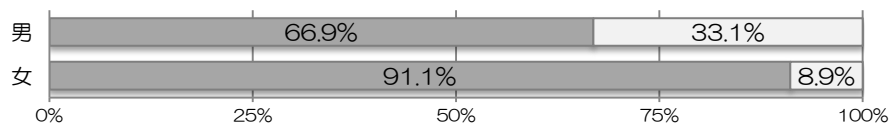
- たばこの煙が気になる人は全体で約8割であり、特に女性は9割を超える。
- たばこを吸わない人では煙が気になる人が85.2%であり、たばこを吸う人に比べて多い。

●たばこの煙が気になる人の割合

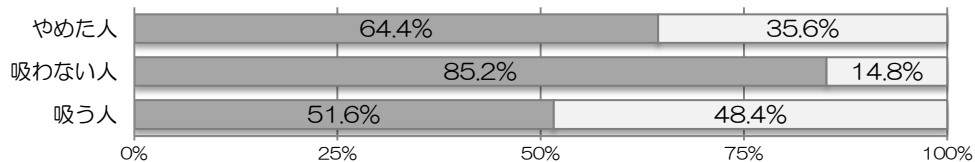
■気になる □気にならない



②男女別



③喫煙状況との関係

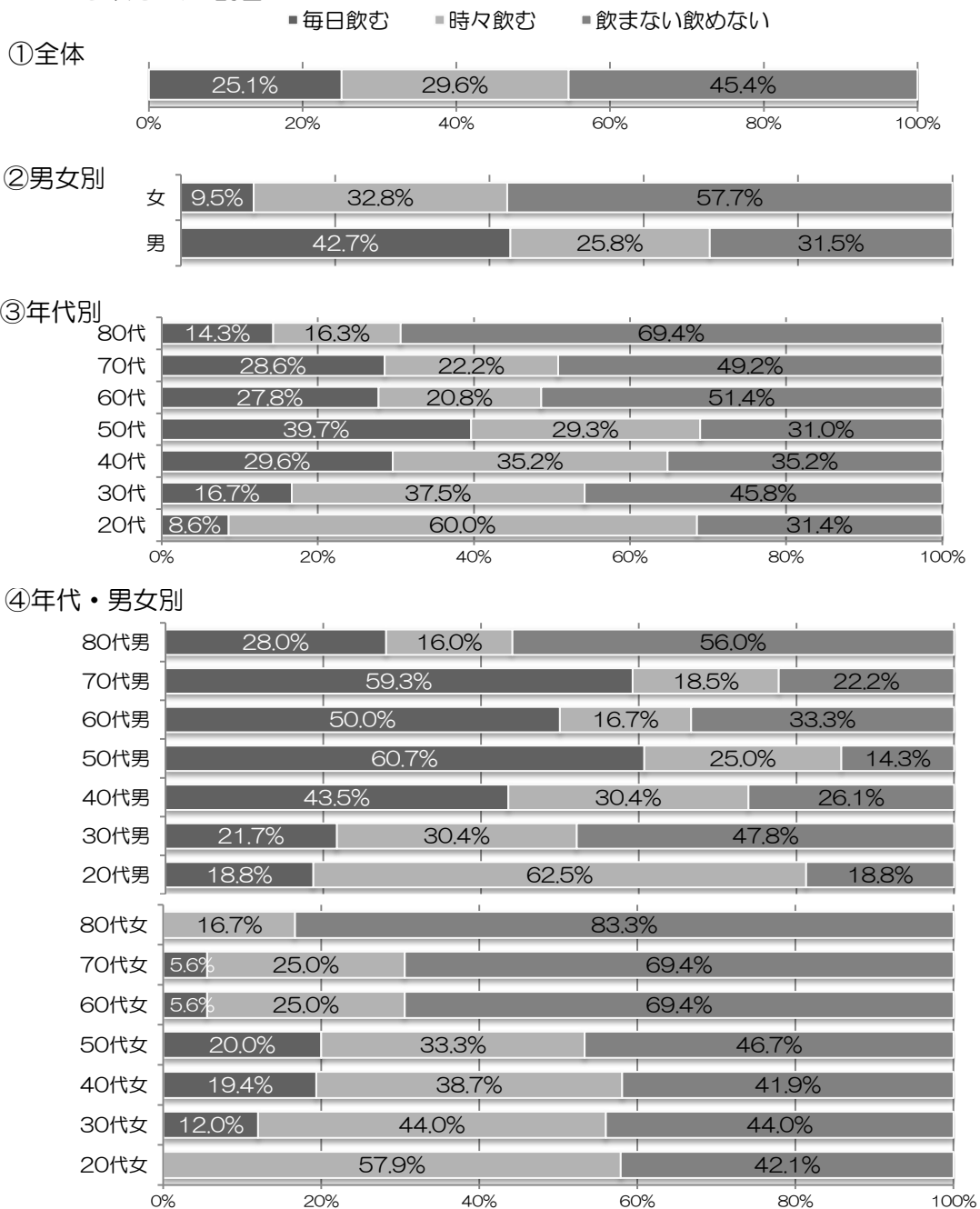


問5 あなたはお酒を飲みますか。

【現状】

- お酒を飲む人の割合は男女とも50歳代が最も高い。
- 毎日飲む人は男性で6割、女性が2割である。

●お酒を飲む人の割合

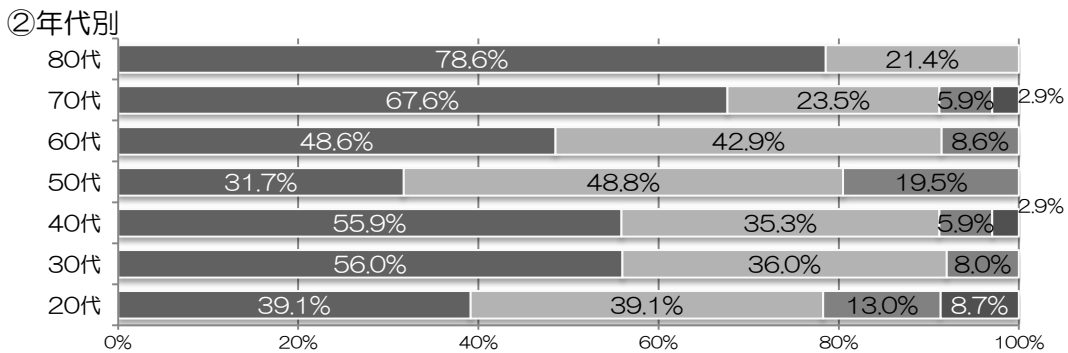
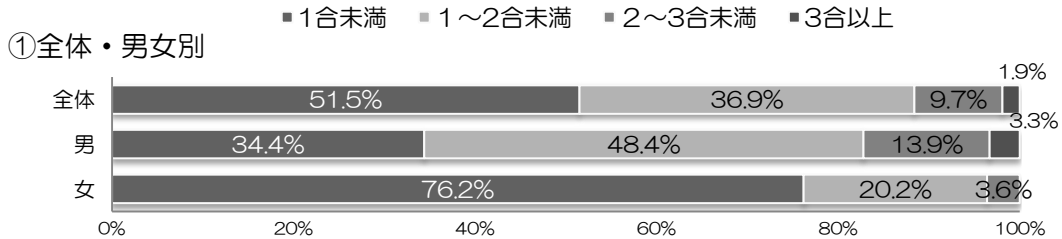


問5-1 (飲むと答えた方へ) 飲酒日の1日あたりの飲酒量はどれくらいですか。

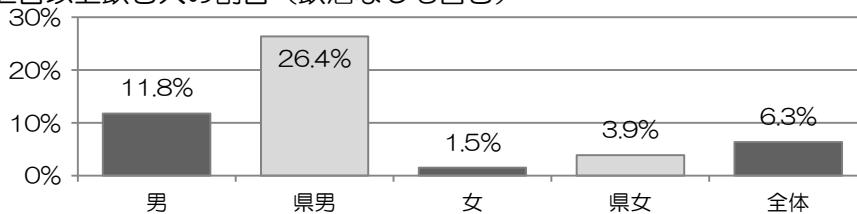
【現状】

- お酒を飲む人のうち、1合未満の人が半数、2合以上飲む人は1割以上ある。
- お酒を飲まない人も含めて2合以上飲む人の割合は、男女とも県最終値より低く、県の目標値に達している。

●お酒を飲む人の飲酒量



③2合以上飲む人の割合(飲酒なしも含む)

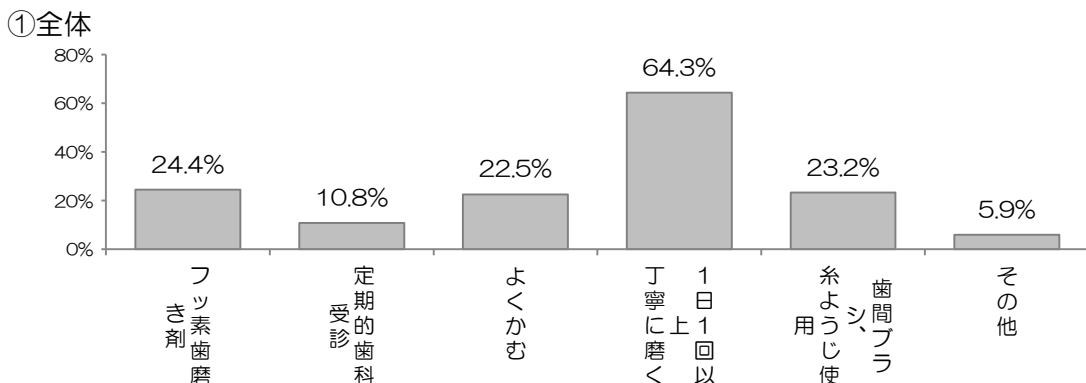


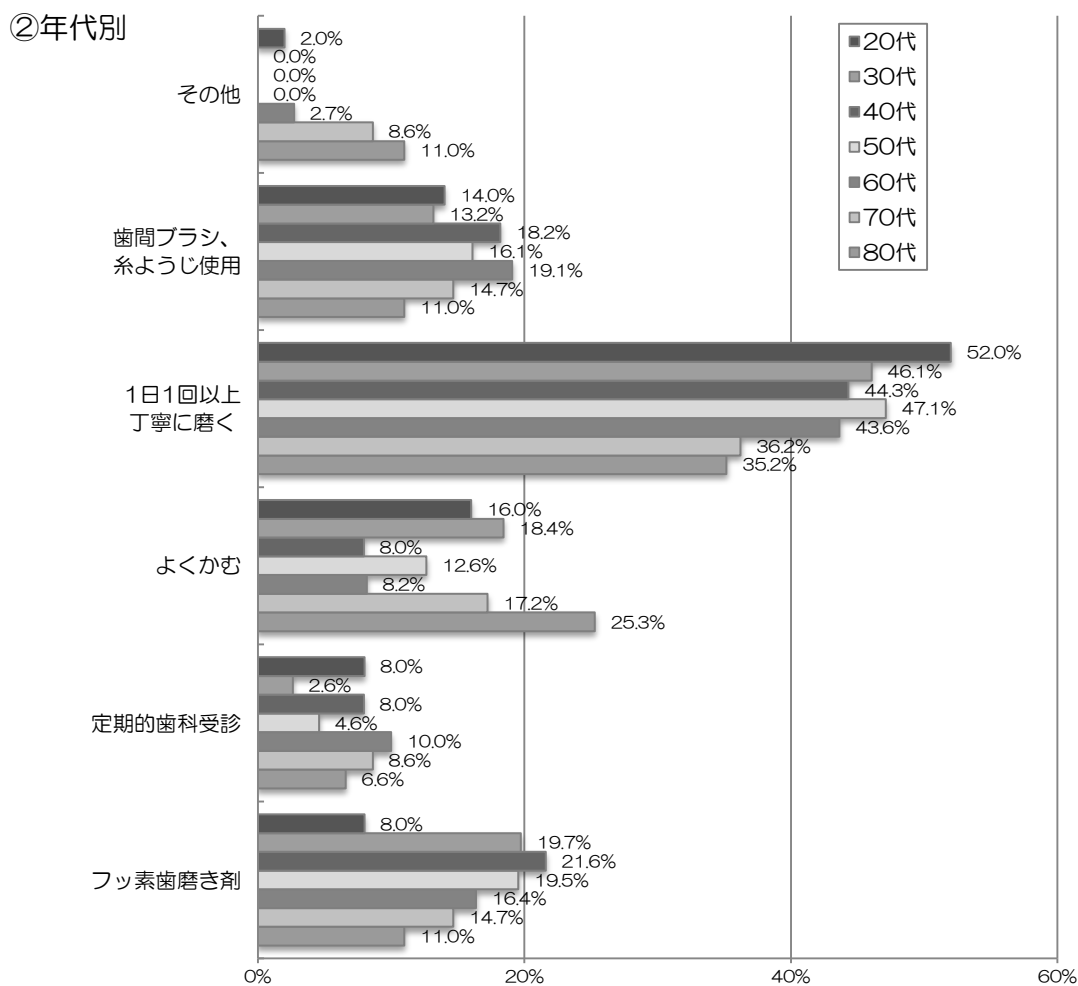
問6 あなたは歯の健康のために気をつけていることがありますか。(複数回答あり)

【現状】

- 歯の健康のために気をつけていることが1つでもある人は86.1%ある。
- 1日1回以上丁寧に磨いている人は6割以上である。
- フッ素入りの歯磨き剤を使用していると答えた人が24.4%。
- 定期的に歯科検診を受けている人は約1割であり、県の数値より低く目標値に達していない。

●歯の健康のために気をつけていること





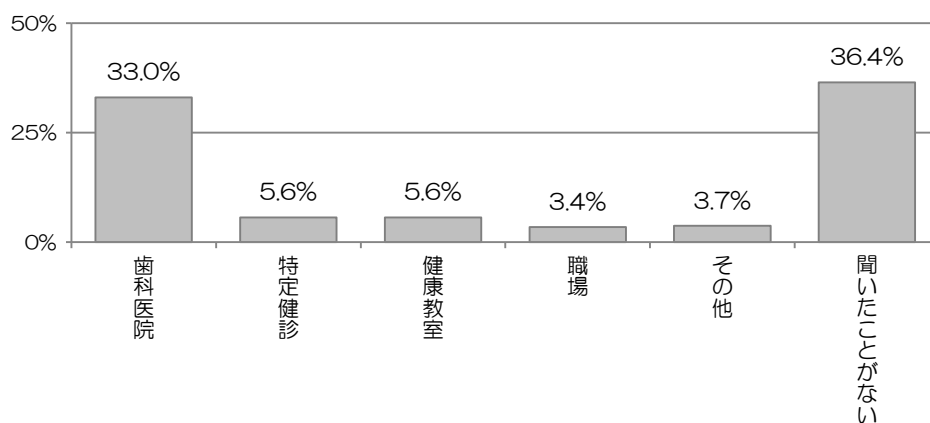
問7 この1年間に歯科医師、歯科衛生士等からむし歯予防や歯周病予防についてどのような時に指導や話を聞きましたか。（複数回答あり）

【現状】

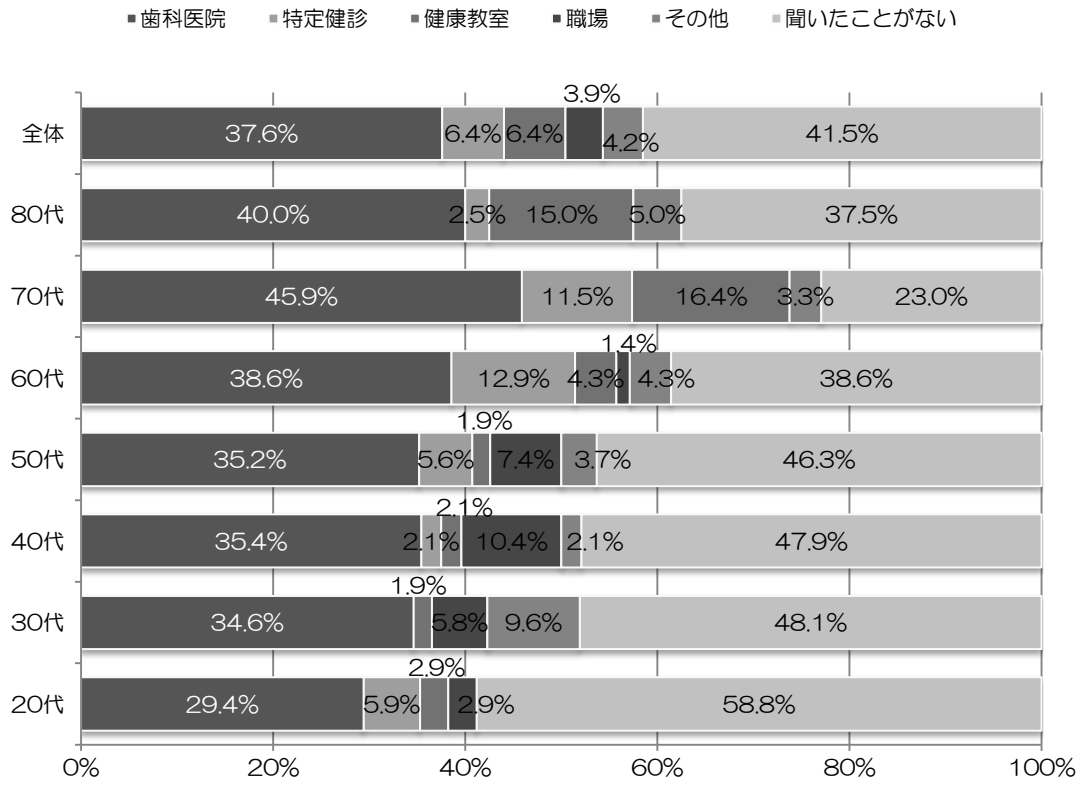
- ・ 歯科に関する情報提供は聞いたことがない人が最も多い。
- ・ 若い世代で聞いたことがない人が約半数と多い。

● 歯科医師、歯科衛生士等から指導や話を聞いた場所

① 全体



②年代別



(6) 心の健康について

問1 あなたはご自分の休養は十分とれていますか。

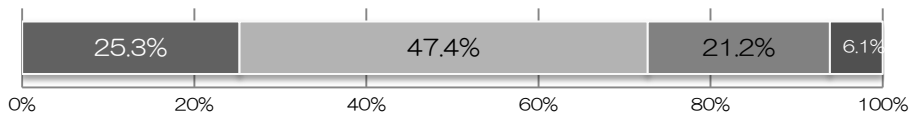
【現状】

- ・休養不足である、休養が不足しがちであると答えた人が約3割である。
- ・20～50歳代で休養が十分とれていない人の割合が多い。

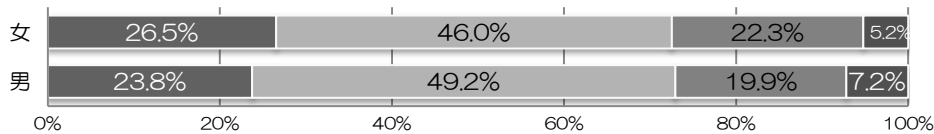
●休養がとれている人の割合

- 十分とれている
- まあとれている
- 不足しがちである
- 休養不足である

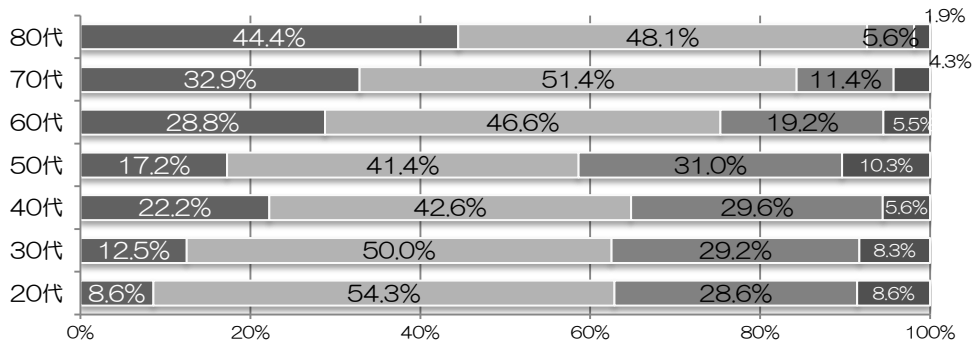
①全体



②男女別



③年代別



問2 あなたは寝つきが悪いことがありますか

【現状】

- ・寝つきが悪いことが常にある、しばしばあると答えた人は全体で2割弱である。
- ・H21年度邑南町健康づくり意識調査と同様の傾向である。
- ・20・60歳代男性、40歳代女性に多い。

●寝つきが悪い人の割合

- 全くない
- めったにない
- 時々ある
- しばしばある
- 常にある

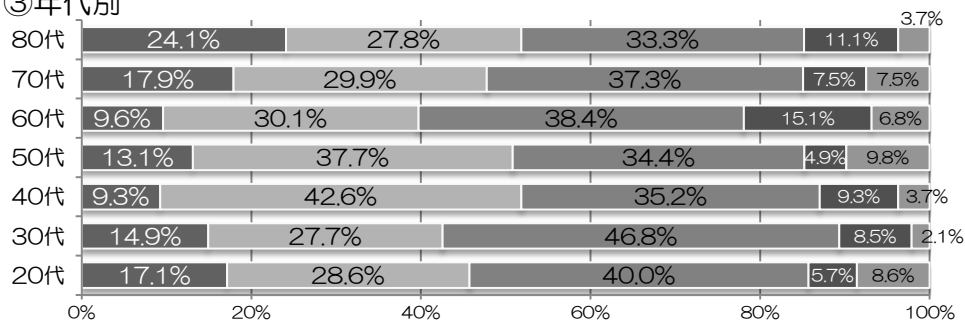
①全体



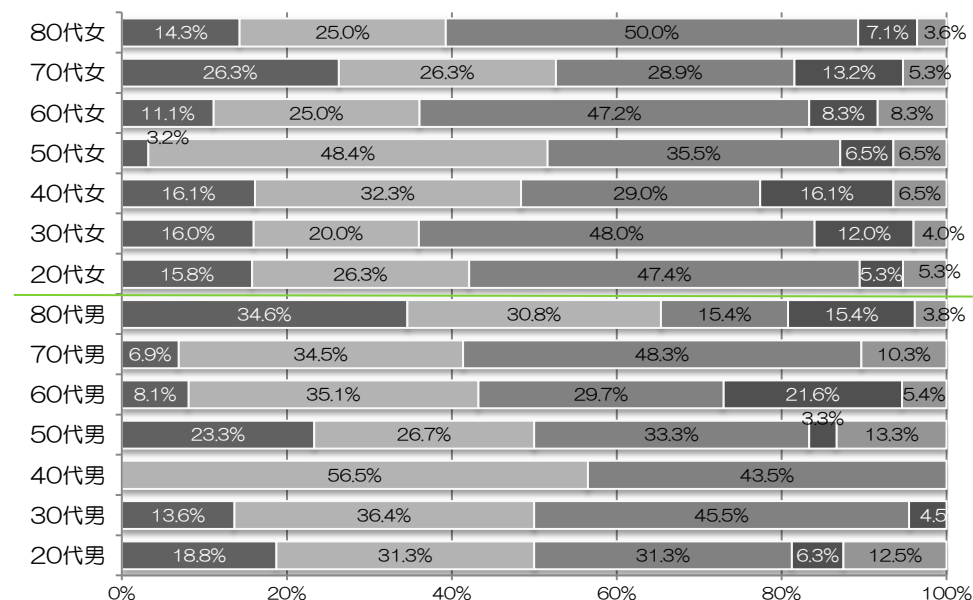
②男女別



③年代別



④年代・男女別



問3 あなたは眠りを助けるために睡眠剤や安定剤などの薬、アルコール飲料を使いますか。（使うと答えた方へ）何を使いますか。

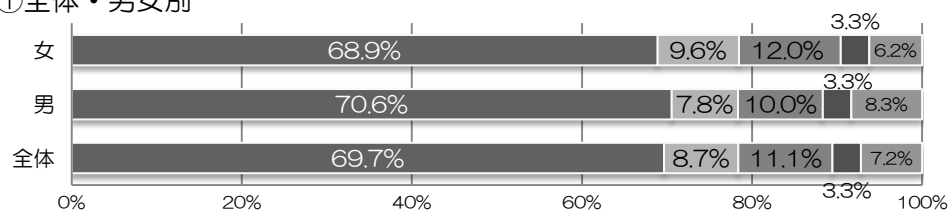
【現状】

- 眠りを助けるものを使っている人は2割であり、男性の方が多い。
- 男性は20歳代、女性は40歳代でよく使っている。
- アルコールが約3割で、若い人に多い。
- 睡眠剤と安定剤の内服が約7割を占め、60～80歳代で多い。

●睡眠剤や安定剤、アルコール飲料を使う人の割合

■全くない ■めったにない ■時々ある ■しばしばある ■常にある

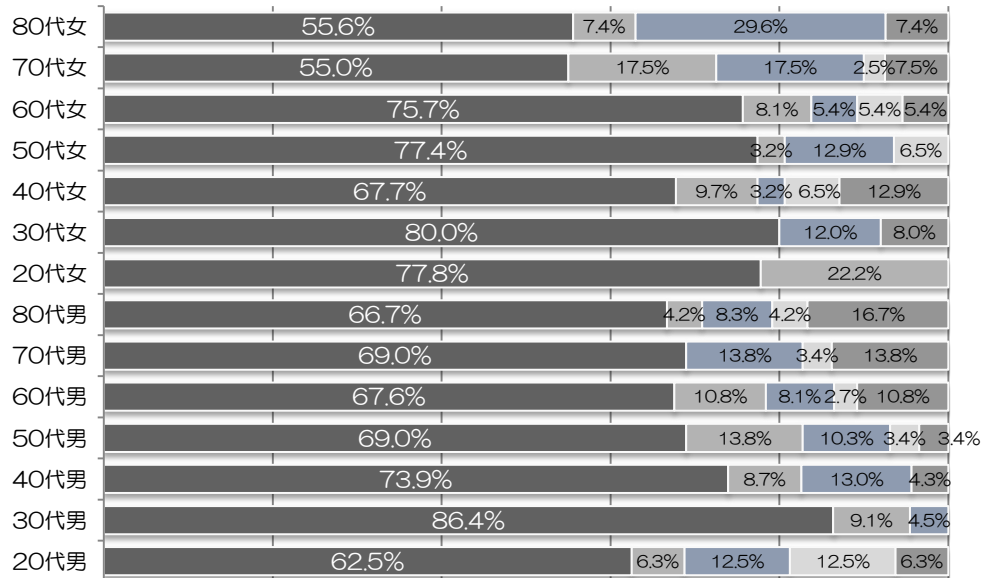
①全体・男女別



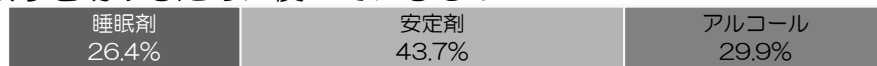
②年代別



③年代・男女別



●眠りを助けるために使っているもの

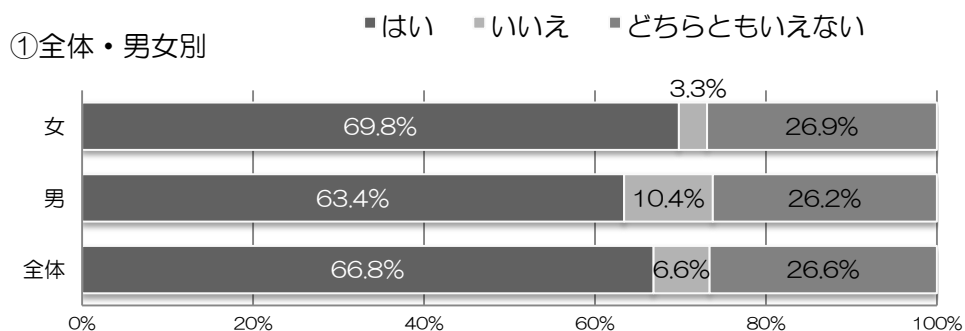


問4-1 あなたは今の生活は幸せであると思いますか。

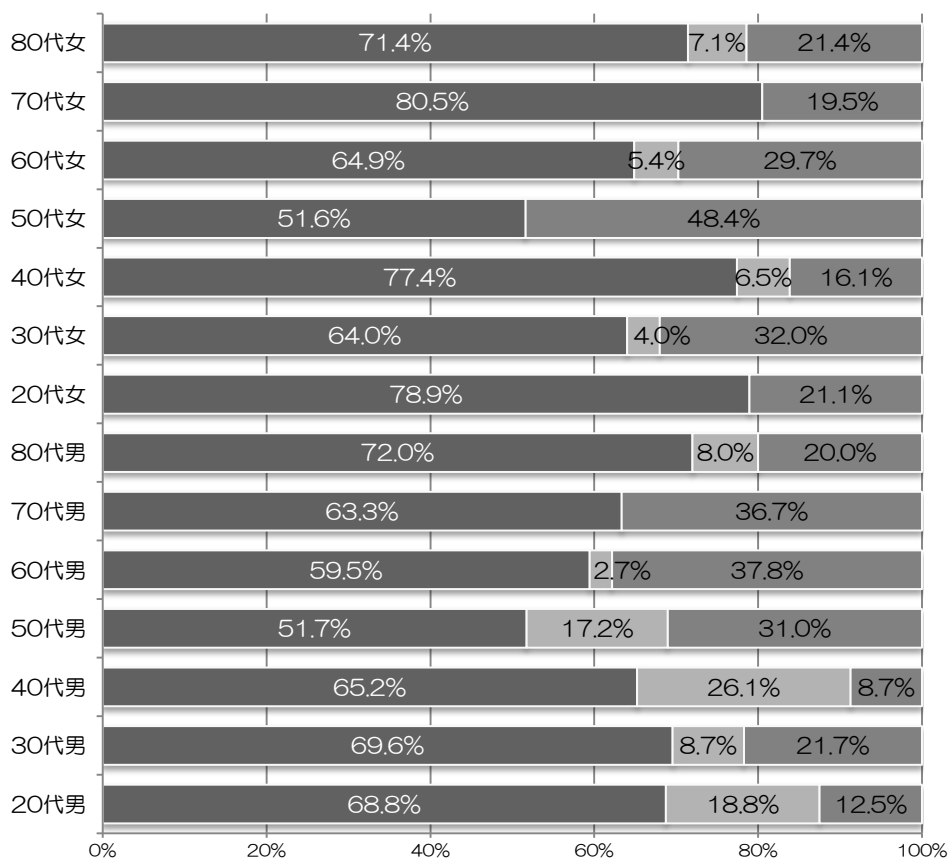
【現状】

- 幸せであると思っている人は約7割である。
- 50歳代で幸福感が少ない。
- 男性の方が幸福感が少ない。特に20・40・50歳代で少ない。

●幸せであると思う人の割合



②年代・男女別



問4-2 あなたは生きがいがありますか。

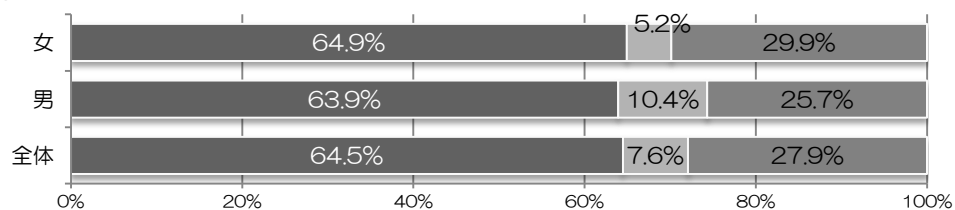
【現状】

- 生きがいがあると答えた人は全体で64.5%である。
- 幸福感が少ない20歳代男性と40・50歳代男性で生きがいがないと答えた人が多い。

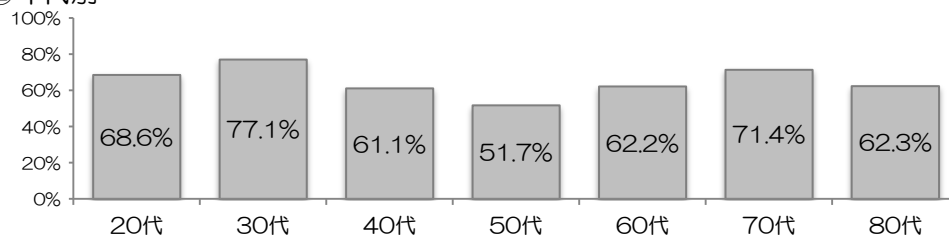
●生きがいがある人の割合

■はい ■いいえ ■どちらともいえない

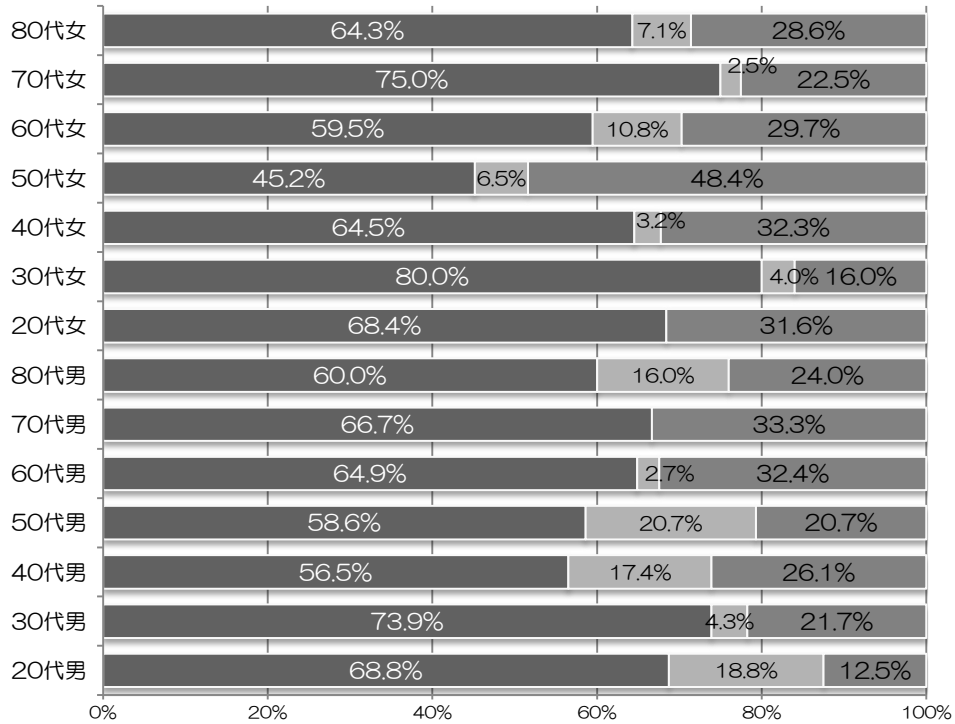
①全体・男女別



②年代別



③年代・男女別

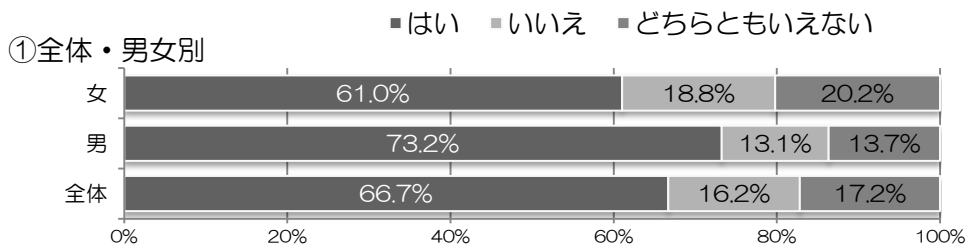


問4-3 趣味を持っていますか。

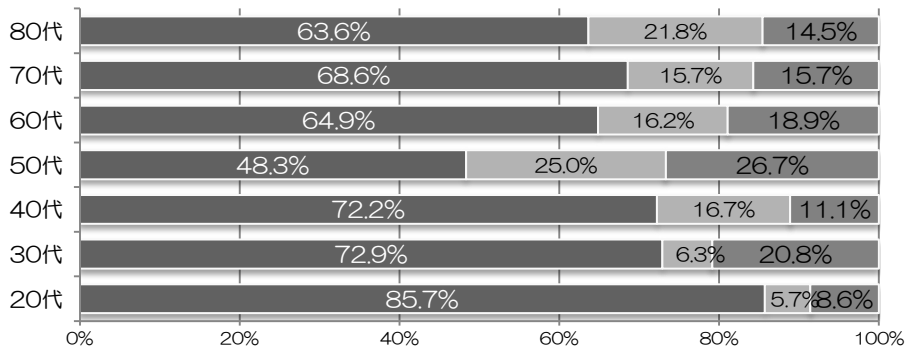
【現状】

- ・趣味を持っている人は男性73.2%、女性61.0%で、H21年度調査と比べ増加している。
- ・特に、子育てや仕事で忙しい年代の30歳代、50歳代の女性で趣味を持っている人が少ない。

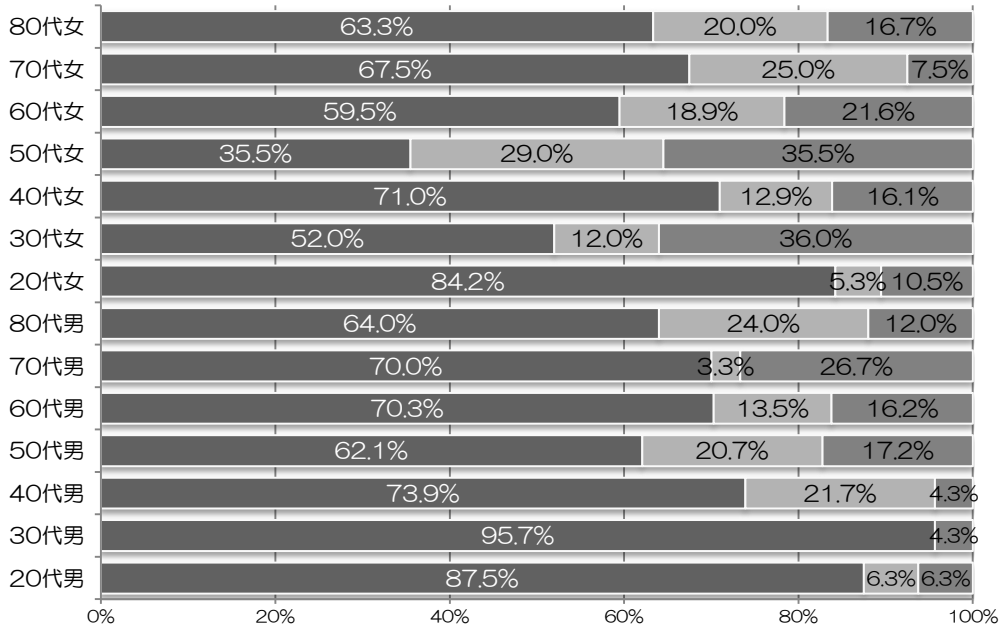
●趣味を持っている人の割合



②年代別



③年代・男女別



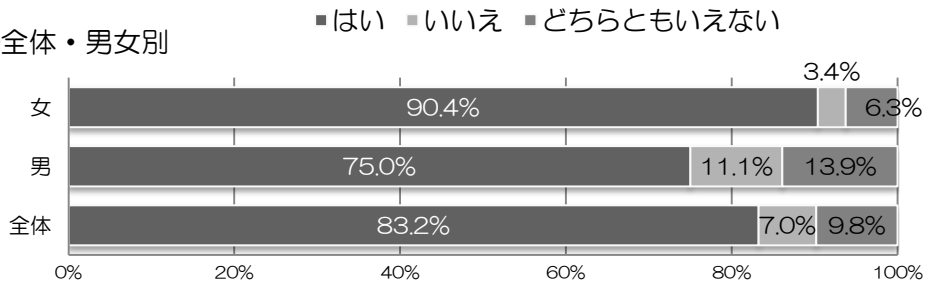
問4-4 家の中での役割を何か持っていますか。

【現状】

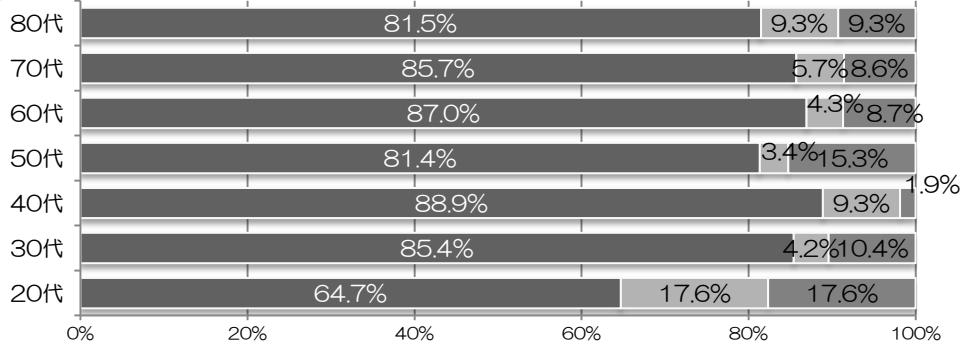
- 家の中で役割を持っている人は、男性75.0%、女性90.4%で、H21年度調査と同様である。
- 男性では、20・40・70・80歳代で役割を持っていない人が多い。

●家の中での役割を持っている人の割合

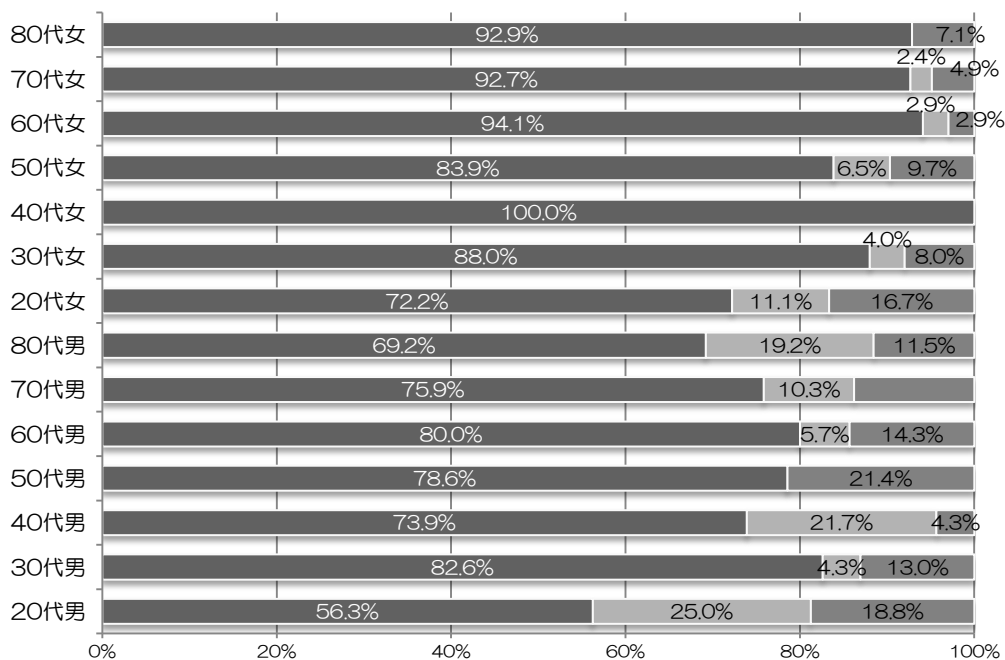
①全体・男女別



②年代別



③年代・男女別



問4-5 気軽に話し合える友達や仲間がいますか。

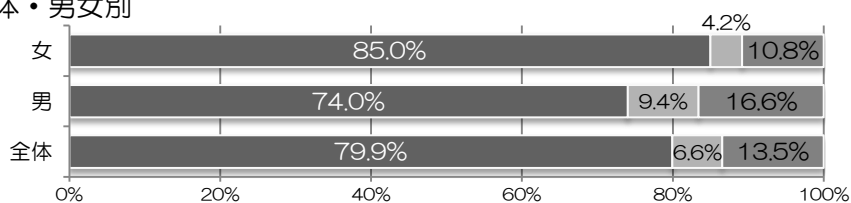
【現状】

- 気軽に話し合える友達や仲間があると答えた人は、男性74.0%、女性85.0%であり、H21年度調査と同様である。
- 気軽に話し合える友達や仲間がないと答えた人は、20・50・60・80歳代で多い。

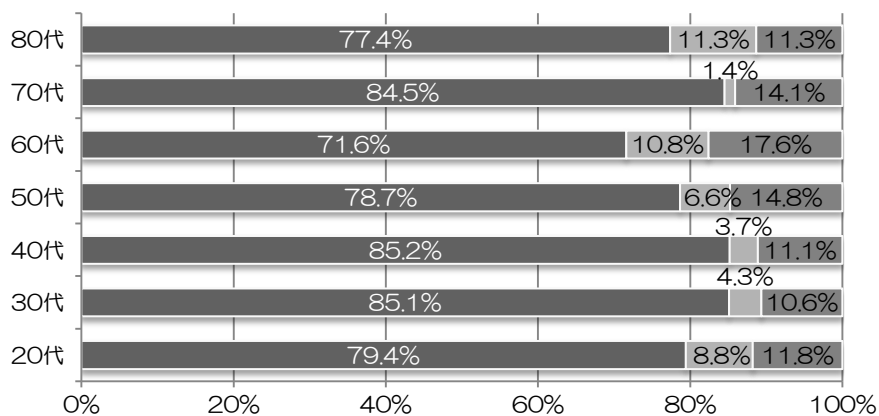
●気軽に話し合える友達や仲間がいる人の割合

■はい ■いいえ ■どちらともいえない

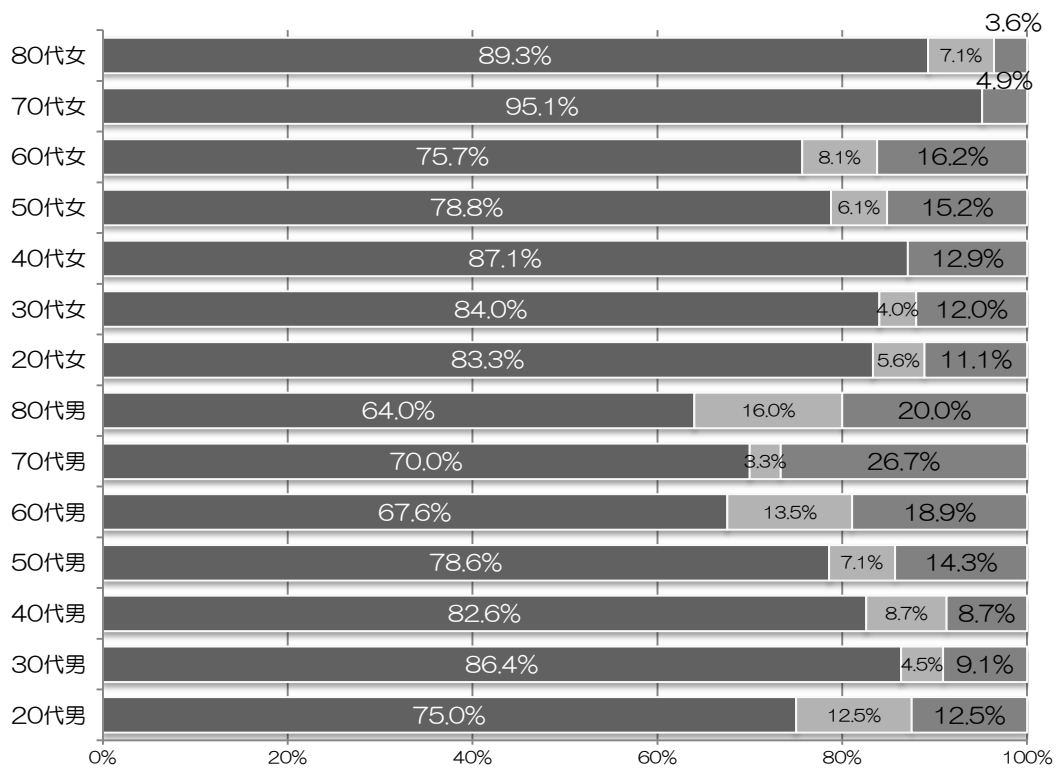
①全体・男女別



②年代別



③年代・男女別



問4-6 地域の行事や集まりには積極的に参加しますか。

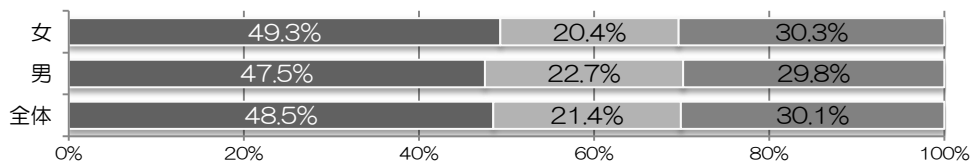
【現状】

- 地域の行事や集まりに積極的に参加すると答えた人は、男性47.5%、女性49.3%であり、H21年度調査と比べて減少している。
- 仕事や子育てで忙しい年代の20～40歳代と60歳代で参加すると答えた人が少ない。

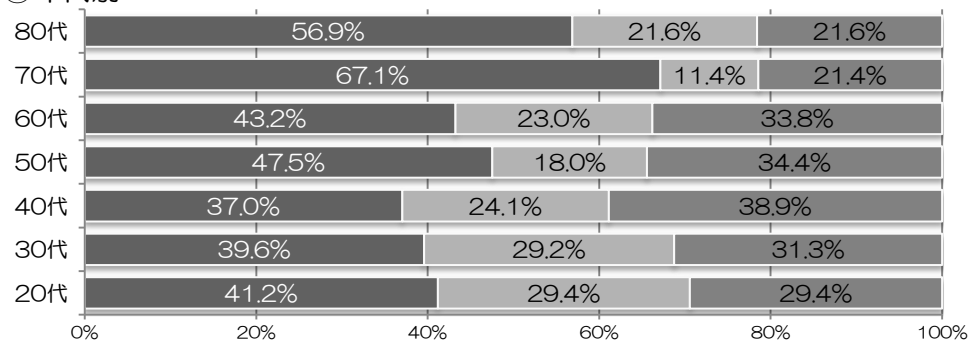
●地域の行事や集まりに積極的に参加する人の割合

■はい ■いいえ ■どちらともいえない

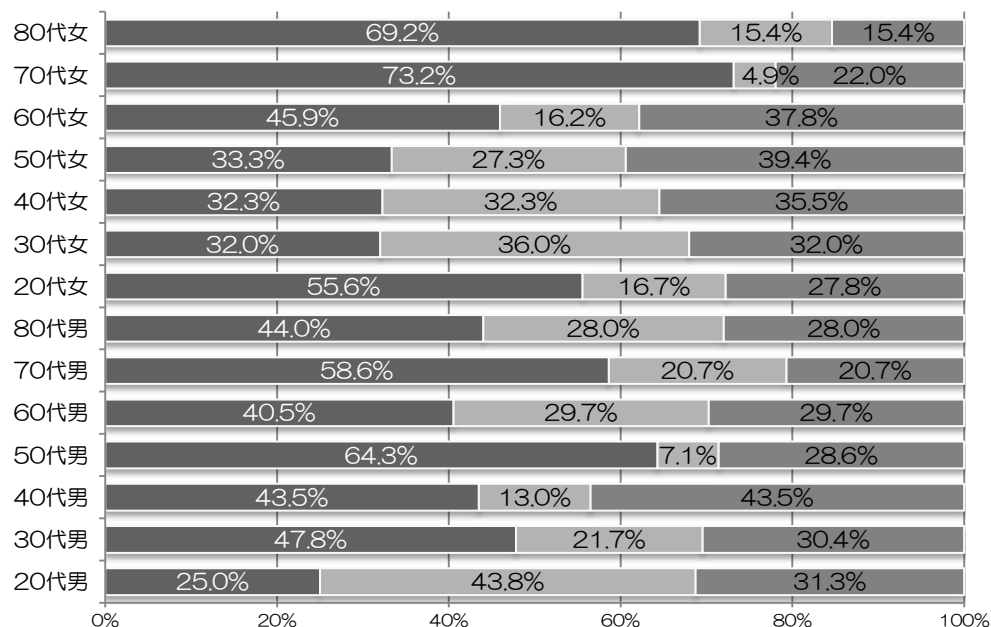
①全体・男女別



②年代別



③年代・男女別



問4-7 世代の違う人に自分から話しかけることがありますか。

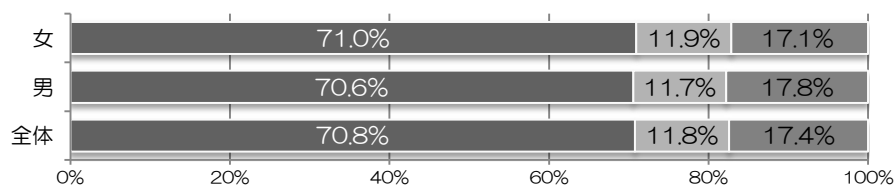
【現状】

- 世代の違う人に自分から話しかけることがある人が、男女とも約7割ある。
- 地域の集まり等も出にくいと答えた人が多い30歳代は、話しかけると答えた人が少ない。

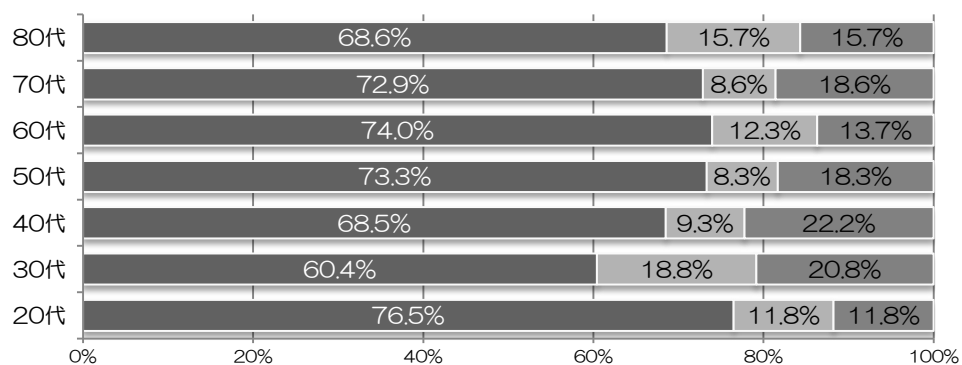
●世代の違う人に自分から話しかけることがある人の割合

■はい ■いいえ ■どちらともいえない

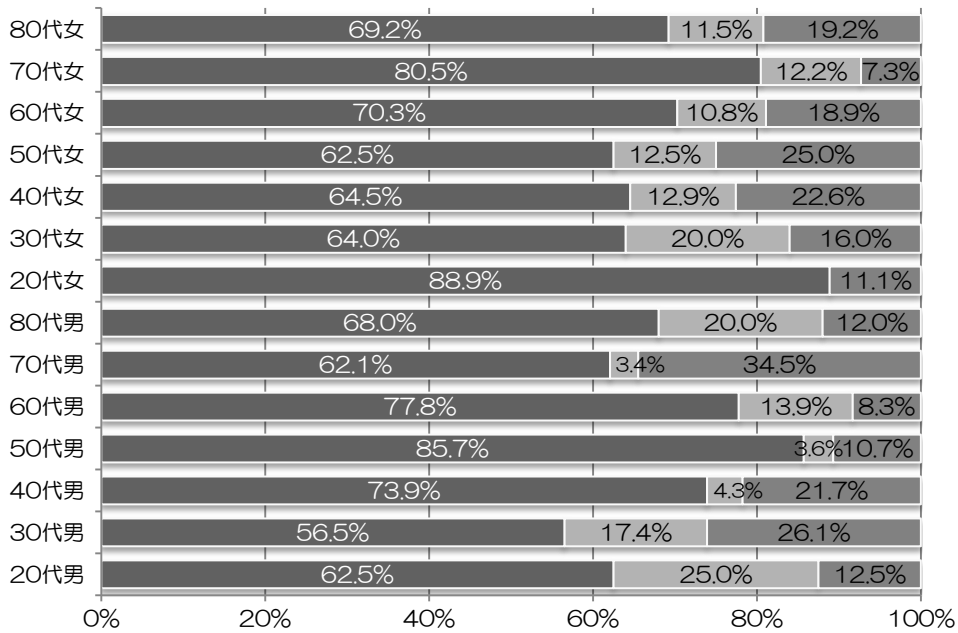
①全体・男女別



②年代別



③年代・男女別

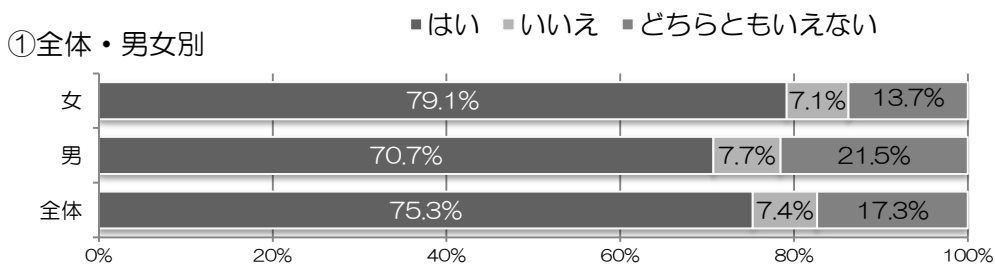


問4-8 家族とよく話をしますか。

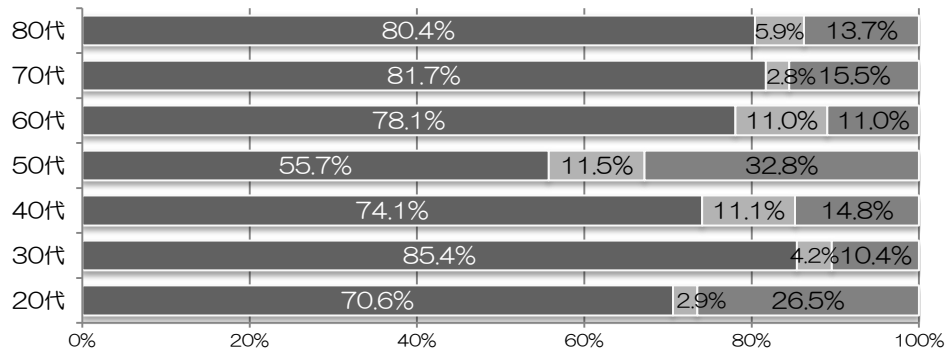
【現状】

- ・家族とよく話をすると答えた人は、男性7割、女性8割である。
- ・よく話をすると答えた人が少ないのは、20歳代男性と50歳代男女である。
- ・いいえと答えた人は40歳代男性で一番多く、2割である。

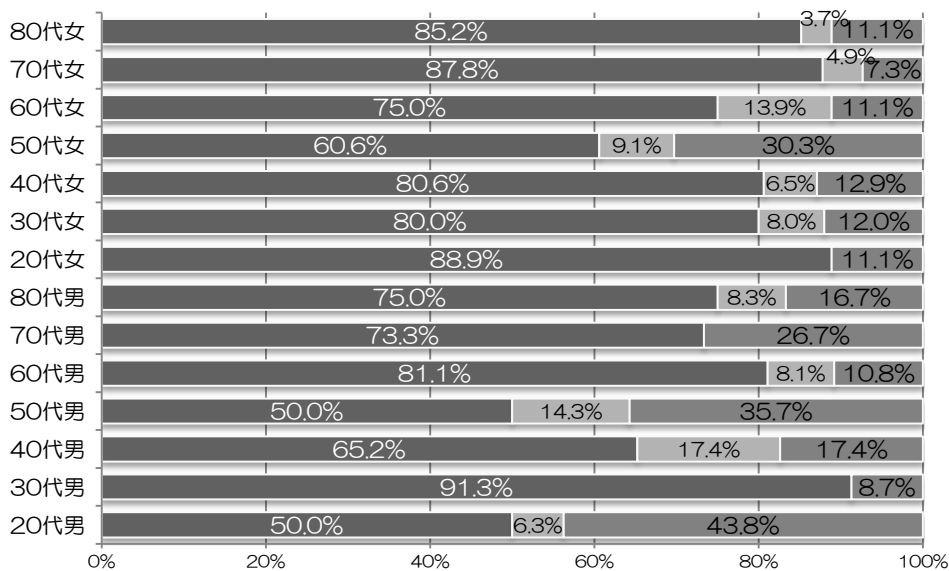
●家族とよく話をする人の割合



②年代別



③全体・男女別

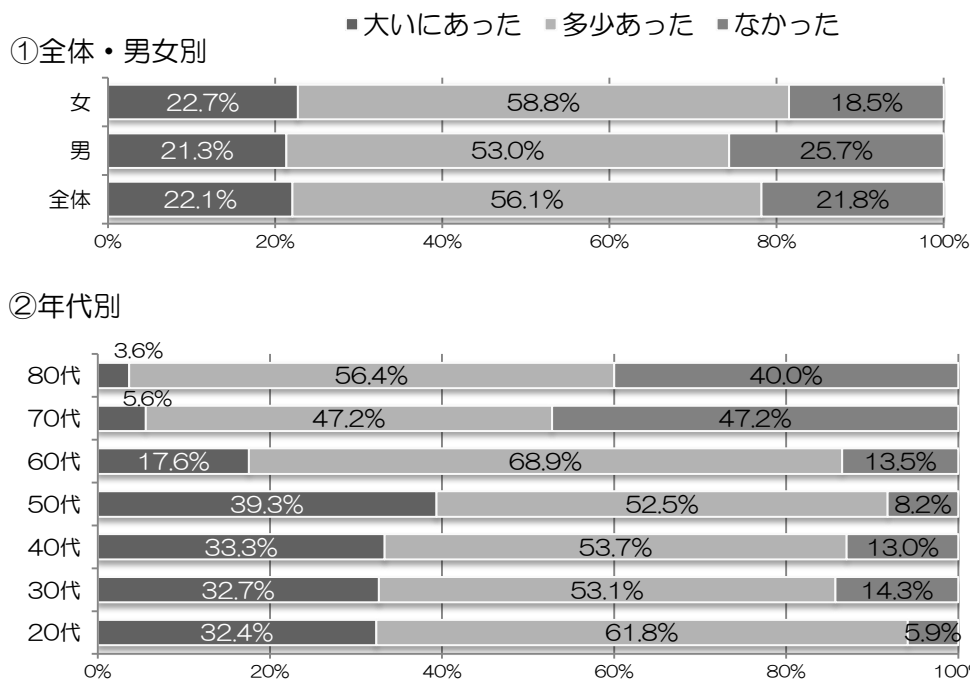


問5 この1か月の間にストレスを感じたことがありますか。

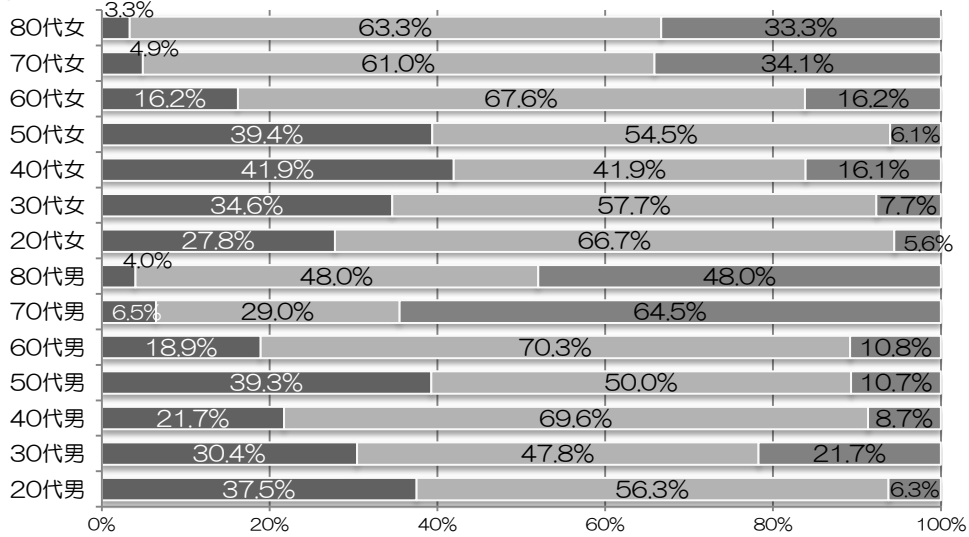
【現状】

- ストレスが大いにあった人、多少あったと答えた人は男女ともに約8割であり、H21年度調査と比べ増加している。これは県と比べても割合が多い。
(H22島根県健康栄養調査では男性51.6%、女性66.4%である。)
- 60歳代までの年代でストレスを感じている人が多い。

●この1か月にストレスを感じたことのある人の割合



③年代・男女別



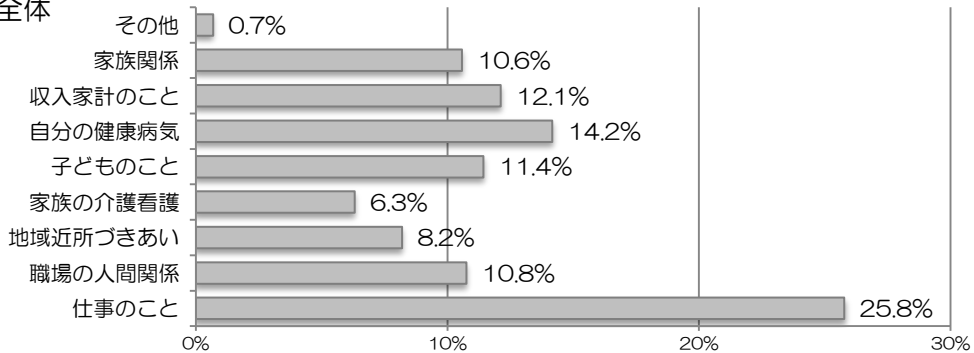
問5-1 ストレスの内容はどのようなことですか。（複数回答あり）

【現状】

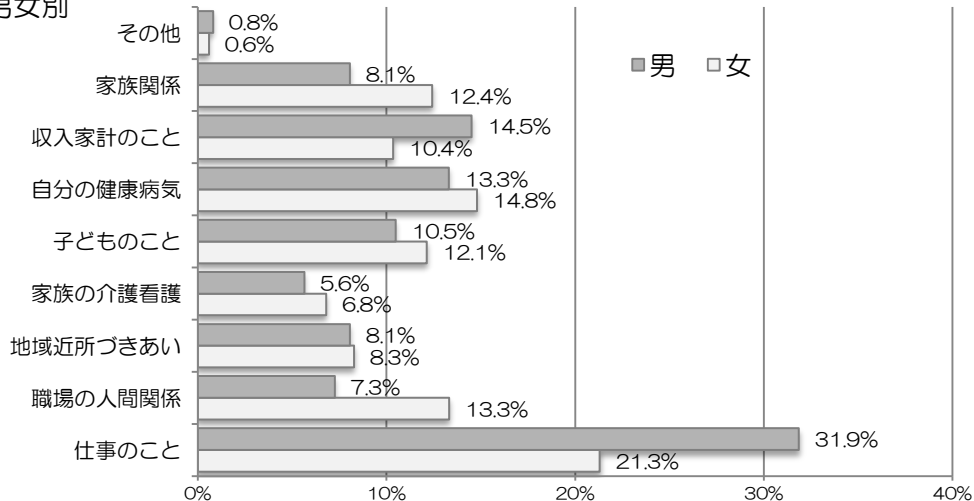
- ・ストレスの内容は男女別にみると下のような順位であった。
 男性：1位) 仕事(約3割) 2位) 収入、家計のこと 3位) 自分の健康
 女性：1位) 仕事(約2割) 2位) 自分の健康 3位) 職場の人間関係
- ・60歳代以上から家族の介護が増加し、70・80歳代では自分の健康病気と答えた人が多い。

●ストレスの内容

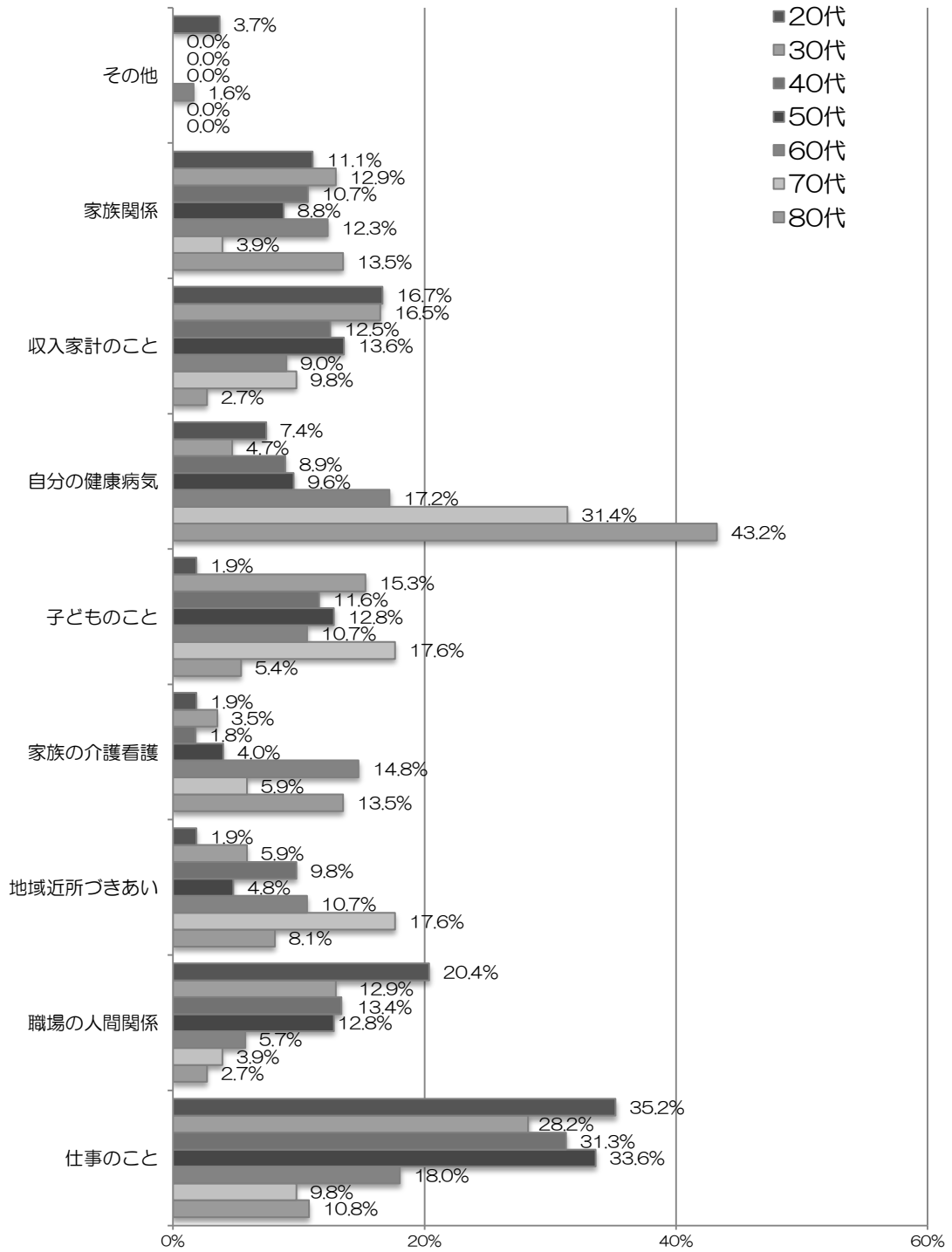
①全体



②男女別



③年代別



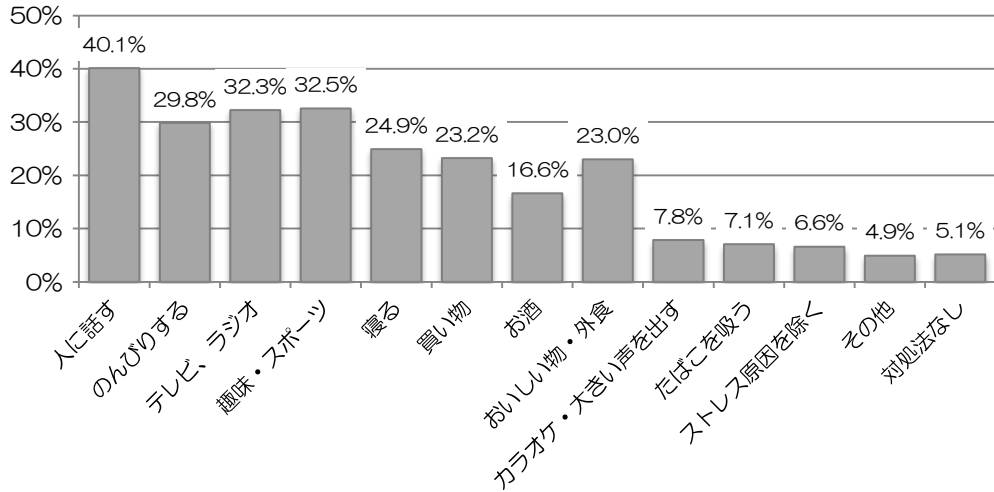
問6 ストレスの解消法があればあてはまるものすべてに○をしてください。

【現状】

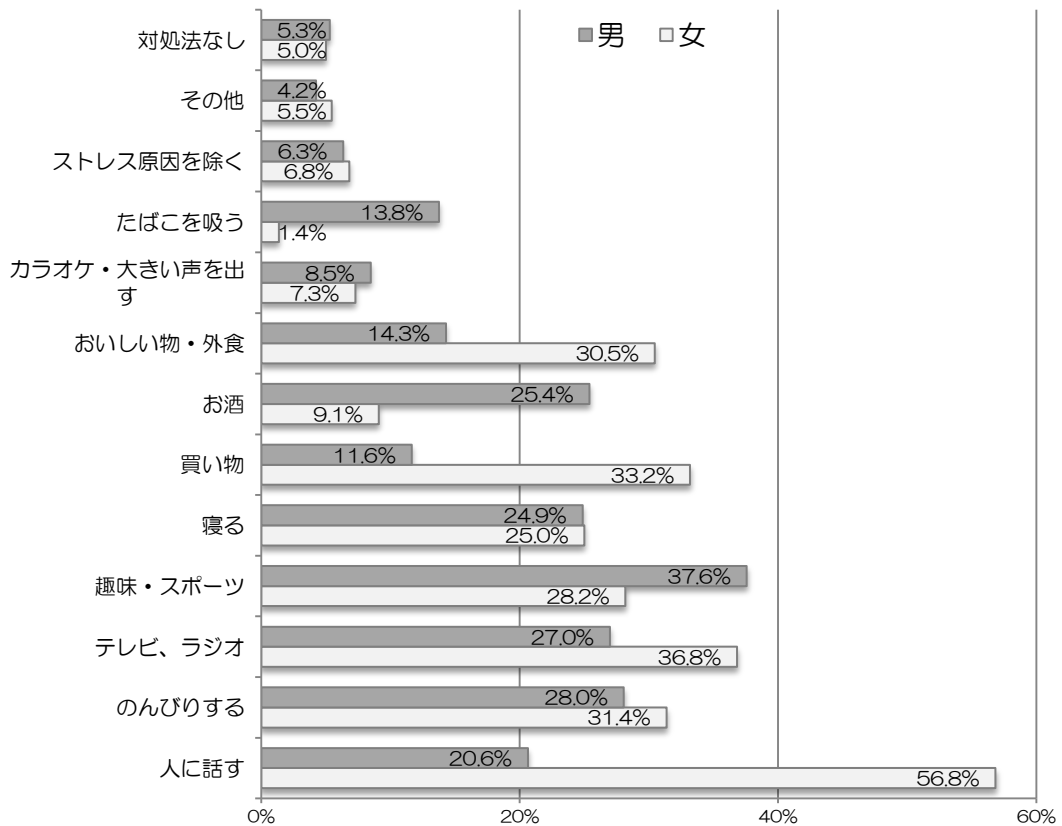
- ・ストレスの解消法がない人は5.1%であり、H21年度調査と比べ減少している。
- ・お酒やたばこでストレスを解消する人も減っている。

●ストレス解消法

①全体



②男女別



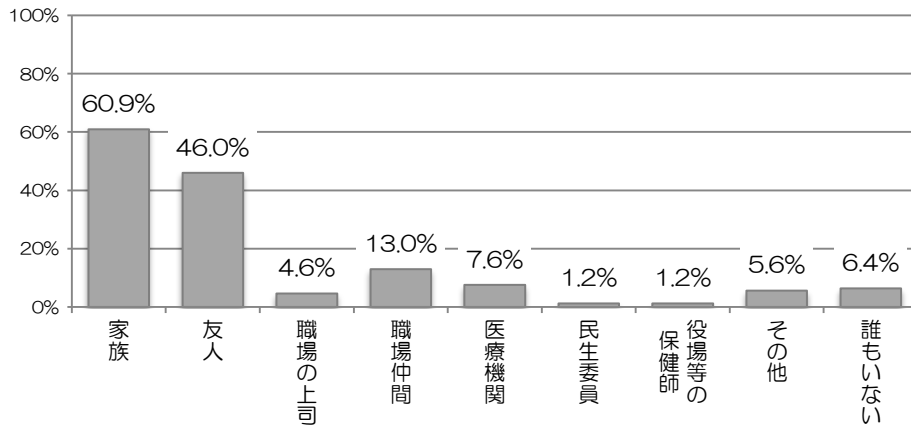
問7 もしつらいことがあったり、ストレスを感じた時は誰に相談しますか。
(複数回答あり)

【現状】

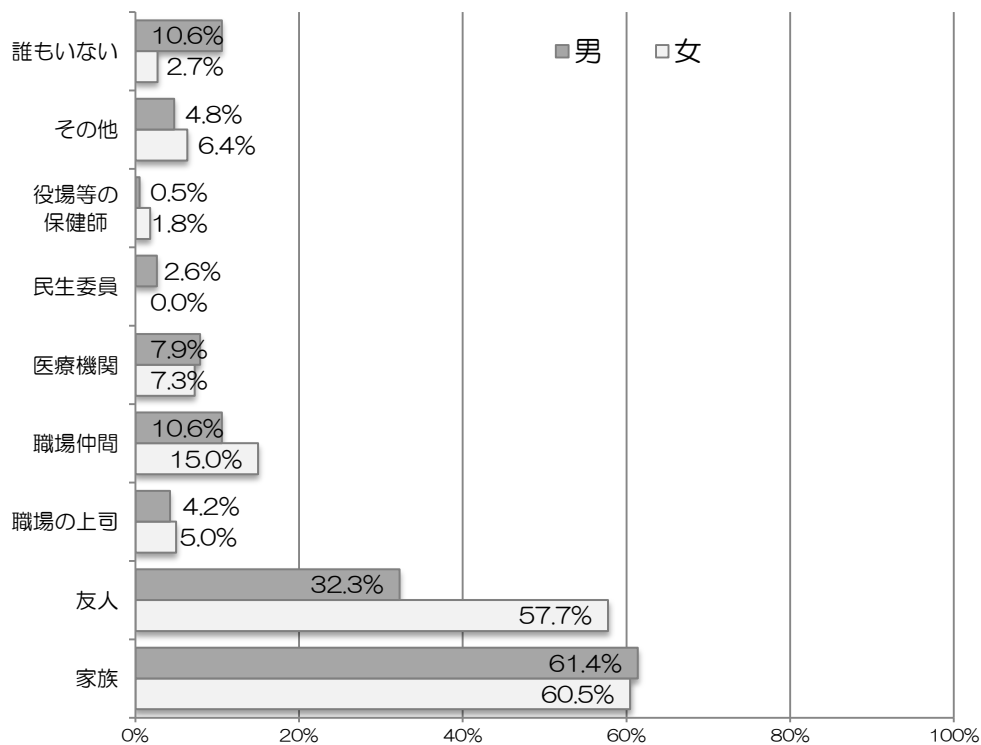
- つらいことやストレスを感じた時の相談相手として一番多いのが家族であり約6割、友人は46.0%、その他の項目はわずかである。
- 友人と答えた人は、女性は57.7%であるが、男性は32.3%と少ない。
- 誰もいないと答えた人は6.4%であり、H21年度調査と比べ減少している。

● つらいことがあったりやストレスを感じた時に相談する相手

①全体



②男女別



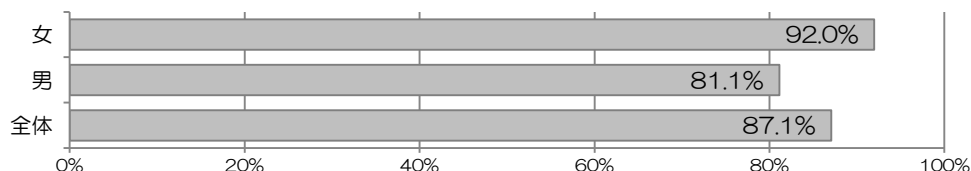
問8 あなたは心の病気は誰もがかかりうる病気である事を知っていますか。

【現状】

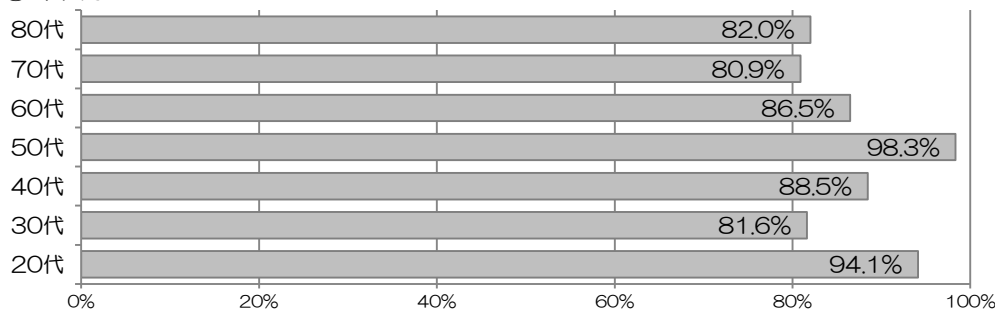
- 心の病気は誰もがかかりうる病気であることを知っている人は87.1%であり、H21年度調査と比べ増加している。
- 高齢者では知っている人が増加しているが、20～40歳代では減少しており県と比べても少ない。

●心の病気は誰もがかかりうる病気であることを知っている人の割合

①全体・男女別



②年代別



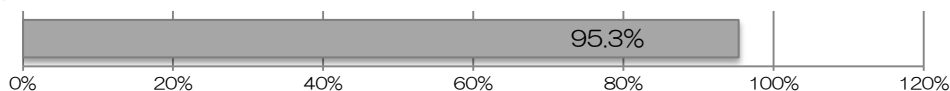
問9 あなたは自殺の原因に「うつ病」があることを知っていますか

【現状】

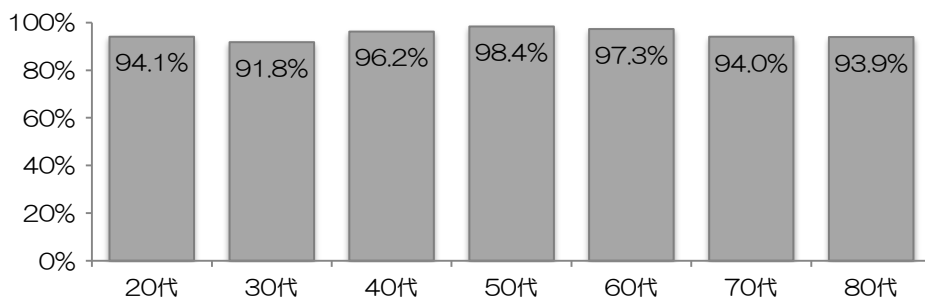
- 自殺の原因に「うつ病」があることを知っている人が95.3%であり、どの年代も9割以上である。

●自殺の原因にうつ病があることを知っている人の割合

①全体



②年代別



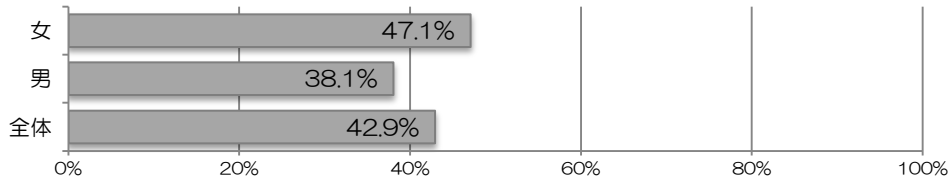
問10 あなたは「うつまたはうつ状態の人」に対する対応の仕方を知っていますか。

【現状】

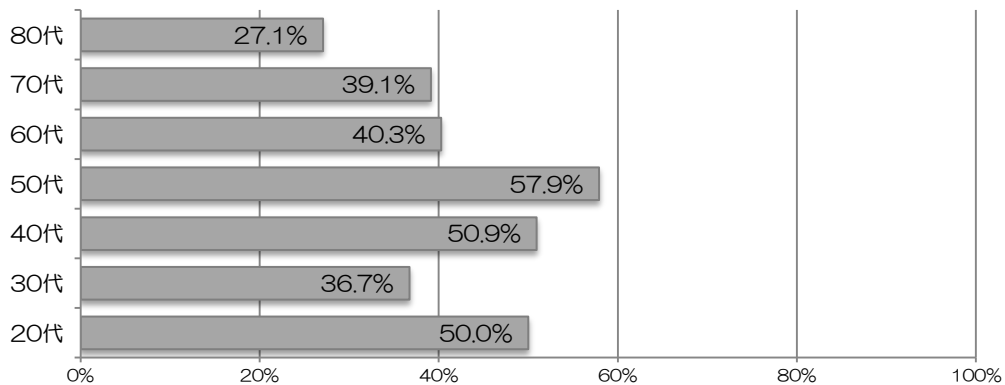
- うつまたはうつ状態の人に対する対応の仕方を知っている人は全体で42.9%と少ない。
- 60歳代以上から知っている人が減少している。

●うつまたはうつ状態の人に対する
対応の仕方を知っている人の割合

①全体・男女別



②年代別



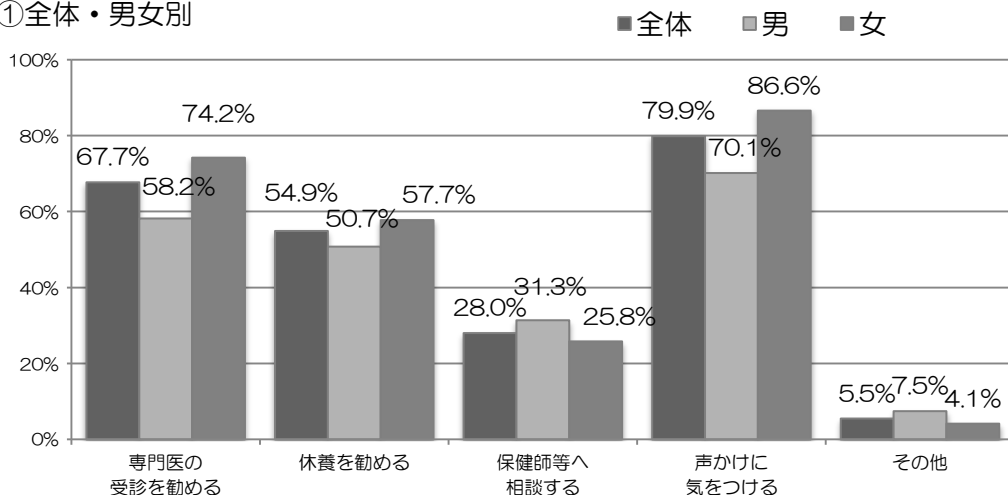
問10-1 どういう対応か知っていますか。

【現状】

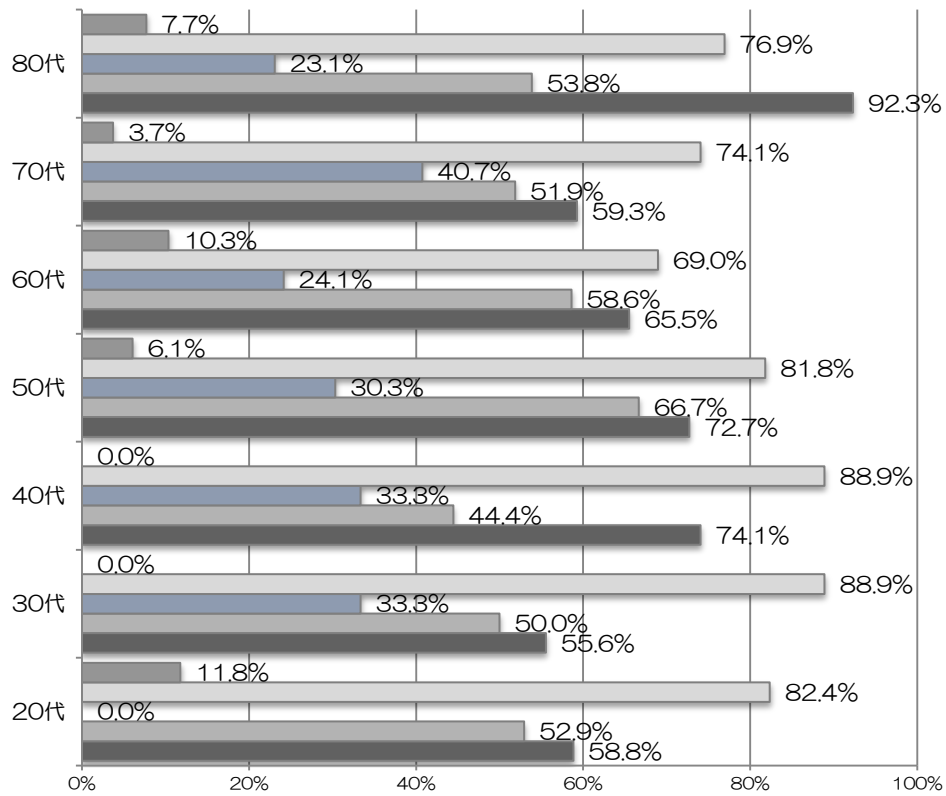
- 声かけに気をつけると答えた人が一番多く約8割である。
- 対応方法を知っている人は、多い項目でも8割程度と少ない。

●うつ病の人に対する知っている対応方法

①全体・男女別



②年代別 ■その他 □声かけに気をつける ■保健師等へ相談する ■休養を勧める ■専門医の受診を勧める



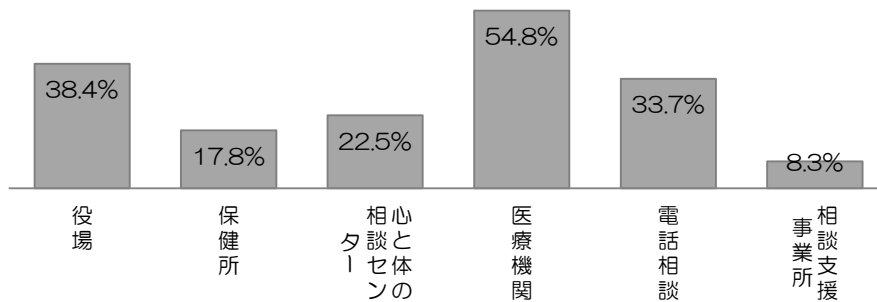
問11 心の健康についての相談の場として、知っているものすべてに○をしてください。（複数回答あり）

【現状】

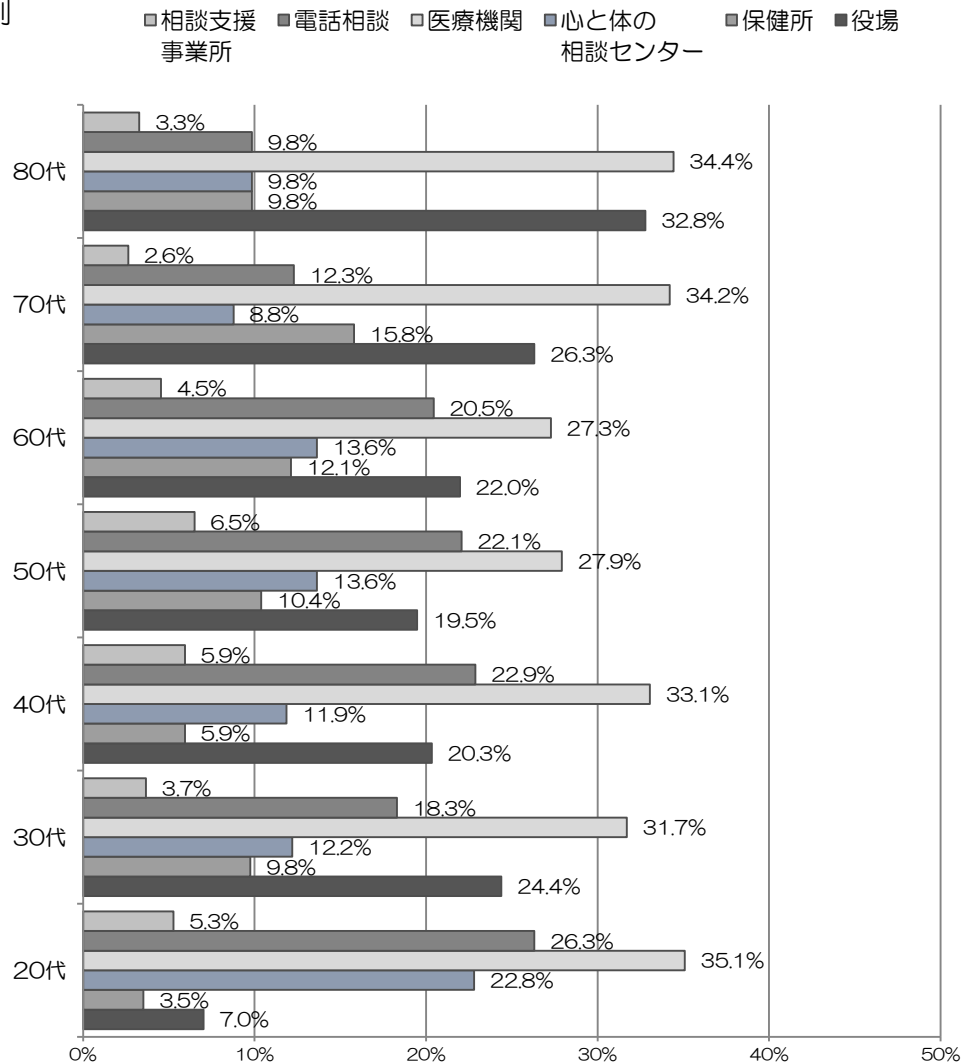
- 心の健康の相談の場で知っているものとして、医療機関と答えた人が半数である。役場は約4割、相談支援事業所は1割弱と少ないが、H21年度調査と比べると増加している。
- 電話相談は若い年代ほど知っている人が多い。
- 乳幼児の健診等での関わりが多い30歳代と70・80歳代では、役場と答えた人が多い。

●心の相談場所として知っている人の割合

①全体



②年代別



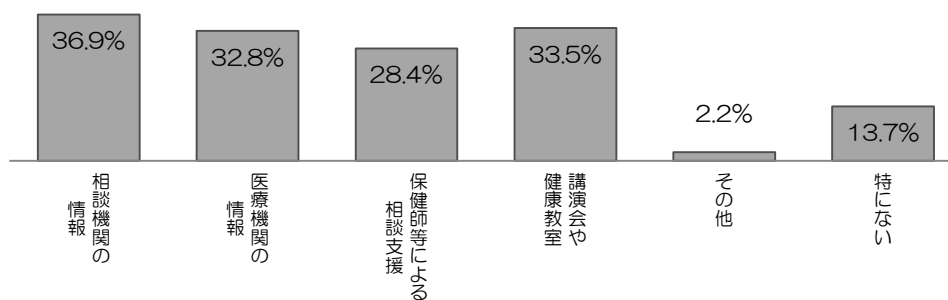
問12 邑南町において心の健康づくりに取り組むにあたり、どのような取り組みがあれば役立つと思われますか。（複数回答あり）

【現状】

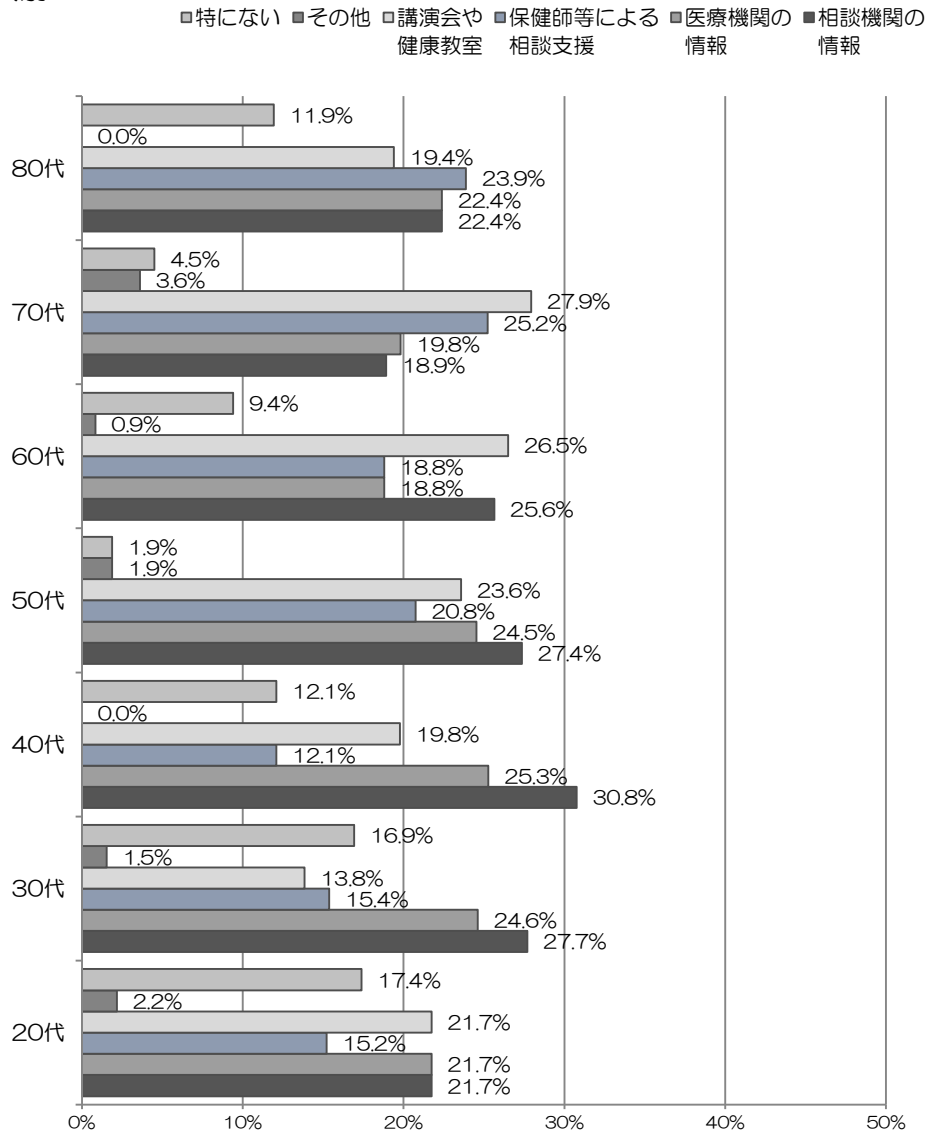
- 相談機関の情報が36.9%、医療機関の情報32.8%、講演会や健康教室33.5%であり、情報提供を望む声が多い。

●心の健康づくりに役立つと思う取り組み

①全体



②年代別



3) 考察

(1) 食生活

○朝食を毎日食べている人は全体で約 9 割あるが、20～40 歳代の若い男性で朝食を食べない人が多く 2 割を超えている。また、朝食で野菜を食べている人は約半数と少なく、特に 20・30 歳代で少ない。若い世代へは朝食を食べてもらうための働きかけをしていくこと、朝食を食べている人へは朝食の栄養バランスについて啓発をしていくことが必要である。

○野菜の摂取状況は、朝食 56.7%、昼食 73.3%、夕食 90.7%であり、朝食だけでなく昼食も 3 割弱の人が野菜を食べていない。生活習慣病予防の観点から野菜は 1 日 350g 以上摂取することが望ましいとされており、そのためには毎食野菜を食べる事が大切である。野菜の必要性や野菜を毎食食べることについて啓発していく必要がある。

○間食を毎日 2 回以上食べている人は全体で 2 割であるが、よく食べる間食として油脂や砂糖が多く含まれているスナック菓子、チョコ、菓子パン等があがっている。また、嗜好飲料を週 4 日以上飲む人が 3 割以上ある。生活習慣病の人が増加していることを考えると、菓子類や嗜好飲料のエネルギー量や糖分等についての情報提供が必要である。

○食に関する必要な情報が得られている人は 2 割弱、情報が得られにくい、得られていない人が 3 割を超えている。特に 20・30 歳代の若い世代で情報が得られていない人が多い。20・30 歳代は自分にあつた食事内容や量について知らない人が多いことや栄養バランスを意識していない人が多いことから、若い世代の食への関心を高めるために情報提供をしていく必要がある。

(2) 運動

○運動に関心がある人は全体で 8 割と多いが、定期的に運動している人は約半数と少ない。運動への関心が運動の実践へとつながっていくための働きかけが必要である。

○運動に関心がない人は全体で 2 割、特に男性は 3 割ある。生活習慣病予防・介護予防のためには、運動等を取り入れて活動量を増やしていくことが大切である。生活の中で意識して動きを増やす方法等を紹介しながら、運動に関心がなく苦手な方でも無理なく取り組めるような啓発をしていく必要がある。

○運動の頻度は、月 1～5 回（週 1 回程度）の人が 4 割以上ある。生活習慣病予防のためには週 3 回以上、介護予防のためには週 2 回以上の運動が望ましいとされている。手軽

に生活の中に取り入れることができる運動の紹介等を行い、運動頻度を増やしていくための啓発が必要である。

(3) たばこ・アルコール

○働き盛りの世代（40・50 歳代の男性）の喫煙率は半数を超えている。また、喫煙者の半数はたばこをやめたいと思っており、特に 60 歳代では 8 割の人がやめたいと回答している。たばこをやめるために望む支援として、禁煙外来を知りたい人が多いが、郡内の加藤病院が禁煙外来をしていることを知っている人は全体で 1 割と少なく、禁煙外来の周知が必要である。

○禁煙に関する情報を知っている人は全体で約 6 割であるが、30 歳代では 34.9%と最も低く、子育て世代への情報提供が不十分である。子どもへの禁煙教育を行ううえでも、学校や職域と協力し若い世代への情報提供が必要である。

○たばこの煙が気になる人は全体で約 8 割である。また、たばこを吸わない人では煙が気になる人が 85.2%で吸う人に比べて多い。吸わない人がたばこの煙に晒されないように、分煙対策を強化する必要がある。

○お酒を飲む人の割合は 50 歳代が最も多く、そのうち毎日飲酒する人（休肝日がない人）の割合が、男性で 6 割、女性で 2 割である。適正飲酒の情報提供や個別指導を行っていく必要がある。

(4) 歯科保健

○歯の健康のために気をつけていることが、ひとつでもある人の割合は 86.1%であるが、定期的に歯科検診を受けている人の割合は約 1 割と少ない。セルフケア（自分でできるケア）の充実を図ると共に、医療機関でのプロフェッショナルケア（専門的なケア）を受けよう意識啓発をしていくことが必要である。

○歯科についての情報は聞いたことがない人が 36.4%で、特に若い世代では約半数が聞いたことがないと回答している。子育て世代の人は、保育所や小学校で歯科教室に参加しているものの、理解には至っておらず、若い世代への情報提供はより一層必要である。

(5) 心の健康

○生きがいがあると答えた人は全体で 64.5%であった。幸福感が少ない 20 歳代、40・50 歳代の男性で生きがいがないと答えた人が多い。20 歳代男性と 40 歳代男性は役割を持っていない人も多く、生きがいや役割を持つことの大切さを働き盛りの早い時期

から意識啓発していく必要がある。

- 地域の行事や集まりに積極的に参加する人は約半数である。特に 20～40 歳代、60 歳代で参加する人が少ない。また、心の病気や具体的対応方法について知っている人の割合は、H21 年度邑南町健康づくり意識調査結果に比べ高齢者は増加、20～40 歳代では減少している。情報提供を望む人も多くあり、地域の行事や集まりを利用した高齢者中心の情報提供だけでなく、幅広い年代へ伝える工夫が必要である。
- ストレスが大いにあった、多少あった人は、男女ともに約 8 割であり、H21 年度調査と比べて増加している。これは県の調査と比べても割合が高い。特に 60 歳代までの年代でストレスを感じている人の割合が高い。ストレスの原因は男女とも仕事が 1 番多く、職域との連携を強化する必要がある。
- 心の病気は誰でもかかりうる病気であること、自殺の原因にうつ病があることを知っている人はそれぞれ約 9 割であり、H21 年度調査と比べ増加している。一方、うつ又はうつ状態の人に対する対応の仕方を知っている人は約 4 割と少ない。また、相談相手として約 6 割が家族、半数近くの人が友人をあげており、家族や友人など身近な人が変化に気づき、正しい対応ができるようになるという視点で情報提供していく必要がある。

5. 目標設定の考え方

町計画目標	指標	性別等	現状値	目標値 (暫定値案) (33年度) ※33年度以外のものは 年を記載する。	現状値算出根拠 (平成23年度) ※23年度以外のものは年を記 載する。	目標値設定の考え方(案)	現計画 との比較 ◎:継続 ○:追加 △:修正 ◆:要検討	<参考> ◎:目標達成 ○:改善傾向 △:横ばい ▲:悪化傾向	備考
(1) 基本目標(2項目)									
1 平均寿命を延ばす	平均寿命	男 女	80.37 85.19	80.37以上 県平均にする	圏域目標値 (20年推計 18年~22年)	男性は、全国10位に該当する県平均の数値より高いので、80.37以上をめざす 女性は、現在全国一の県の数値をめざす圏域の目標値を設定	◎	◎ ▲	
2 65歳の平均自立期間を延ばす	65歳平均自立期間	男 女	17.58 20.84	17.83 20.84以上	圏域目標値 (20年推計 18年~22年)	男性は圏域の目標(県の目標値でもある)を設定 女性は圏域の目標値(県の目標値でもある)を達成しているので今より悪化させない。	◎	◎ ◎	
(2) 健康目標(76項目)									
1) 主要な健康指標の改善(2項目)									
1 地区ごとの健康づくりの推進	健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている町民、グループ数、自治会、集落数	活動項目別グループ数(重複あり) 栄養・食 運動 生きがい 自治会 集落 集落保健衛生委員 健康サポートリーダー 地域連度教室 認知症予防教室 支えあいミニディサービス	1 6 1 — — 206人 211人 22カ所 10カ所 34グループ	増やす	県央保健所調べ (平成24年11月1日現在) 町保健課調べ	健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている町民、グループ数、自治会、集落数を増やす	○		
	町前講座活用カ所 参加人数	成人 母子	71回 1,817人 11回 67人	増やす	//	内容を充実し利用者数を増やす	○		
2) 生涯を通じた健康づくりの推進(74項目)									
① 将来を担う子どもや若者の健康づくりの推進(子どもの目標)(21項目)									
1 規則正しい生活習慣づくりの推進	朝7時までに起きる幼児の割合	1.6歳児 3歳児	62.2%	70%	1. 6歳児、3歳児健診結果	健診結果等の実績経過をもとに独自設定 (参考値) H19年度50.3%、H20年度48.6%、H21年度45.6%、 H22年度49.6% H23年度までは横ばい	○		
	夜9時30分までに寝る幼児の割合	1.6歳児 3歳児	66.7% 41.4%	70% 60%	1. 6歳児、3歳児健診結果	健診結果等の実績経過をもとに独自設定。 (参考値) 1.6歳児: H19年度51.9%、H20年度60.3%、H21年度53.5%、 H22年度56.3% 若干上昇傾向 3歳児: H19年度55.0%、H20年度39.5%、H21年度39.5%、 H22年度38.3% ほぼ横ばい	○		
2 規則正しい食習慣づくりの推進	朝食に野菜を食べている幼児の割合	幼児	48.7%	60%	1. 6歳児、3歳児健診アンケート調査	アンケート結果等の実績経過をもとに独自設定 (参考値) H19年度64.9%、H20年度68.2%、H21年度57% 減少傾向	○		
	間食の時間を決めている幼児の割合	幼児	83.3%	90%	1. 6歳児、3歳児健診結果	健診結果等の実績経過をもとに独自設定 (参考値) H19年度79.0%、H20年度86.1%、H21年度83.7%、 H22年度88.1% 増加傾向	◎	◎	
	毎日ジュースを飲んでいる3歳児の割合	3歳児	21.4%	10%	3歳児健診結果	健診結果等の実績経過をもとに独自設定 (参考値) H19年度11.3%、H20年度3.9%、21年度9.2%、22年度 14.5%、23年度21.4% 年々増加	○		
	朝食を家族と一緒にほとんど毎日食べる幼児の割合		—	増やす	幼児の生活習慣アンケート調査(実施を検討)	アンケート調査実施後数値目標を具体的に記載する	◆		
3 身体を動かすことが好きな子どもを増やす	身体を動かすことが好きな幼児の割合		—	増やす	//	//	◆		

4	こころの健康づくりの推進	研修会回数、利用数		1回 191人	増やす	町保健課調べ	回数は継続開催し、内容を充実し、参加者を増やす	○		
		育児に自信がない人の割合	1.6歳児 3歳児	21.4% 30.0%	10.0% 20.0%	1. 6歳児、3歳児健診アンケート調査	健診結果等の実績経過をもとに独自設定 (参考値) 1.6歳児：H19年度13.1%、H20年度20.0%、H21年度19.7%、 H22年度21.4% 若干上昇傾向 3歳児：H19年度20.3%、H20年度28.4%、H21年度25.3%、 H22年度24.6% 若干上昇傾向	○		
		子どもと触れあいがある人の割合		—	増やす	幼児の生活習慣アンケート調査(実施を検討)	アンケート調査実施後数値目標を具体的に記載する	◆		
5	最初の1本を吸わせない取り組みの推進	未成年者の喫煙経験率(小学5・6年)	男 女	2.6% 1.2%	男女とも0% (H32)	未成年者の喫煙防止等についての調査(県)(H22年)	国の目標値を設定	◎	○	
		学校、施設の分煙状況	<小中学校> 敷地内禁煙 施設内禁煙 <公民館> 敷地内禁煙 施設内禁煙 <自治会館> 敷地内禁煙 施設内禁煙 喫煙場所指定 喫煙自由	4校 7校 0 12 0 22 6 11	敷地内禁煙 100% 敷地内禁煙を増やす 施設内禁煙を増やす	分煙状況(学校、自治会)	H23邑南町健康づくり調査の結果より、たばこの煙が気になる人は全体の約8割あった 受動喫煙の防止をするため、学校をはじめ、公共施設では敷地内、施設内禁煙を取り組む必要がある	◎	○	
6	子どもがお酒を飲まない、大人が飲ませない取り組みの推進	未成年者の飲酒経験率(小学5・6年)	男 女	11.6% 9.1%	0% 0% (H32)	未成年者の喫煙防止等についての調査(県H22)	国の目標値を設定	◎	○	
7	妊娠期からの継続したむし歯ゼロ・歯周病予防をめざす取り組みの推進	毎日点検みがきしている者の割合		83.5%	90%	1. 6歳児、3歳児健診結果(町)	過去の動向より検討 母数が少なく、傾向も似ているので1.6歳、3歳を合わせた数値にしている	○		
		3歳児一人平均むし歯数		0.39本	0.30本	3歳児健診(町)	県と同数値を設定	○		
		12歳児一人平均むし歯数		0.58本	0.41本 (H32)	島根県学校歯科検診結果(県H22)	県の考え方で算出(H22年度の70%)	○		
		中学1年歯肉炎を有する者の率		45.8% (歯肉1:38.9%) (歯肉2:6.9%)	35%	歯肉炎を有する者の率(%)	町独自設定(H23年度からの調査のため、比較数値なし)	○		
		フッ素塗布実施率		85.1%	90%	町保健課調べ	過去の動向より設定(H20年度:75.6%)	○		
		妊婦歯科検診受診率		25.8%	50%	//	過去の動向より設定(H21:28.5%、H22:34.4%)	○		
8	環境づくり	学校保健委員会を開催している学校割合		45.5%(5校/11校)	100%	教育委員会調べ	町独自設定	○		日貫小、矢上小、石見東小、石見中、石見南小、石見北小、石見南中、石見北中(1回以上開催は4校、石見中は授課はあっても開催なし)
		母子歯科保健検討会		1回/年	1回/年	町保健課調べ	町独自、現状を維持する	○		

②働き盛りの若者の健康づくりの推進(若者の目標)(29項目)

1	生活習慣病予防の食生活の推進	栄養バランスを概ね意識している人の割合	男 女	31.2% 47.2%	40% 55%	健康づくり調査20~60歳代(町)	現状と今後の事業展開等をもとに独自設定	○		
		朝食を毎日食べている人の割合	男 女	64.1% 91.1%	70% 増やす	健康づくり調査20~30歳代(町)	調査結果、県目標値等をもとに独自設定 (参考値)H21年度朝食食べない人が男15.4%女9.3%	○		
		野菜を毎食食べている人の割合	男 女	32.0% 43.8%	40% 50%	健康づくり調査20~60歳代(町)	現状と今後の事業展開等をもとに独自設定	○		
		塩分を取り過ぎないようにしている人の割合	男 女	—	増やす	//	アンケート調査実施後数値目標を具体的に記載する	△		
		間食を1日1回までにしている人の割合	男 女	95.3% 74.7%	増やす 80%	//	調査結果等をもとに独自設定 (参考値)H21年度 男80.4%、女66.7%	○		

2	自分にあった運動の実践と継続	定期的に（週1回程度）運動している人の割合	男	44.0%	50%	//	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 33.7%	△			
			女	41.4%	45%	//	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 38.9%	○			
		定期的に運動している人のうち、1日30分以上運動する人の割合	男	38.0%	50%	//	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 57.6%	△			
			女	43.9%	50%	//	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 58.8%	○			
		元気館利用者（18～64歳）の数	トレーニング プール	4,702人 2,619人	5,200人 2,900人	元気館利用者集計	現状値をもとに設定 今後、青壮年期対策に力を入れる予定であるので、現状より1割増を目指す	◎	◎		
運動に取り組む事業所の数	事業所数	—	100事業所	運動の取り組みに関するアンケート調査（町）	380事業所調査。現在の回答12事業所うち4事業所実施。実施率30%として380×0.3	○					
3	こころの健康づくりの推進	自殺による年齢調整死亡率全年齢	男	36.3	29.0	島根県人口動態統計（平成18～22年）	県の目標値（現状より2割減少を設定）を参考に独自設定 現状より2割減を目指す 【備考】目標値についてはH29年度目標※H27を中間年とした5年平均	◎	◎	▲	
			女	18.5	14.0			//	◎	○	▲
		// 壮年期	男	101.6	80.0	//	健康づくり調査20～60歳代（町）	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 男94.9%、女94.7% うつ（中分類：0504・0505）受診割合1.22%	◎	▲	▲
			女	48.3	38.0				//	◎	▲
		ストレス解消法がある人の割合	男	93.7%	増やす	健康づくり調査20～60歳代（町）	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 男94.9%、女94.7% うつ（中分類：0504・0505）受診割合1.22%	◎	▲	▲	
			女	93.8%	増やす			//	◎	▲	▲
		うつに対する正しい対応を知っている人の割合	男	41.1%	50.0%	//	調査結果をもとに独自設定（参考値）H21年度 男31.0%、女49.0%	△			
			女	51.8%	60.0%			//	△		
		睡眠による休養を十分にとっている者の割合	男	—	80.0%	//	現状値がないため、県の目標値を設定	○			
			女	—	80.0%			//	○		
相談窓口を知っている人の割合		87.8%	90.0%	//	調査結果をもとに独自設定	○					
講演会回数、参加人数	講演会数 参加人数	13回 302人 （内64歳以下206人）	増やす	町保健課調べ	回数は継続開催し、内容を充実し、参加者を増やす	◎	△	△			
健康相談等の開催回数、利用人数	回数 利用者	10回 17人	10回 増やす	//	//	◎	△				
こころの健康づくりに取り組んでいる事業所数	事業所数	15	増やす	事業所健康づくり調査（県H21）		◎	△				
県・国の事業等を有効活用されている事業所数	事業所数	4	増やす	//		○					
4	喫煙者への禁煙支援	喫煙率	男	42.5%	22.0%	健康づくり調査20～60歳代（町）	県の考え方（現在、禁煙したいと思っている者が全員禁煙成功した場合の喫煙率）	◎	○		
			女	3.4%	0.7%			//	◎	○	
		禁煙治療実施機関数		—	町内1機関	町保健課調べ	関係機関と調整し町内1機関を設定する	○			
禁煙情報を知っている人の割合		54.0%	70.0%	健康づくり調査20～60歳代（町）	町独自設定	○					
5	分煙対策の推進	分煙事業所数	敷地内禁煙 施設内禁煙 完全分煙 不完全分煙 検討中 取り組む予定なし	4.0 22.0 7.0 12.0 11.0 26.0	増やす	事業所健康づくり調査（県H21）		◎	○		
6	適正飲酒への支援	毎日飲酒する人の割合	男 女	42.1% 12.1%	31.6% 10.3%	健康づくり調査20～60歳代（町）	県の目標の考え方に準じて25%減らす // 15%減らす	○			
7	歯周病で歯を失わない取り組みの推進	一人平均残存歯数	45～54歳	25.91本	26.0本	県民残存歯数及び歯周疾患の状況調査（県H22）	県の目標値を設定	○			
			55～64歳	20.39本	24.0本（H32）			//	○		
		進行した歯周疾患のある者の割合	35～44歳	76.92%	60.0%	//	町独自 参考：（H22）25～34歳52.63%、35～44歳76.92%、45～54歳74.55%、55歳以降75%前後で推移している。35歳～44歳で歯肉状態が悪化しているため、現在の25～34歳が10年後悪化しないように目標値を設定	○			
			45～54歳	74.55%	65%（H32）			//	○		
定期的に歯科受診する者の割合		6.8%	20%	健康づくり調査20～60歳代（町）	町独自設定（県の数値は島根県歯と口腔の健康づくり計画に準じ、現状の1.5倍を設定（現状24.9%→37.4%へ目標設定））	◎	▲				
1日1回以上丁寧に歯を磨く人の割合		46.0%	80%	//	町独自設定	△					
8	環境づくり	職域検討会		-	1回/年	町保健課調べ	町独自設定	○			
		成人歯科保健検討会		-	1回/年	//	町独自設定	○			

③高齢者の健康づくり、介護予防、生きがいつくり、社会活動への支援（24項目）

1 介護予防の推進	65歳以上の年齢調整要介護者割合（要支援+要介護1）	男女	6.9% 12.5%	6.9% 12.5%	介護保険事業報告 (H24年3月末現在)	65歳以上の年齢調整要介護者割合（要支援+要介護1）を維持する	○		
	75歳以上の年齢調整要介護者割合（要支援+要介護1）	男女	10.2% 17.0%	10.2% 17.0%		75歳以上の年齢調整要介護者割合（要支援+要介護1）を維持する	○		
	65歳以上の年齢調整要介護者割合（要介護2-5）	男女	9.7% 16.5%	9.7% 16.5%		65歳以上の年齢調整要介護者割合（要介護2-5）を維持する	○		
	75歳以上の年齢調整要介護者割合（要介護2-5）	男女	14.2% 22.4%	14.2% 22.4%		75歳以上の年齢調整要介護者割合（要介護2-5）を維持する	○		
2 自分の健康状態にあった食生活の推進	栄養バランスを概ね意識している人の割合	男女	42.4% 54.3%	50% 60%	健康づくり調査70~80歳代 (町)	現状と今後の事業展開等をもとに独自設定	○		
	塩分を摂りすぎないようにしている人の割合	男女	—	増やす	〃	アンケート調査実施後数値目標を具体的に記載する	△		
	間食を1日1回までにしている人の割合	男女	78.7% 70.8%	80% 75%	〃	調査結果をもとに独自設定 (参考値) H21年度 男75.9%、女58.7%	○		
3 自分の健康状態にあった運動による介護予防の推進	定期的に（週1回程度）運動している人の割合	男女	52.9% 72.3%	55% 75%	〃	調査結果をもとに独自設定 (参考値) H21年度 男47.3%、女68.8%	△		
	定期的に運動している人のうち、1日30分以上運動する人の割合	男女	48.0% 38.6%	50% 50%	〃	調査結果をもとに設定 (参考値) H21年度 男40%、女40.9%	△		
	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を意識している人の割合		—	80%	健康づくり調査（町）	現状値がないため、全国の目標値を設定 (参考値) 〃	○		
4 地域におけるこころの健康づくりの環境整備を推進	睡眠による休養を十分にとっている者の割合	男女	—	80%	健康づくり調査70~80歳代 (町)	調査結果をもとに独自設定 うつ（07気分障害）に係る入院等の受診割合-0.35%（75歳以上）	○		
	うつ又はうつ状態の人に対する対応を知っている者の割合	男女	30.8% 36.9%	40.0% 50.0%	〃	調査結果をもとに独自設定 (参考値) H21年度 男31.0%、女40.9%	△		
	相談窓口を知っている人の割合		60.7%	70.0%	〃	調査結果をもとに設定	○		
	生きがいを持っている人の割合	男女	65.7% 67.5%	80.0% 80.0%	健康づくり調査60~70歳代 (町)	調査結果も考慮して県の目標値を設定 (参考値) H21年度 男44.6%、女44.4%	◎	○	○
	趣味を持っている人の割合	男女	70.1% 63.6%	80.0% 80.0%	〃	調査結果も考慮して県の目標値を設定 (参考値) H21年度 男64.2%、女57.1%	◎	○	○
	何らかの地域活動をしている高齢者の割合	男女	51.9% 71.6%	60.0% 80.0%	健康づくり調査70~80歳代 (町)	現状値が圏域よりよい傾向であるため、調査結果をもとに独自設定 (参考値) H21年度 男61.8%、女54.5%	○		
5 こころの健康づくりの取り組みの推進	自殺による年齢調整死亡率（65歳以上）	男女	41.7 31.8	33.0 25.0	島根県人口動態統計 (H18~22年)	県の目標値（現状より2割減少を設定）を参考に独自設定 現状より2割減を目指す 【備考】目標値についてはH29年度目標※H27を中間年とした5年平均	◎	○	○
	教室開催数、参加人数	講演会数 参加人数	13回 302人 (内65歳以上96人)	増やす	町保健課調べ	回数は継続開催し、内容を充実し、参加者を増やす	◎	△	
6 喫煙者への禁煙支援	喫煙率	男女	7.0% 0%	減らす	健康づくり調査（70~80歳代） (町)	町独自設定	○		
	禁煙情報を知っている人の割合		76.0%	85%	〃	〃	○		
7 自分の歯を守る取り組みの推進	一人平均残存歯数	65~74歳	17.39本	19.0本 (H32)	県民残存歯数（H22年） 歯周疾患の状況調査（70~80代） (町)	県と同数値を設定 75~84歳は県にないのを削除	◎	▲	
	定期的に歯科受診する者の割合		7.7%	15%	健康づくり調査（70~80歳代） (町)	町独自設定	△		
	1日1回以上丁寧に歯を磨く人の割合		35.8%	50%	〃	〃	△		
8 環境づくり	介護予防実務者会議		—	増やす	町保健課調べ	〃	○		

(3) 疾病の早期発見、合併症・重症化予防の推進（17項目（再掲3含む））

1 糖尿病、高血圧予防の効果的な保健事業の推進	脳血管疾患、虚血性心疾患年齢調整死亡率	脳血管疾患 全男 全女 壮男 壮女 虚血性心疾患 全男 全女 壮男 壮女	36.3 21.4 20.5 6.3 24 31.3 20.5 6.3	36.2 16.4 4.9 2 21.9 7.1 19.1 0 (平成28年～32年)	島根県人口動態統計 (平成18年～22年)	第1次計画の目標を達成していなかったので目標をそのまま用いる // // 目標を達成、変化率を用いて目標値を算出6.3/22.6（ベースライン値）*6.3=1.76 第1次計画の目標を達成していなかったので目標をそのまま用いる // // //	◎ ◎	○ ○ ▲ ◎ ○ ▲ ▲ ◎	
	特定健診受診率	男 女 合計	47.7% (539人/1,130人) 56.5% (657人/1,163人) 52.2% (1,196人/2,293人)	60% (29年度)	邑南町特定健診・特定保健指導実施結果報告（国保法定報告）	第2期特定健診等推進計画と整合性をとる	◎	◎	
	40～64歳の適正体重を維持している人の割合 年齢調整肥満者割合 // 年齢調整やせの者の割合	男 女 女	26.1% 23.0% 5.6%	26.1% 23.0% 5.6% (平成29年)	//	今より高くしない	△		
	高血圧～収縮期血圧平均値	男 女	128.5mmHg 128.1mmHg	128.5mmHg 128.1mmHg (平成29年)	市町村国保特定健康診査結果データ（県）	圏域の考え方に準じて今より高くしない	◎	▲ ▲	
	LDLコレステロール160mg/d l以上の割合	男 女	7.7% 11.3%	7.7% 11.3% (平成29年)	//	独自設定だが今より高くしない	○		
	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	該当者 男 女 予備群 男 女	65人 39人 44人 (H20年度)	平成20年度と比較して25%減少 (平成29年)	邑南町特定健診・特定保健指導実施結果報告（国保法定報告）		○		
	年齢調整有病率（糖尿病・高血圧・脂質異常症）	糖尿病 男 女 高血圧 男 女 脂質異常症 男 女	7.3% (15.8%) 5.1% (10.6%) 34.3% (52.0%) 22.8% (52.5%) 33.5% (33.0%) 32.5% (53.9%)	7.3% (15.8%) 5.1% (10.6%) 34.3% (52.0%) 22.8% (52.5%) 33.5% (33.0%) 32.5% (53.9%) (平成29年)	市町村国保特定健康診査結果データ（県） 40～64歳（65～74歳）	圏域の考え方に準じて今より高くしない	△		
	血糖コントロール指標における不良者（HbA1cがNGSP7.4%以上、8.4%以上の者）の割合	7.4%以上 男 女 8.4%以上（再掲） 男 女	3.0% (21人) 1.0% (7人) 0.7% (4人) 0%	2.7% (15人) 0.7% (5人) 0.5% (3人) 0% (平成29年)	市町村国保特定健康診査結果データ（県）	圏域の目標に準じて3割減らす	○		
	糖尿病性の新規透析患者数		25% (3人/12人)	25% (34年8月)	邑南町国保データ連携システムレセプト（24年8月）	今より高くしない 町独自設定	○		
	2 がん対策の推進	年齢調整死亡率（全・胃・大・肺・子宮・乳・肝）75歳未満	全がん 男 女 胃がん 男 女 肺がん 男 女 大腸がん 男 女 肝臓がん 男 女 子宮がん 女 乳がん 女	92.8 64 17.4 10 17.2 3.2 6.9 3.5 5.4 16.9 2.4 4.6	79.8 40.9 14.9 1.8 12.7 3.2 2.6 3.5 5.4 14.2 1.8 0.8	人口動態統計 全がんと6つのがんを出す (胃、肺、大、子宮、乳、肝)	減少傾向・増加傾向にかかわらず、基本的には「島根県がん対策推進計画の低減割合を参考に（H17 からH27までに男性26%、女性20%低減）による算出値」とし、算出値が現状値（H20）より高くなる場合は「圏域目標値」をそのまま用いる。 ・がん計画による低減割合による算出値：下記以外 ・男性の胃がん：圏域目標値 ・男性の肝臓がん、女性の肺がん・大腸がん：圏域目標達成しているためこれ以上悪化させない 【備考】目標値についてはH29年度目標※H27を中間年とした5年平均	◎	

	各種がん検診受診率、精密検査受診率	受診率 胃がん 肺がん 大腸がん 子宮がん 乳がん 精密検査受診率 胃がん 肺がん 大腸がん 子宮がん 乳がん	23.0% 50.8% 40.6% 29.3% 42.5% 86.4% 78.9% 88.5% 90.0% 91.9%	30% 60% 50% 40% 50% 90% 90% 90% 90% (29年度)	地域保健・健康増進事業報告 (人間ドック除く) 壮年期(40~69歳、子宮がんは20~69歳)	受診率 肺がん、大腸がんは国の目標値である40%に達しているため、独自設定。胃がんは目標に達成していないが、達成可能な数値を独自設定 子宮がん、乳がんの国の目標値は50%であり、目標に達成していないが、達成可能な数値を独自設定 精密検査受診率独自設定 早期発見のため、精密検査は達成可能な90%をねらって取り組む	◎ ○ ◎ ◎ ○ ○			
3	環境づくり	医療機関との実務者会	—	1回/年	町保健課調べ	今より増やす 町独自設定	○			
		生活習慣病対策検討会	—	1回/年	〃	〃	○			
		がん対策検討会	—	回/5年(25~29年度)	〃	〃	○			
		母子歯科保健検討会(再掲)	—	1回/年	〃	取り組みを維持する	○			
		成人歯科保健検討会(再掲)	—	1回/年	〃	今より増やす 町独自設定				
		禁煙治療実施機関数(再掲)	—	町内1機関	〃	関係機関と調整し町内1機関を設定する	○			
(4)多様な実施主体における効果的な連携と体制づくりの推進(6項目(再掲3含む))										
1	地域、学校、職域と連携強化した町民運動の推進	健康増進計画認知している人の割合の増加	—	30%	健康調査(町)	町独自設定	○			
		出前講座を活用している職域・団体数	14回	増やす	〃	今より増やす 町独自設定	○			
		学校保健委員会を開催している学校割合(再掲)	45.6%(5校/11校)	100%	教育委員会調べ	〃	〃	○		白費小、矢上小、石見東小、笠原東中、石見中(1回以上開催は4校、石見中は設置はあっても開催なし)
		職域検討会(再掲)	—	1回/年	〃	〃	〃	○		
		健康づくりに関して具体的な取り組みを行っている事業所数の増加	—	増やす	事業所健康づくり調査(圏域)	町独自設定	〃	○		
2	保健と医療、介護、福祉と連携した取り組みの推進	介護予防実務者会(再掲)	—	増やす	町保健課調べ	〃	△			

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成21年3月変更）

- 2 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画 2-2 地域でいつまでも暮らせる環境づくり
- 平成21年2月26日 第4期邑智郡介護保険事業計画策定
- 平成21年2月26日 邑南町地域包括支援センター運営協議会開催
第4期邑智郡介護保険事業計画策定に伴う変更（案）の検討・承認
- 3 障害者計画・障害福祉計画 3-2 自立した暮らしを支援するサービス基盤づくり【障害福祉計画】
- 平成20年11月12日 邑南町地域自立支援協議会開催
第1期計画の現状と第2期計画の策定について説明
- 平成20年12月24日 邑南町地域自立支援協議会開催
第2期計画（素案）の検討・承認
- 平成21年2月24日 邑南町地域自立支援協議会開催
第2期計画（案）の検討・承認

邑南町地域保健福祉計画

- 平成21年3月3日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会開催
邑南町地域保健福祉計画変更（案）の検討・承認
（介護保険事業計画及び第2期障害福祉計画）
- 平成21年3月19日 邑南町議会開催
邑南町地域保健福祉計画変更（案）議決
（介護保険事業計画及び第2期障害福祉計画）

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成21年3月変更）

（平成22年3月変更）

- 2 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画 2-2 地域でいつまでも暮らせる環境づくり
- 平成21年2月26日 第4期邑智郡介護保険事業計画策定
- 平成21年2月26日 邑南町地域包括支援センター運営協議会開催
- 第4期邑智郡介護保険事業計画策定に伴う変更（案）の検討・承認
- 3 障害者計画・障害福祉計画 3-2 自立した暮らしを支援するサービス基盤づくり【障害福祉計画】
- 平成20年11月12日 邑南町地域自立支援協議会開催
- 第1期計画の現状と第2期計画の策定について説明
- 平成20年12月24日 邑南町地域自立支援協議会開催
- 第2期計画（素案）の検討・承認
- 平成21年2月24日 邑南町地域自立支援協議会開催
- 第2期計画（案）の検討・承認
- 4 次世代育成支援行動計画 全般
- 平成21年11月18日 児童福祉審議会開催
- 計画素案の検討・承認
- 平成22年 1月29日 児童福祉審議会開催
- 計画案の検討・承認

邑南町地域保健福祉計画

- 平成21年3月3日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会開催
- 邑南町地域保健福祉計画変更（案）の検討・承認
- （介護保険事業計画及び第2期障害福祉計画）
- 平成21年3月19日 邑南町議会開催
- 邑南町地域保健福祉計画変更（案）議決
- （介護保険事業計画及び第2期障害福祉計画）
- 平成22年2月25日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会開催
- 邑南町地域保健福祉計画変更（案）の検討・承認
- （次世代育成支援後期行動計画）
- 平成22年3月18日 邑南町議会開催
- 邑南町地域保健福祉計画変更（案）議決
- （次世代育成支援後期行動計画）

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成 23 年 3 月変更）

【総論・地域福祉計画】

- 平成 22 年 8 月 31 日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- 邑南町地域保健福祉計画の変更について説明
- 平成 23 年 2 月 25 日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- 邑南町地域保健福祉計画の変更について承認

【高齢者保健福祉計画】

- 平成 22 年 8 月 31 日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- 高齢者保健福祉計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 10 日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- 高齢者保健福祉計画の変更について承認

【障害者計画】

- 平成 22 年 5 月 21 日 邑南町地域自立支援協議会
- 障害者計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 8 日 邑南町地域自立支援協議会
- 障害者計画の見直しについて承認

【健康増進計画】

- 平成 22 年 7 月 27 日 健康長寿おおなん推進会議
- 健康増進計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 19 日 健康長寿おおなん推進会議
- 健康増進計画について承認

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成24年3月変更）

【総論・地域福祉計画】

- 平成22年8月31日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・ 邑南町地域保健福祉計画の変更について説明
- 平成23年2月25日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・ 邑南町地域保健福祉計画の変更について承認

【高齢者保健福祉計画】

- 平成22年8月31日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- ・ 高齢者保健福祉計画の見直しについて説明
- 平成23年2月10日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- ・ 高齢者保健福祉計画の変更について承認

【障害者計画】

- 平成22年5月21日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害者計画の見直しについて説明
- 平成23年2月8日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害者計画の見直しについて承認
- 平成23年5月27日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害福祉計画の見直しについて説明
- 平成24年2月13日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害福祉計画の変更について承認

【健康増進計画】

- 平成22年7月27日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画の見直しについて説明
- 平成23年2月19日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画について承認

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成 25 年 3 月変更）

【総論・地域福祉計画】

- 平成 22 年 8 月 31 日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・ 邑南町地域保健福祉計画の変更について説明
- 平成 23 年 2 月 25 日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・ 邑南町地域保健福祉計画の変更について承認
- 平成 25 年 2 月 19 日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・ 邑南町地域保健福祉計画の変更について承認

【高齢者保健福祉計画】

- 平成 22 年 8 月 31 日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- ・ 高齢者保健福祉計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 10 日 邑南町地域包括支援センター運営協議会
- ・ 高齢者保健福祉計画の変更について承認

【障害者計画】

- 平成 22 年 5 月 21 日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害者計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 8 日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害者計画の見直しについて承認
- 平成 23 年 5 月 27 日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害福祉計画の見直しについて説明
- 平成 24 年 2 月 13 日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害福祉計画の変更について承認
- 平成 25 年 2 月 6 日 邑南町地域自立支援協議会
- ・ 障害者計画・障害福祉計画の変更について承認

【健康増進計画】

- 平成 22 年 7 月 27 日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画の見直しについて説明
- 平成 23 年 2 月 19 日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画について承認
- 平成 24 年 6 月 7 日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画の見直しについて説明
- 平成 25 年 2 月 6 日 健康長寿おおなん推進会議
- ・ 健康増進計画について承認

■ 邑南町地域保健福祉計画変更経過（平成27年3月変更）

【総論・地域福祉計画】

- 平成22年8月31日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・邑南町地域保健福祉計画の変更について説明
- 平成23年2月25日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・邑南町地域保健福祉計画の変更について承認
- 平成25年2月19日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・邑南町地域保健福祉計画の変更について承認
- 平成27年3月5日 邑南町地域保健福祉計画推進協議会
- ・邑南町地域保健福祉計画の変更について承認

【障害福祉計画】

- 平成23年5月27日 邑南町地域自立支援協議会
- ・障害福祉計画の見直しについて説明
- 平成24年2月13日 邑南町地域自立支援協議会
- ・障害福祉計画の変更について承認
- 平成25年2月6日 邑南町地域自立支援協議会
- ・障害者計画・障害福祉計画の変更について承認
- 平成27年2月17日 邑南町地域自立支援協議会
- ・障害福祉計画の見直しについて承認

【子ども・子育て支援事業計画】

- 平成26年8月20日 日本一の子育て村推進本部会議
- ・子ども・子育て支援事業計画の策定について説明
- 平成27年2月26日 日本一の子育て村推進本部会議
- ・子ども・子育て支援事業計画の策定について承認

邑南町みんな^{しあわせ}幸福プラン

邑南町地域保健福祉計画

～こころ響きあい健やかに暮らす町づくり～

発行年月●平成19年3月

- 平成21年3月改訂
- 平成22年3月改訂
- 平成23年3月改訂
- 平成24年3月改訂
- 平成25年3月改訂
- 平成27年3月改訂

発行・編集●島根県邑南町

〒696-0192

島根県邑智郡邑南町矢上 6000

TEL : 0855-95-1111

I P : 050-5207-3008

FAX : 0855-95-2351